

写

令和7年(2025年)10月30日

長野県知事 阿 部 守 一 様

長野県景観審議会

会長 武 山 良 三

長野県景観育成計画の改定について（答申）

令和5年8月4日付け5都第266号で諮問のありましたこのことについて、別添のとおり答申します。

この答申は、当審議会で5回、審議会専門委員会で9回にわたり審議を重ねる中で、信州らしい景観の保全・育成の実現へ向けて、県全体及び広域的な視点で地域ごとの景観育成を推進するための方向性を取りまとめたものです。

貴職におかれましては、答申の趣旨に基づき、速やかに景観育成ビジョン及び景観計画を改定されるよう要望します。

# 長野県景観育成計画の改定について

(長野県景観育成ビジョンの策定及び景観計画の改定)

答 申

令和7年10月30日

長野県景観審議会

# 答 申 項 目

## 第Ⅰ編 長野県景観育成ビジョン

第1章 背景と目的

第2章 長野県の景観特性とビジョン策定の視点

第3章 景観育成の基本理念

第4章 景観育成の5つの取組

第5章 広域景観エリアの景観育成方針

第6章 長野県景観育成ビジョンの推進体制

長野県景観育成ビジョンの概要版

## 第Ⅱ編 長野県景観計画

第1章 景観計画の区域

第2章 景観育成の基本理念と良好な景観の育成に関する方針

第3章 良好な景観育成のための行為の制限

第4章 景観法、長野県景観条例に定める事項

第5章 公共施設の整備に関する事項

別冊：景観育成重点地域の景観計画

長野県景観計画の概要版

## 付属資料

# 第Ⅰ編 長野県景観育成ビジョン

ー共に磨き、未来につなぐ、美しく豊かな信州の景観ー

## ■長野県景観育成ビジョン 目次

### 第1章 背景と目的

1-1	ビジョン策定の背景と視点	1
1-2	景観育成に取り組むことによる効果	2
1-3	ビジョンの位置づけと計画期間	4
1-4	ビジョンの構成	4
	長野県景観育成ビジョンの構成	5

### 第2章 長野県の景観特性とビジョン策定の視点

2-1	長野県の景観特性と景観育成を取り巻く環境	6
2-2	ビジョン策定の5つの視点	13

### 第3章 景観育成の基本理念

3-1	景観育成の基本理念	14
3-2	景観育成の3つのビジョン	15
3-3	パートナーシップによる景観育成	16

### 第4章 景観育成の5つの取組

4-1	ビジョンに基づく取組方針と方策	17
4-2	ビジョン1に基づく取組方針と方策	18
	～観る者が感動する信州の美しい景観を、大切に、守りつないでいく～	
4-3	ビジョン2に基づく取組方針と方策	24
	～身近な自然・農村・歴史・文化を尊重し、地域の誇りとなる景観を守り育む～	
4-4	ビジョン3に基づく取組方針と方策	28
	～あらゆる主体の豊かな感性がつながり合い、信州の景観を磨き上げていく～	

### 第5章 広域景観エリアの景観育成方針

5-1	広域景観エリアの景観育成方針の作成方法	32
5-2	広域景観の育成を先導する取組について	33
5-3	活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーンの位置づけ	35
5-4	景観資源を活かしたエリアブランディングの取組	38
5-5	広域景観エリアシートの構成と内容	39
12	広域景観エリアの景観育成方針	41

### 第6章 長野県景観育成ビジョンの推進体制

6-1	推進体制	65
6-2	進捗管理の方法	66

## 第1章 背景と目的

### 1-1 ビジョン策定の背景と視点

長野県では、平成4年に自主条例である長野県景観条例を制定し、信州における景観育成の取組がスタートしました。その後、平成17年の景観法施行に伴い、法に基づく長野県景観条例及び長野県景観育成計画を策定し、条例制定時から今日に至るまで、景観育成重点地域の指定による信州の景観の骨格や顔となる地域の景観保全、170地区を超える景観育成住民協定による住民主体の景観育成、市町村の景観行政団体への移行支援、屋外広告物条例の運用による地域主体の景観育成に取り組んできました。

一方、長野県景観育成計画策定から18年が経過し、本格的な人口減少社会の到来や市町村の景観行政団体への移行が進む中で、地域の魅力向上やエリア全体の価値を高めていく広域的な景観育成が課題となっています。行政界を超え、広域的な景観価値を高めるためには、地域ごとの景観育成の基本方針を明確にし、あらゆる主体が景観育成の理念を共有しながら取組を進めていく必要があります。

これらを踏まえ、県民及び市町村の意向を把握しながら、より効果的に「信州らしい」景観の育成・保全の実現を目指し、県全体及び広域的な視点で地域ごとの景観育成の方針を示した「長野県景観育成ビジョン」を策定します。

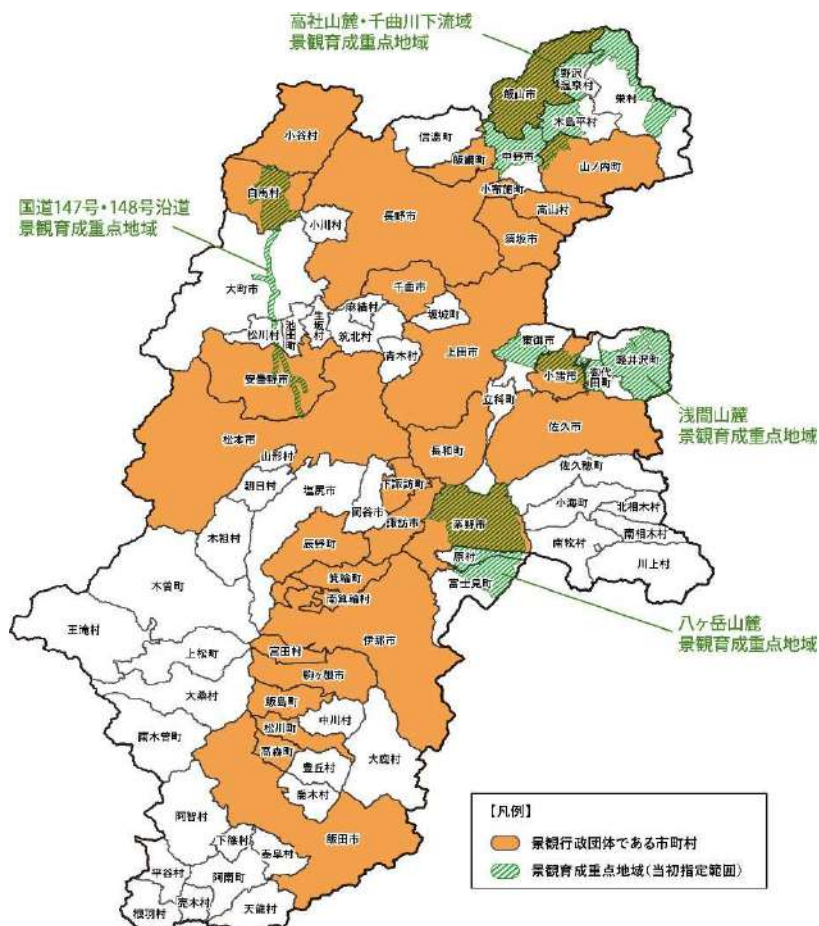


図 長野県における景観行政の状況(令和7年3月現在)

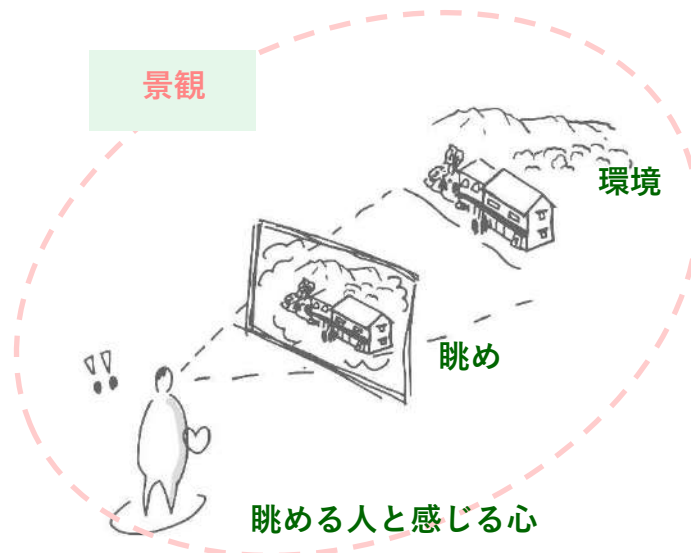
## 1-2 景観育成に取り組むことによる効果

### 1) 「景観」とはなにか？

景観とは、私たちが日頃から目にする「山並み・水辺等の自然や田園」「建築物等のまち並み」「生業や祭礼等の活動の様子」などの環境の眺めであり、「きれいだな」「気持ちいいな」と感じる“見る人”の“心”も含まれています。素晴らしい景観は、感性を刺激し、私たちの生活をより豊かなものにしてくれます。

長野県は、峻険な山々に囲まれ、豊かな森林を持ち、数多くの清冽な溪流、河川、湖沼等に恵まれた、日本全国で、あるいは世界中でも有数の美しい自然を有しています。

その美しい自然と、先人により育まれた歴史、文化、風土等とが織り成す美しく豊かな信州の景観は、地域に暮らす人々により、世代を越えて受け継がれ、県民の大きな誇りであり、貴重な社会的共通資本です。



### 2) 長野県における「景観育成」の概念

長野県では、景観を享受する者自らが主体的に関わりを持ちながら守り育てていくものであることを念頭に、多様な信州の景観資源を尊重し、そこからもたらされる「景観」を「育成」し次世代に引き継ぐという精神のもと、取組を進めてきました。

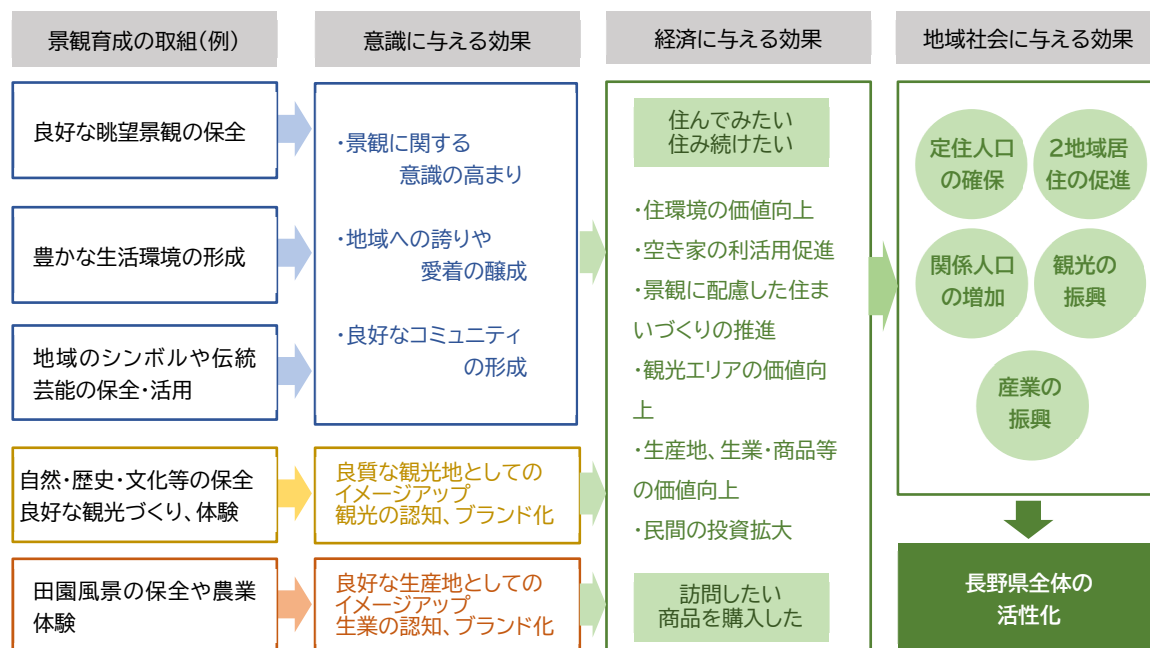
なお、長野県景観条例には「景観の育成」を次のように定義しています。

#### 長野県景観条例 第2条(定義)より

この条例において「景観の育成」とは、地域の自然的、社会的、経済的及び文化的諸条件に配慮しながら、良好な景観を次世代に引き継ぐよう、これを形成し、及び育てることをいう。

### 3) 景観育成に取り組む効果

長野県、関係市町村、県民、関係団体、企業等が連携し、景観育成に取り組むことにより、地域の誇りや愛着の醸成、良好な観光地や生産地としてのイメージアップが図られることで、エリアの価値が高まり、定住人口の確保や関係人口の増加、観光・産業の振興が図られ、長野県全体が活性化することが期待されます。



#### ■県民・来県者の声(県民・来県者アンケート結果より)

2024年5月25日～6月3日に県民、6月6日に来訪者を対象として実施。有効回答数は県民1,008件、来県者1,028件。

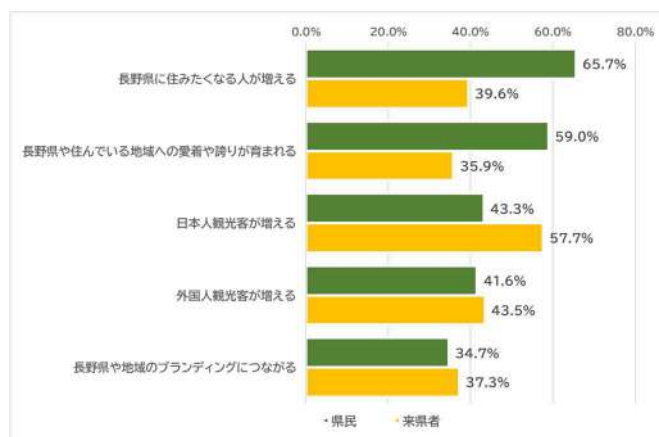


図 景観が良くなることのメリット(県民の回答が上位5つ)

景観が良くなることで、「長野県に住みたくなる人が増える」、「長野県や住んでいる地域への愛着や誇りが育まれる」との認識が高く、「観光客が増える」「ブランディングにつながる」ことにより、経済・観光・交流の活性化への期待が伺える。

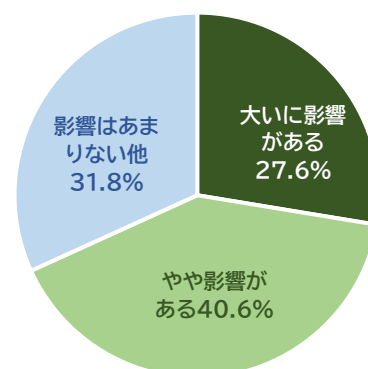


図 景観の良し悪しが来訪意欲に与える影響

景観の良し悪しが来訪意欲に与える影響に対し、約7割が「大いに影響がある」「やや影響がある」と回答している。

※来訪目的がビジネス等の場合を除く

### 1-3 ビジョンの位置づけと計画期間

本ビジョンは、しあわせ信州創造プラン 3.0 のほか各分野の計画や施策を踏まえ、長野県全域の景観育成に関する目標や方針及び施策を明示します。長野県及び景観行政団体市町村は、本ビジョンを踏まえ景観法の活用や景観施策を展開します。

また、本ビジョンの計画期間は概ね 10 年間とし、令和 17 年度（2035）までとします。

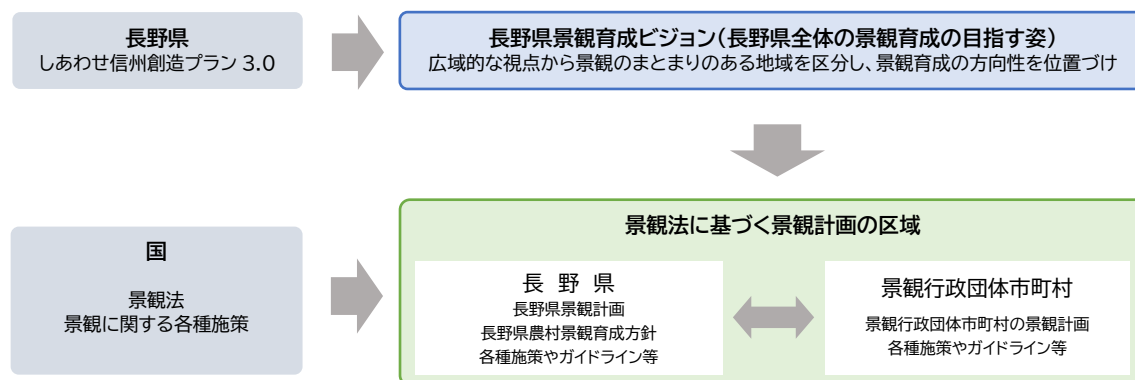


図 本ビジョンの位置づけ

### 1-4 ビジョンの構成

本ビジョンは 6 章で構成するものとします。第 2 章では長野県の景観特性を明らかにし、取り組むべき視点を整理します。第 3 章では景観育成の基本理念及びビジョンを示し、第 4 章では、景観育成の取組の方策を示します。第 5 章では広域景観エリアごとに景観育成の基本目標及び基本方針を定めます。第 6 章では、景観育成ビジョンの推進体制と進捗管理の方法を明記しています。

# ■長野県景観育成ビジョンの構成

## 第1章 背景と目的

- ・ ビジョン策定の背景と視点/景観育成に取り組むことによる効果/ビジョンの位置づけと計画期間/ビジョンの構成

## 第2章 長野県の景観特性と ビジョン策定の視点

### 2-1 長野県の景観特性と景観育成を取り巻く環境

景観特性:地形/歴史/生業/生活/眺望/祭礼/行事  
景観構造の特性:基本構造/空間的広がり  
今後の景観育成を取り巻く環境

- ・地域への愛着や誇りの醸成、交流・関係人口の獲得
- ・広域的、身近な暮らしの視点からの景観育成
- ・新たな技術との調和、環境や自然災害等に対応した持続ある景観育成
- ・「自然や食」、「生産者や企業」との連携を視野に入れた景観育成

### 2-2 ビジョン策定の5つの視点

- |     |   |
|-----|---|
| 視点1 | ・市町村の行政界を超えた広域景観に影響を及ぼし得る事象や行為への対応<br>・広域的な視点からエリアの価値を高める景観育成の取組を推進 |
| 視点2 | ・公共施設における都市・地域と一体的なデザインによる質的向上                                      |
| 視点3 | ・環境配慮型の都市・地域づくり、施設づくりの景観誘導  |
| 視点4 | ・景観育成の担い手である生産者・事業者等の支援・連携の強化                                       |
| 視点5 | ・市町村と県の役割分担の整理と必要な支援策の継続・強化   |

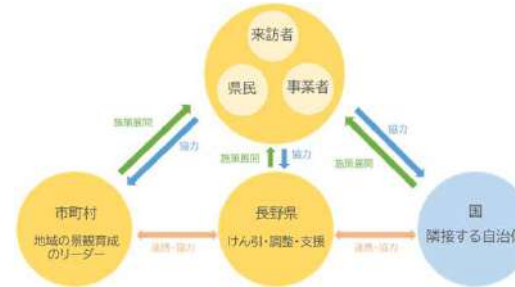
## 第3章 景観育成の基本理念

### 3-1 景観育成の基本理念

共に磨き、未来につなぐ、美しく豊かな信州の景観

近年の社会情勢や環境の変化により景観を取巻く状況も大きく変化する中で、素晴らしい長野県の景観を未来につないでいくためには、多様な主体と連携し協働した取組を進め、信州の景観を更に磨き上げ、郷土愛や人とのつながりを生み出すために景観育成の基本理念を上記のとおり掲げます

### 3-3 パートナーシップによる景観育成



主体ごとの役割を整理

- ・県 民⇒景観育成の主体
- ・事業者⇒景観育成の主体
- ・来訪者⇒景観育成に協力
- ・市町村⇒地域の景観育成のリーダー
- ・長野県⇒県全体の景観育成をけん引

### 3-2 景観育成の3つのビジョン

- ビジョン1～広域的な景観育成の視点～  
「観る者が感動する信州の美しい景観を、大切に、守りつないでいく」
- ビジョン2～身近な景観育成の視点～  
「身近な自然・農村・歴史・文化を尊重し、地域の誇りとなる景観を守り育む」
- ビジョン3～多様な主体との連携の視点～  
「あらゆる主体の豊かな感性がつながり合い、信州の景観を磨き上げていく」

## 第4章 景観育成の5つの取組

- 取組方針① →主体:長野県  
広域的な景観育成を先導します  
・広域景観エリアを設定し、景観育成の方向性を明示  
・重点的に景観育成に取り組むエリアを設定し市町村連携
- 取組方針② →主体:市町村・長野県  
戦略的に眺望景観を活用します  
・眺望点(ビューポイント)の指定や保全  
・広域景観保全の仕組みを導入(広域景観アセスメント制度)
- 取組方針③ →主体:長野県  
公共空間の質を高めます  
・公共事業景観育成指針の運用  
・広域的な公共整備の景観協議の仕組み
- 取組方針④ →主体:県民・事業者・市町村・長野県  
身近な自然・農村・歴史・文化を活かします  
・長野県農村景観育成方針の展開  
・農山村風景や自然風景、歴史・文化
- 取組方針⑤ →主体:県民・事業者・市町村・国・長野県  
多様な人材と協働・連携で推進します  
・勉強会や交流の機会を通じて、景観育成の取組強化  
・市町村が主体となった景観行政の実現

## 第5章 広域景観エリアの景観育成方針

### 1 基本目標

- ・広域景観エリアの景観特性を踏まえた基本目標を設定
- ### 2-1 広域景観の育成を先導する取組
- ①活かしたい眺望景観
  - ②景観のまともりにおける広域景観育成の推進
  - ③景観軸における広域景観育成の推進

- ### 2-2 景観資源を活かした エリアブランディングの取組
- ・住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上
  - ・歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

## 第6章 長野県景観育成ビジョンの推進体制

### 6-1 推進体制

関係機関との横断的な体制を整え計画的に進捗管理を実施

### 6-2 進捗管理の方法

PDCAサイクルによる進捗管理

- ・PDCAサイクルの考え方に基づく進捗管理を行いながら計画的な取組を推進
- ・定期的な進捗管理、5年を目途に必要に応じて長野県景観育成ビジョンの見直し

実行計画の作成

- ・景観育成に直接関連する事業と間接的に関連する事業とに整理を行い実行計画を作成し、進捗管理を行います

## 第2章 長野県の景観特性とビジョン策定の視点

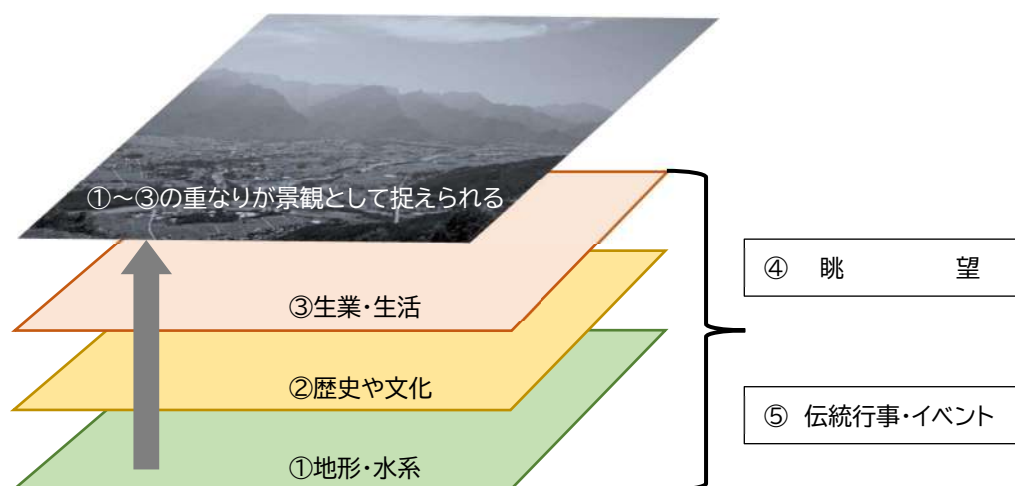
### 2-1 長野県の景観特性と景観育成を取り巻く環境

#### 1) 長野県の景観特性

長野県は、日本アルプスをはじめ、壮大な山々が連なり、世界的に類まれな山岳景観を有しています。山々から流れる溪流の美しさや多様な植生が織り成す自然環境、高山から山麓の高原の景勝地や著名な休養地など、豊かな四季の彩りを持つ山岳観光地です。

また、山々を縫うように日本を代表する河川が流れ、人々の日常活動はこの河川が作り出した平坦地を中心に形成されてきました。その平坦地は山々により分節され、南北に長い県土による気候差などから、各地域が独自の歴史や風土を育み、個性豊かな景観を生み出しています。

このような本県の状況を踏まえ、自然的な景観を主とした「①地形・水系」、歴史的な景観を主とした「②歴史や文化」、主に平地に広がる「③生業・生活」の3つの視点から、長野県の景観特性を概観します。また、①～③の状況を感じられる「④眺望」と、各地域の生活や暮らしに根付いている「⑤伝統行事・イベント」の2つの側面から特性を把握します。



#### ①地形・水系

本県は、西境の北アルプス、南東境の南アルプス、妙高火山群など、四方を 2,000～3,000m 級の山に囲まれ、その中に八ヶ岳連峰、中央アルプス等の諸山岳が重なりあい、複雑な地形を構成しています。八ヶ岳や浅間山麓をはじめとする高原も多く、平地の形状として松本平、善光寺平などの扇状地や、天竜川、木曽川流域に見られる河岸段丘などがあります。

植生は、上信越境地帯の山地と戸隠山一体及び北アルプスにはブナの自然林が残され、その下部にはミズナラの二次林が広く分布しています。北アルプス南部、中央・南アルプス、八ヶ岳などの標高の高い地域は、高山・亜高山帯自然植生が広く認められ、それら山腹はアカマツ、カラマツ等の植林が広い範囲を占めています。また、木曽谷のヒノキの自然林、扇状地や段丘上の果樹園、高地の山麓部の高原野菜畑の広がりなど、生活に根ざした植生や農業も重要な特性の一つです。

水系は、千曲川、木曽川、天竜川などの源は本県に発しており、天竜川、木曽川は南に流れて太平洋に注ぎ、千曲川は犀川と合流して信濃川となり、北に流れて日本海に注いでいます。これら流域に平地が広がり、千曲川流域の佐久平・善光寺平、犀川流域の松本平、天竜川流域の伊那谷、木曽川流域の木曽谷、諏訪湖を中心とした諏訪盆地があります。

近年、山岳や高原のリゾート地では通年型観光への転換が進められ、四季を通じて来訪者が増えています。また、美しい溪谷や湖面を利用した新しい楽しみ方も生まれるなど、本県の自然景観はますます重要性が高まっています。



開田高原(木曽町)



ビーナスライン(茅野市他)

## ②歴史・文化(旧街道、旧城址等)

本県は、古くから東日本と西日本の接点であり、異なる地域文化を繋ぐ交通網の発達と「平」や「谷」ごとの文化の継承により、多くの地域文化が織り成す豊かな地域性を有しています。

また、それら地域性を象徴する史跡等は、文化の香りと歴史の重みを今に伝えています。

江戸時代を中心に整備された中山道や甲州街道、北国街道等の沿道には、古いまち並みや宿場の面影を色濃く残す地区も複数見られます。また、山や川などの自然を活かし、固有の歴史的背景を持つ大小の城・城址が複数あり、松本城と城下町の姿を留める地区など、面的に歴史的な景観が見られます。さらに、日本を代表する社寺である善光寺、戸隠神社、諏訪大社は歴史的シンボルであり、その門前や参道のまち並みの保全・活用が進められています。



松本城(松本市)



善光寺表参道(中央通り、長野市)



妻籠宿(南木曽町)

### ③生業、生活(田園、都市・市街地)

#### ●田園:農地や集落を中心とした田園景観

田園景観は、河川沿いの低地に広がる田畑と、山麓や高原に広がる農地、地形を生かした棚田などが見られます。また、拾ヶ堰や塩沢堰、八ヶ郷用水、坂本養川堰などの土地改良による田園景観、山麓や扇状地端では湧水群などの固有の景観を生み出しています。さらに、山麓や森、溪谷などでは温泉が湧出しており、県内各地において、古いまち並みと湯けむりが風情ある景観を生み出しています。また、野沢温泉村では激しく湯けむりをあげる麻釜で野沢菜を洗う人々の姿が冬の風物詩として認知されています。

#### ●生活:都市や市街地のまち並み景観

長野駅や松本駅などの主要な鉄道駅を中心に商業・業務・住宅などによる都市的な景観が形成されています。また、飯田市内にリニア中央新幹線の新駅が建設中であり、新たな都市景観の創出が期待されています。



稲倉の棚田(上田)



温泉の湯を使ったお菜洗い  
(野沢温泉村)

### ④眺望:地形が生み出す山・山並みや田園への眺望景観

四方を山に囲まれた地勢と地形的特性から、山並みと生業・生活が一体的に眺められることが大きな特徴です。安曇野市長峰山から安曇野の田園風景と北アルプスを眺めた作家の川端康成、井上靖、東山魁夷は、「残したい静けさ、美しさ。」と絶賛しました。このように、著名人からも評価される眺望景観が各地域に見られ、四季の変化とともに多彩な景観を楽しめます。



姨捨の棚田(千曲市)

### ⑤伝統行事・イベント

諏訪大社の神事・御柱祭をはじめ、民俗芸能の宝庫と言われる南信州の遠山の霜月祭り、新野の雪祭り、大鹿歌舞伎などの地域ごとの伝統行事は、信州の景観育成に欠かせない魅力的な生活文化の一つです。また、諏訪湖の花火大会など、各地で季節のイベントが行われています。



大鹿歌舞伎(大鹿村)

## 2)長野県の景観構造としての特性

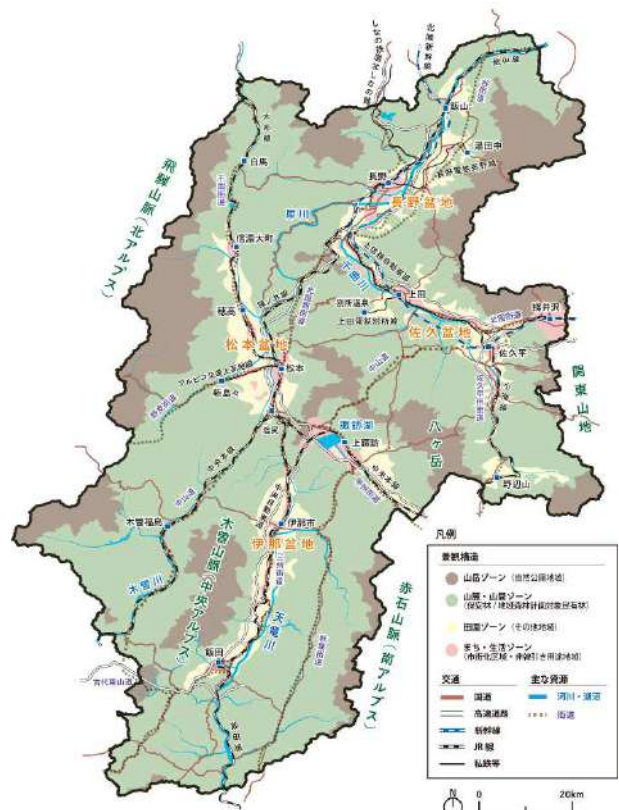
### ①長野県の景観の基本構造

広域景観の基本的な構造は、低地・台地は主な河川流域に沿って立地し、平や谷を形成し、人間の諸活動の主領域として、「まち・生活（都市）」や「田園」として景観の主軸となっています。また、この領域の両側には地域景観の背景の主要要素である山並み（山岳）であり、休養地や林産物の生産地でもある「山麓・山間」があります。さらに、個々のこうした領域を「道路・鉄道」や「街道」、「河川」が繋いでいます。

眺望は、道路や鉄道などからの眺め（シークエンス）に加え、農地や集落の後背の高台から山・田園・まち全体を見渡すパノラマ景観が得られることが特徴となっています。



高倉集落(上松町)



### ②空間的なまとまりとつながり

本県は、4つの区域区分（北信、中信、東信、南信）と10の行政区域があり、基本的な生活圏が形成されています。一方で、軸的なつながり（主に道路・鉄道や街道）や視覚的なつながり（北信五岳、北佐久から八ヶ岳、浅間～蓼科～八ヶ岳～関東山地）に見られるように生活圏を超えたつながりを有しています。さらに、中山道や甲州街道、千国街道（塩の道）などの旧街道を通じて、太平洋や日本海、大都市圏（東京、中京、関西）と深い結びつきがあり、日本の背骨の中心として、県域を超えた関係性がみられます。

その結果、地域ごとの気候や風土に根付いた生活や文化が醸成され、それが固有の景観を育んできました。今後、広域的な景観育成については、地域固有の景観を磨きながら、地域相互に連携を図ることで、信州全体の魅力向上につながるといえます。

### 3)今後の景観育成を取り巻く環境

「しあわせ信州創造プラン 3.0」に示された長野県の特性と現在を取り巻く社会情勢や、県民・来県者及び県内市町村へのアンケート調査結果を踏まえ、今後の長野県の景観育成を取り巻く環境を整理します。

#### ■県民の地域への愛着や誇りの醸成、交流・関係人口の獲得

##### ● 少子化と人口減少の急速な進行

本県を含む全国的な人口減少により、空き家・空き地等の増加、活力や景観の質の低下が進行している。また、県民の地域への愛着や誇りを育み、担い手の確保を進める必要がある。

##### ● 東京一極集中から地方分散への動き、ライフスタイルや価値観の多様化

本県を取り巻く広域交通網の拡張による人々の交流や経済圏の拡大、国民の働き方の変化や二地域居住などの推進による、交流・関係人口の増加への対応が求められている。

##### ● 身近な景観育成への支援等(アンケート調査結果より)

景観住民協定の支援、表彰制度などの景観を考えるきっかけづくりなどが求められているほか、市町村職員のノウハウや人員不足、景観育成施策支援が求められている。

#### ■広域的な視点と身近な暮らしの視点からの景観育成

##### ● 自律分散型の県土と地域ごとの多様な文化

本県は小規模市町村が多いことから、行政間の連携した取組が重要である。また、自然環境と歴史により育まれた地域独自の文化や風習を尊重し、活用すべきである。

##### ● 地域で育まれてきた特色ある産業

本県の特性である再生可能エネルギーにも貢献する林業の生産、質の高い農畜産物・水産物の供給、明治・大正期の製糸業から構造転換を経た三次産業の集積という特色ある産業と共存した景観育成が求められている。

##### ● 快適で魅力あるまちづくりの推進

中心市街地の再生やウォークアブルなまちづくりによるコンパクトシティの推進、都市公園や街路樹の道路空間の整備等により、みどりが持つ多様な機能を活用したまちづくりの推進が求められている。

##### ● 広域的な眺望景観の育成(アンケート調査結果より)

眺望や自然、歴史・生業・暮らしの景観が高い評価を得ていることから、広域的な眺望景観の育成と支障行為(大規模な建築物や太陽光パネル等)への対応等が求められている。

##### ● 市町村間連携の機会等を創出(アンケート調査結果より)

県と市町村における景観育成に関する基本的な方向性の共有、市町村間の連携及び広域景観を単位とする協議の機会の創出などが求められている。

## ■新たな技術との調和、環境や自然災害等に対応した持続ある景観育成

### ● 社会におけるデジタル化の急速な進展

本県並びに全国的にも中山間地域におけるデジタル技術の活用や先端技術の活用が進んでおり、これら新技術と景観の調和が求められている。

### ● 気候変動や自然災害への対応

本県並びに全国的にも地球規模の環境への配慮やゼロカーボンに向けた施設の増加、激甚化する自然災害に対応した河川等の土木工事やグリーンインフラの取組が進められており、今後、持続ある景観づくりが求められている。

## ■「自然や食」、「生産者や企業」との連携を視野に入れた景観育成

### ● 生産者や企業との連携

本県では、地産地消の動きの活発化やワインバレー構想等、食に関する生産者や企業との連携やパートナーシップを通じた景観育成の可能性を秘めている。

### ● 自然を生かした観光等との連携や信州らしい景観育成やブランディング

全国的な傾向として見られるコロナ禍を経験したことによる更なる自然への回帰や観光ニーズの高まりを受け、自然を生かした観光等との連携を視野に入れることで、信州らしい景観の育成やブランディングへの寄与が求められている。

参考)県民や来県者、市町村へのアンケート調査のまとめ

県民・ 来県者	<p>◆景観の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山々への眺望景観をはじめ、景観を好意的に評価</li> <li>・地形や歴史、暮らしの景観が信州らしい景観を形成する重要な要素として評価</li> </ul> <p>◆景観の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家・空き店舗、管理されていない土地への対応</li> </ul> <p>◆県への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域的な眺望景観へ影響の大きい建築物等への対応</li> <li>・身近な地域の景観育成への支援</li> </ul> <p>◆県民ができる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいや自然等の維持保全活動、ふるさと納税等の経済支援</li> </ul>
市町村	<p>◆景観の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家・空き店舗、建築物の老朽化、手入れされない農地・山林への対応</li> <li>・外国資本による景観の変化への対応</li> <li>・眺望に支障のある行為(大規模建築物、屋外広告物、太陽光パネル)の広域調整</li> <li>・隣接市町村との景観誘導の方向性が不一致</li> </ul> <p>◆県への期待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノウハウや人員不足、景観育成施策支援への期待(景観行政団体以外の市町村)</li> <li>・創造的な景観誘導、新技術による景観阻害要因への対応等(景観行政団体市町村)</li> </ul>

図 県民・来県者アンケート結果(信州らしさを感じる景観、県民の回答が50%以上のみ掲載)

- 県民・来県者ともに、「山々への眺望景観」、「自然環境」、「歴史なまち並み」が上位3つであり、自然や歴史の評価が高いことが認識できる。
- また、田園・里山・集落地、果樹園や味噌・酒造等の生業や暮らしの景観が信州らしい景観を形成する重要な要素と認識できる。

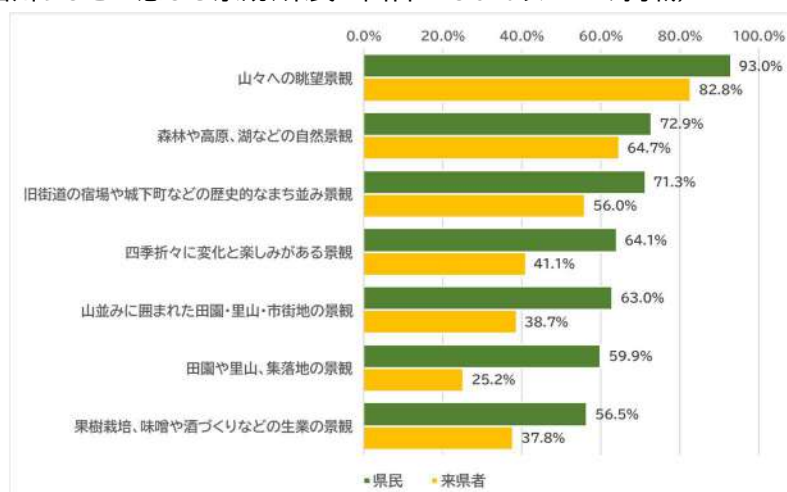
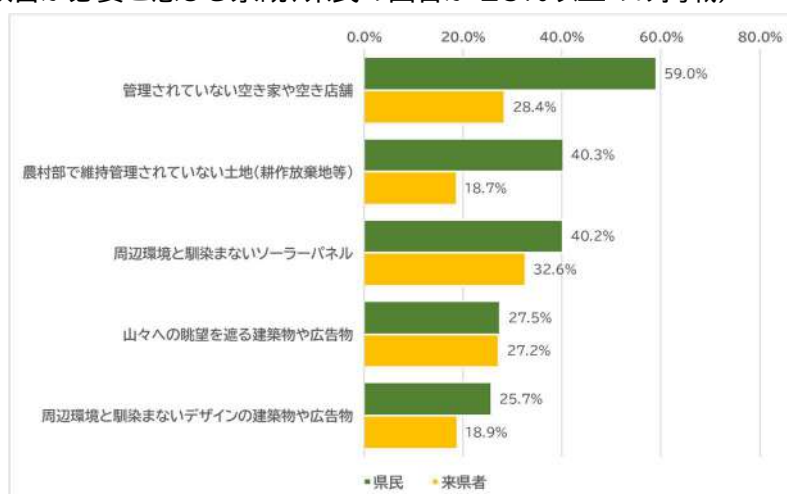


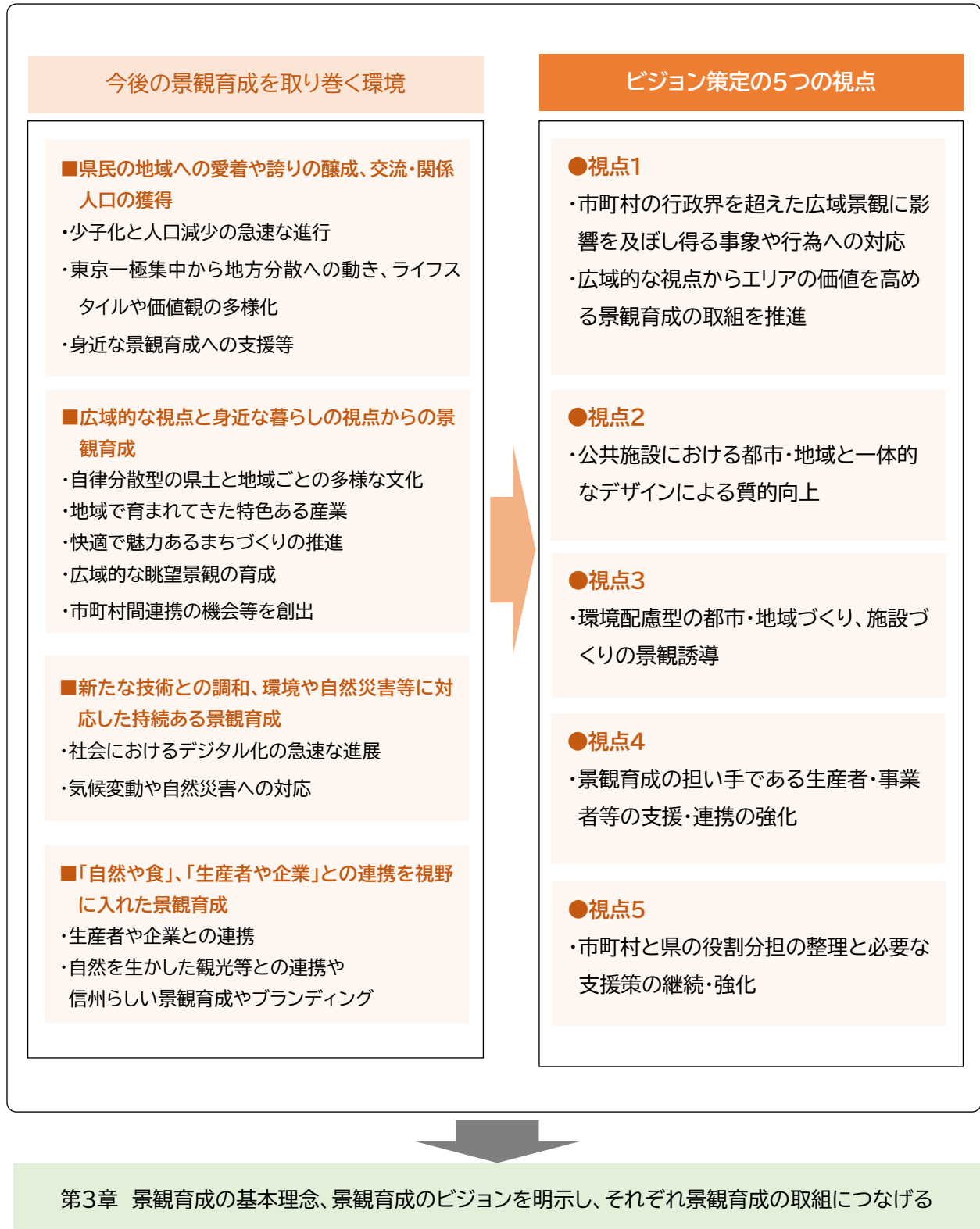
図 県民・来県者アンケート結果(改善が必要と感じる景観、県民の回答が25%以上のみ掲載)

- 管理されていない空き家や空き店舗、農地の改善を求める意向が強く表れている。
- また、周辺環境に馴染まないソーラーパネルや建築物・広告物のデザイン、山への眺望を遮る建築物等の改善を期待する意向も一定数存在している。



## 2-2 ビジョン策定の5つの視点

本県の景観特性及び景観を取り巻く環境を踏まえ、本ビジョンを策定する視点として次の5つを整理します。



## 第3章 景観育成の基本理念

### 3-1 景観育成の基本理念

長野県は、峻険な山々とダイナミックな地形、豊かな森林や山麓が広がり、河川や湖沼等に恵まれた美しく豊かな自然景観と、農林業の生産活動や人々の生活、地域固有の歴史や文化が調和した田園景観は、地域それぞれに特色があり、信州ならではの魅力に満ちあふれています。このような信州の景観は、県民の誇りであるとともに、かけがえのない共有財産です。

近年の社会情勢や環境の変化により景観を取巻く状況も大きく変化する中で、素晴らしい長野県の景観を未来につないでいくためには、多様な主体と連携し協働した取組を進め、信州の景観を更に磨き上げ、郷土愛や人とのつながりを生み出すことが大切です。

このような背景を踏まえ、景観育成の基本理念を次のとおり掲げます。

#### 【景観育成の基本理念】

### 共に磨き、未来につなぐ、美しく豊かな信州の景観

良好な景観は、「ここで暮らしたい」という愛着を育み、「行ってみたい」という行動につながります。県民一人一人が、地域で大切にしている資源や祭礼、イベントを守り、花壇づくりや地域の清掃活動等を行うことで、豊かな生活環境を形成し、自然や歴史的な景観と相まって、信州らしい景観が磨かれます。

このように、住まう人・訪れる人が「いいな！」と思う信州の景観を磨き、広めていきます。



高ボッチ高原(塩尻市)



大岡芦ノ尻(長野市)



駒ヶ岳の雪形(駒ヶ根市)

## 3-2 景観育成の3つのビジョン

今後、長野県が担うべき役割に基づき、ビジョン策定の5つの視点を踏まえ、将来に向けた景観育成のビジョンを次のとおり定めます。

### ビジョン1(広域的な景観育成の視点)

観る者が感動する信州の美しい景観を、大切に、守りつないでいく

- 広域景観の視点から複数のエリアを設定し、景観育成の方向性を明示する
- 広域景観の保全の仕組みを導入する
- 重点的に景観育成に取り組む地域を設定し、県と市町村が連携して景観育成を推進する

### ビジョン2(身近な景観育成の視点)

身近な自然・農村・歴史・文化を尊重し、地域の誇りとなる景観を守り育む

- 生産地や地場産業等、地域固有の景観を保全し、ブランディングにつなげる
- 地域のアイデンティティーを尊重した景観保全の推進を図る
- 地域の景観特性を尊重した公共空間を整備し、質的向上を図る

### ビジョン3(多様な主体との連携の視点)

あらゆる主体の豊かな感性がつながり合い、信州の景観を磨き上げていく

- 県民、事業者、市町村、県など様々な主体が景観育成に参加し、磨き上げる
- 県民・行政職員を対象とした勉強会や交流の機会を通じ、景観への理解を底上げする
- 専門家の派遣や景観育成住民協定等、景観育成の取組を支援する

### 3-3 パートナーシップによる景観育成

美しい信州の景観を県民や来訪者が享受し、一人一人が信州の景観の良さを実感できるようにするために、県民、事業者（生産者も含む）、行政等が相互の役割を認識し、パートナーシップにより総合的かつ計画的に景観育成に取り組みます。また、国や隣接する自治体、来訪者や事業者等の協力・支援を得ながら、景観育成を推進します。

#### <期待される役割>

##### ● 県民

- 県民一人一人が景観育成の主体であることを認識し、積極的に景観育成に取り組みます。
- 景観が社会的共通資本であることを認識し、景観資源を大切に保全します。
- 県及び市町村が実施する景観育成に関する施策に協力します。

##### ● 事業者

- 事業活動を通じた景観育成の主体として、良好な景観育成に貢献します。
- 県及び市町村が実施する景観育成に関する施策に協力します。

##### ● 来訪者

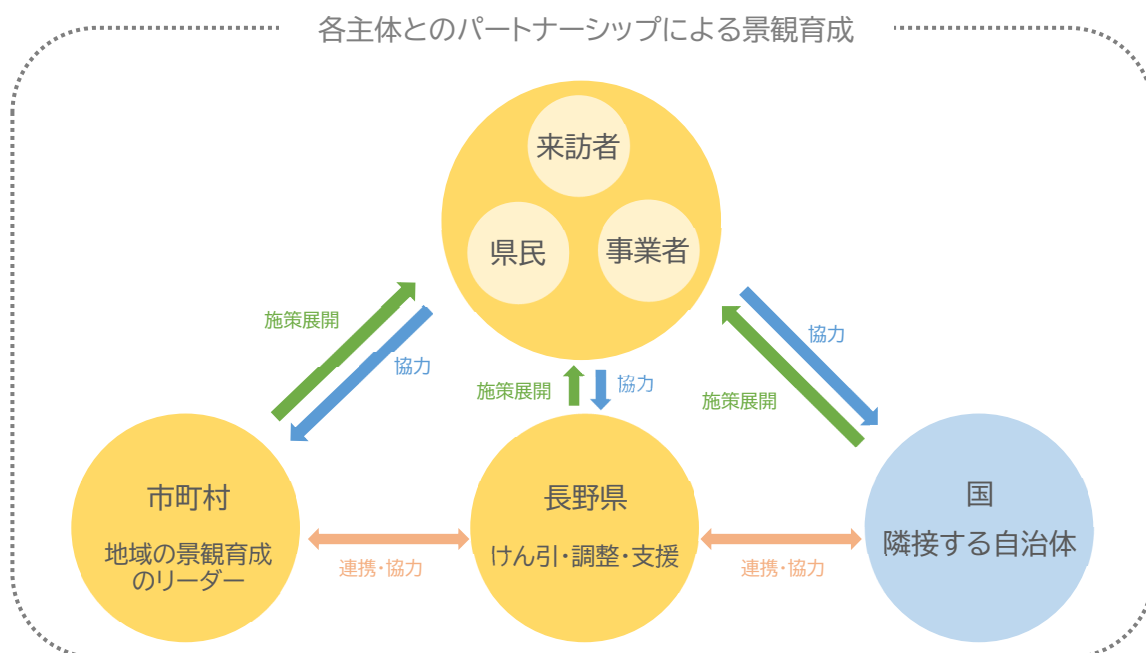
- 信州の景観を尊重し、その魅力を県内外に伝えるとともに、地域の景観保全意識を高める存在として景観育成に協力します。

##### ● 市町村

- 県や県民・事業者と共に、地域の景観育成のリーダーとして、地域特性に応じたきめ細かな景観育成に取り組みます。

##### ● 長野県

- 地域固有の景観を守り活かすため、広域的な視点から景観育成における諸調整を行いながら、景観育成をけん引します。
- 情報提供や技術的な助言等の支援を行い、各主体と連携しつつ、景観の底上げを図ります。

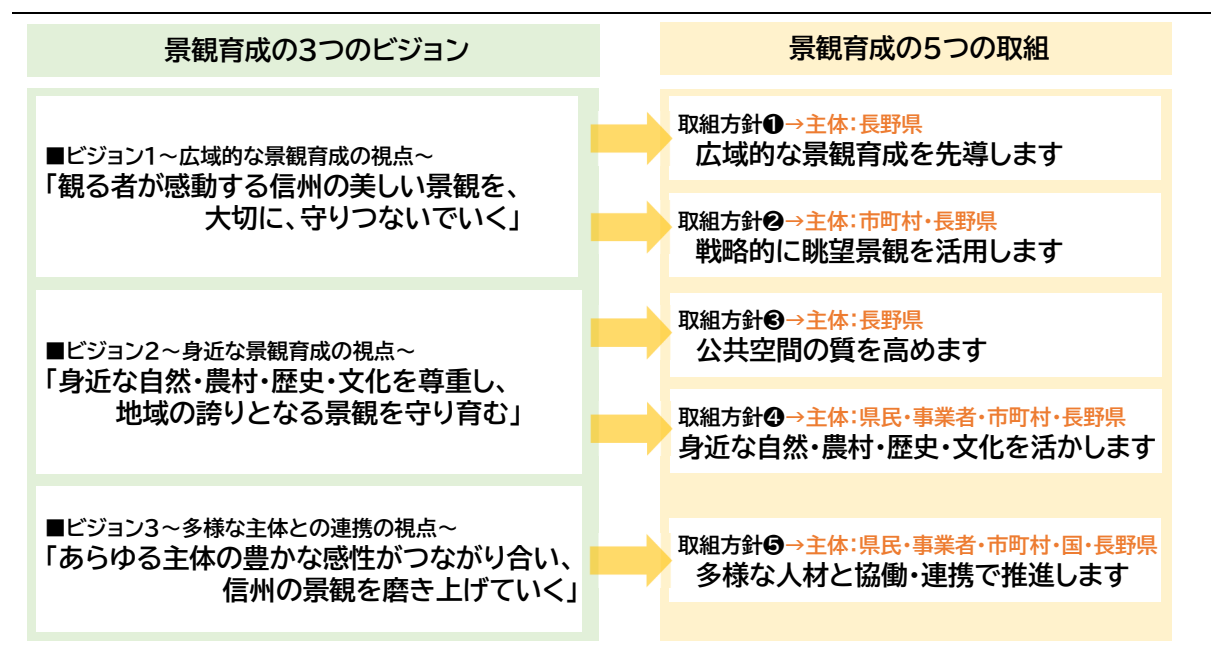


## 第4章 景観育成の5つの取組

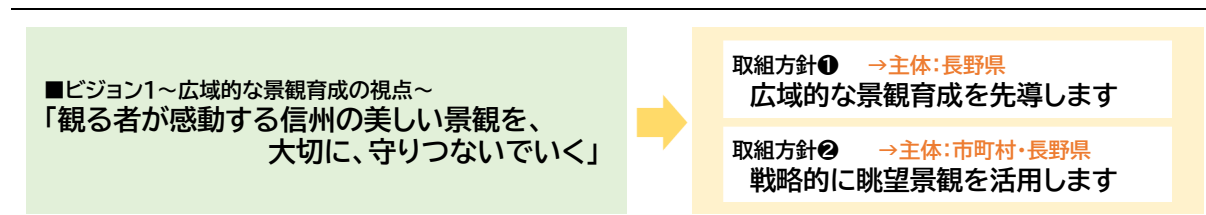
### 4-1 ビジョンに基づく取組方針と方策

本章は、第3章の景観育成の3つのビジョンの実現のため、次の5つの取組方針を定め、取組方針を実現するための取組方策を示します。県は、これまで取り組んできた景観育成の取組のほか、新たな取組の視点を加えることで、より発展的な景観育成に取り組めます。

なお、新たな取組方策は、**new** を付記しています。



## 4-2 ビジョン1に基づく取組方針と方策



### 取組方針① 広域的な景観育成を先導します

長野県は、山々が連なる地形的特徴から市町村界を超えて一定のまとまりのある広域的な景観が形成されています。このような景観の魅力を高めるため、広域的な景観特性を有している地域の市町村が連携協力した景観育成を進められるよう、その検討や取組を先導します。

#### 【各主体に期待される役割】

- ・県民、来訪者、事業者等は、地域固有の景観資源を認識し、積極的な景観保全と育成に努めます
- ・市町村は、広域的な景観の価値を維持向上させるため、近隣市町村と連携・協働することにより、広域景観エリアの価値向上に資する取組を推進

#### 【県の役割】

- ・県は、地域の個性を尊重し広域的な景観育成を図るため、広域景観エリアを設定し、エリアごとの市町村と広域景観育成を検討する場を設け、市町村と連携・協働

### 取組方策①-① 景観法制度を活用した景観誘導

長野県は、信州の景観の骨格や顔となる景観育成、地域ごとの独自の景観育成を進めるため、歴史的まち並み保存等の関連制度の活用その他、重点的に景観の育成を図る地域を景観育成重点地域に指定し、景観法に基づく届出制度等を通じて景観育成を図ります。



高社山麓・千曲川下流域景観育成重点地域

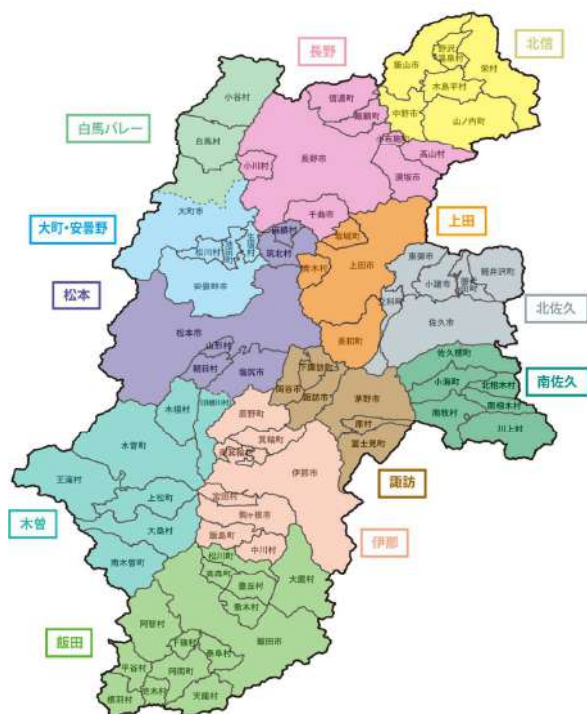
## 取組方策①ー② 広域景観エリアの設定、広域景観エリア協議会による取組の推進 new

長野県は、市町村の枠を超えた一定のまとまりのある広域的な景観を推進するため、広域的な地域の成り立ち等を踏まえた次の視点に基づいて 12 の広域景観エリアを設定するとともに、市町村と県で検討や意思統一を図るための広域景観エリア協議会を設置します。

### ●広域景観エリア設定の考え方

- ・景観施策の展開や地域的なまとまりを踏まえ、地域振興局の 10 単位を基本に検討する
- ・地形や景観的な特徴により、地域振興局の単位によりエリア設定が難しい場合は、景観特性のまとまりや地形地物等の適当な位置で区分けを行う
- ・既往の景観育成重点地域の指定状況を踏まえ、広域景観の一体性を考慮する

$$\text{地域振興局の 10 単位} + \text{地形的特徴 景観的特徴} + \text{重点地域の指定状況} = \text{12 広域景観エリア}$$



エリア名称	対象市町村
北佐久	小諸市、佐久市、東御市、軽井沢町、御代田町、立科町
南佐久	小海町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、佐久穂町
上田	上田市、坂城町、長和町、青木村
諏訪	岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村
伊那	伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村
飯田	飯田市、松川町、高森町、喬木村、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下篠村、売木村、天龍村、泰阜村、豊丘村、大鹿村
木曽	上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村、塩尻市(旧檜川村)
松本	松本市、塩尻市(旧檜川村地区以外)、麻績村、山形村、朝日村、筑北村
大町・安曇野	大町市(白馬バレーを除く地域)、安曇野市、生坂村、池田町、松川村
白馬バレー	大町市(仁科三湖周辺)、白馬村、小谷村
長野	長野市、須坂市、千曲市、小布施町、高山村、信濃町、小川村、飯綱町
北信	中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村

図表 広域景観エリアの名称と対象市町村

広域景観エリア協議会は、広域景観エリアの景観特性や大切にしたい特徴等を共通化し、関係する市町村と県がエリアの価値を高めるための取組を検討し、関係市町村の理解と協力の下で取組を進めます。

### ●広域景観エリア協議会を活用しながら協議が望まれる内容

- ・広域景観育成上重要な眺望点の選定や指定検討
- ・広域景観エリア内における景観誘導施策の検討
- ・景観アセスメント制度の協議・調整
- ・広域景観エリア内における届出基準等の検討、重点地域及び広域景観育成重要ゾーンの検討 など

なお、あらゆる主体が共通認識を持ちながら景観育成に取り組めるよう、第 5 章「広域景観エリアの景観育成方針」において、広域景観エリアごとの景観育成の方向性を示します。

## 取組方策①－③ 重点的に広域景観の育成に取り組む地域の設定 new

良好な広域景観の育成を進めるために、各広域景観エリアの土地利用の状況や景観上の拠点となっている箇所を把握し景観育成の積極的な取組を行う広域景観育成重要ゾーンを設定します。設定された広域景観育成重要ゾーンは、戦略的な眺望景観の活用や公共空間の質の向上、身近な自然・農村・歴史・文化の活用など、広域景観の育成に資する方策の導入や景観計画に基づく重点地域の指定等を通じて、景観育成を進めます。なお、これらの検討は広域景観エリア協議会において検討を行い、地域の実情に見合った景観育成を進めます。

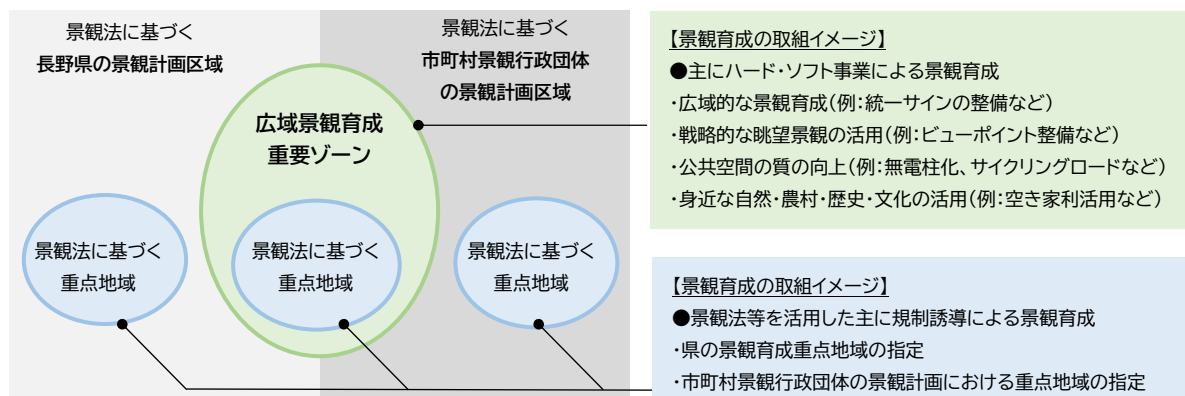


図 広域景観育成重要ゾーンと景観法等制度の関係性、取組イメージ



図 広域景観育成重要ゾーンにおける景観育成の進め方

## 取組方策①－④ 広域景観エリア内の統一案内サイン等整備 new

地域の特徴を踏まえた統一案内サインの整備を検討します。統一案内サインは目的地等を伝える情報ツールであるほか、その地域の特徴や個性を踏まえたデザインとすることで、観光振興はもとより地域のブランディングにもつながるツールとして期待されます。

### 取組イメージ



木曽広域連合における公共サイン整備事業

## 取組方針② 戦略的に眺望景観を活用します

長野県は、豊かな地形により育まれた多様な眺望景観が見られ、これらの眺望景観は県民の暮らしを彩るとともに、来訪者を引き付ける魅力となっています。このような眺望景観を地域の価値向上につなげるため、眺望景観を戦略的に活用する取組を進めます。

### 【各主体に期待される役割】

- ・県民、来訪者は、ビューポイントを訪れ、その情報を共有・発信するとともに、景観の維持保全などに協力
- ・事業者は、眺望景観の保全やビューポイントの維持管理などへ協力やコンテンツ開発などに活用
- ・市町村は、認定・指定されたビューポイントの維持管理や環境整備、情報発信

### 【県の役割】

- ・県は、眺望できる場を活用した「広域景観アセスメント制度」を創設し眺望景観を保全
- ・県は、価値のある眺望景観を望める場を認定・指定し、維持管理や環境整備、情報発信などへの支援

## 取組方策②-① ビューポイントの指定・認定、情報発信

信州の景観は、平や谷を分節している山岳からの見晴らしや、平や谷から山岳への見通しなどの雄大な眺望景観が特徴となっています。このような良好な眺望景観を望めるビューポイントを活用した景観育成方策を講じるため、不特定かつ多数の者が利用できるビューポイントの掘り起こしや、地域の重要なビューポイントの指定等を行います。

指定等されたビューポイントは、デジタル技術も活用しつつ、県のホームページや眺望カードの配布、各種イベント等において情報発信を進めます。

表 眺望点、信州ふるさとの見える(丘)の関係性

※令和7年4月現在

制度名称	概要	備考
眺望点	地域にとって重要な景観の眺望が可能で、不特定多数の者が利用することができること、かつ、眺望点を管理する者が明確で適正な管理が行われていると知事が認める地点を指定	160箇所※ 令和2年度より制度を開始
信州ふるさとの見える(丘)	「信州らしさ」や「ふるさと」が実感できる農村風景であり、不特定多数の者が展望でき、休憩箇所としても利用できるビューポイントを知事が認定	63箇所※ 平成25年度より制度を開始

## 取組方策②-② ビューポイントから眺望景観に影響を及ぼす行為の景観協議

指定された眺望点や信州ふるさとの見える(丘)は、景観法に基づく届出制度において、規模の大きい建築物や電気供給施設、太陽光発電施設の建設行為等を行う場合にはビューポイントからのシミュレーション画像等の提出が義務付けられており、景観への影響を事前に確認し、協議を実施しています。



シミュレーションによる景観協議

## 取組方策②－③ 信州の自然環境を活かした景観整備

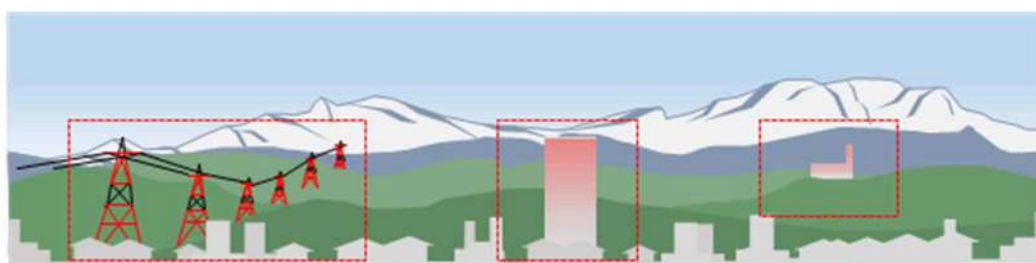
信州の自然は重要な景観資産であり、来訪者が信州の景観評価する重要な要素です。そのため、豊かな自然環境を活かした地域の魅力向上を図るため、地域の景観に合致した森林整備や巨樹・古木などの保存や視点場整備等を推進し魅力向上を図ります。

## 取組方策②－④ 広域景観アセスメント制度の創設・運用 new

大規模な建築行為等は周辺への景観的な影響度合いが大きいことが想定され、行為地によっては、市町村の行政界を跨ぐ広域的な景観調整が必要となることが想定されます。

これらに対応する取組として、既に指定、認定等されたビューポイントを広域景観調整のための眺望点（以下「特別眺望点」という。）として選定し、大規模な建築行為等に対して市町村間の行政界を跨ぐ景観調整制度である広域景観アセスメント制度の創設運用を目指します。

特別眺望点は、予めその地域の広域景観要素を整理の上、既に指定、認定されたビューポイントの中から景観調整が必要なものを抽出します。



- ・近景から遠景に連続する構造物や遠景の山並みを分断する構造物
- ・中景、遠景部の周囲の景観に違和感を生じさせる構造物

図 周辺への景観的な影響度合いの大きい行為のイメージ

### 【特別眺望点の指定イメージ】

- ・視点場へアクセスが容易で、公共性が高い場所であること
- ・当該広域景観を象徴する眺望が視覚的に強く感じられること
- ・視点場の整備が行われている又は今後、整備を行う予定のあるもの

特別眺望点の眺望範囲を設定し、その計画が生じさせる景観への影響度合いをシミュレーション等により可視化させ、周辺住民や市町村との広域景観の調整を機能させます。

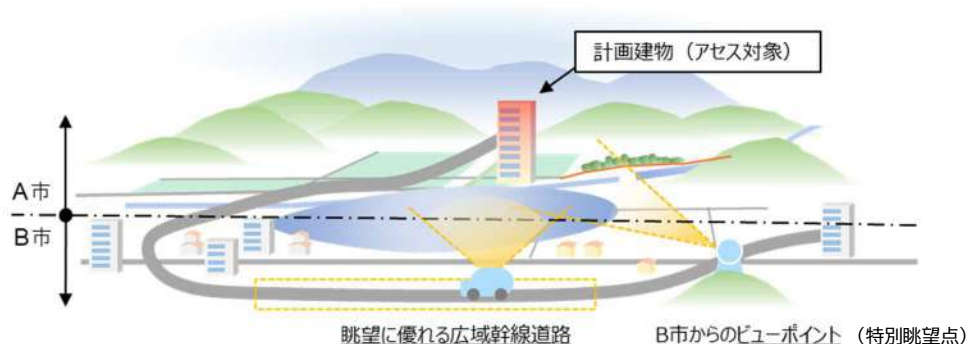


図 広域景観アセスメントのイメージ

## 取組方策②-⑤ ビューポイントの滞留空間等の整備支援 new

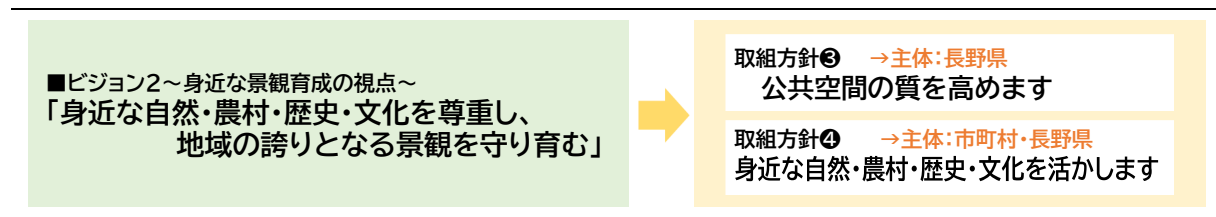
指定、認定されたビューポイントは、地域の景観を楽しむ場であり、観光資源となりうる場でもあることから、その環境づくりは大切です。そのため、ビューポイントからの眺望を説明するサインやベンチ等の滞留空間の整備に向けた検討を行います。

取組イメージ



県道7号沿いにおいて、磐梯山への眺望の視点場の滞留空間及び電線類地中化の整備

## 4-3 ビジョン2に基づく取組方針と方策



### 取組方針③ 公共空間の質を高めます

道路、公園、河川、公共建築物等の公共空間は、誰もが利用できるパブリックな空間ですが、長野県の景観の「質」を感じ取る重要な場所でもあります。人が集い、個々が思い思いの過ごし方ができる居場所としての役割を念頭に公共空間の質を高めます。

#### 【各主体に期待される役割】

- ・県民(土地所有者)や来訪者、事業者は、県有施設の整備に協力し、整備後はその施設を積極的に利用し、景観育成に資する活動への協力
- ・市町村は、重要な地域の景観育成を地域の関係者と積極的に進めるとともに、当該地域で重要な県有施設の景観の質の向上に向けた取組を県と積極的に協議・調整

#### 【県の役割】

- ・県は、県有施設の景観の質の底上げを図るため景観協議の仕組みづくりを行い、公共施設のデザイン指針等を活用しながら、全体的な底上げとメリハリのある公共施設の景観の質を向上
- ・県は、地域の景観の骨格となる道路や河川、公園などの公共施設、激甚化する災害に対応した土木構造物等の景観へ大きな影響を及ぼす行為の景観の調整を先導して対応

### 取組方策③-① 公共事業景観育成指針の運用

道路や、河川、公園及び建築物等の公共施設は、良好な景観育成の規範として、先導的な役割を果たすため、公共事業景観育成指針に沿って景観育成を推進します。なお、策定から10年以上が経過している公共事業景観育成指針は、公共事業の社会的な動向や新たな技術等に対応させるため、必要に応じて改定の検討を行います。

### 取組方策③-② 景観重要公共施設の指定の推進

地域の景観を構成する主要な要素の一つである公共施設は、当該施設管理者との協議及び同意に基づき、景観重要公共施設として指定を進めます。計画段階の場合でも、地域の景観への影響が大きく、その主要な要素となると見込まれる施設は、当該施設管理者が定まっており、必要な協議及び同意がなされた場合は、景観重要公共施設として位置づけ、積極的に良好な景観育成に努めます。

### 取組方策③-③ 無電柱化等の整備の推進

電柱や電線類の景観配慮整備は、沿道環境や周囲の景観特性、コスト等を踏まえ、整備手法を選択し計画的に整備を推進します。

街路整備や面的な開発行為を行う場合は、計画段階から無電柱化の検討がなされるよう努めます。また、実現にあたっては、景観重要公共施設の指定や各種補助制度の活用なども視野に入れ、事業主体が取組を進めやすい環境づくりに努めます。

### 取組方策③-④ 広域的な公共整備の景観協議の仕組み

new

道路、河川、公園及び建築物等の公共施設は、良好な景観育成の規範として公共事業景観育成指針を用いて公共事業の質の向上が図られてきましたが、近年激甚化する災害に対応した公共事業の発生や都市再生に資する公共事業への期待の高まり、地域が関わりを持つ施設のあり方など、公共事業の進め方は複雑化しています。そのため、多面的な機能を持たせつつ、良好な景観育成を先導する公共事業とするため、計画の構想から、設計、施工、維持管理までの段階ごとに、専門家の意見を取り入れながら景観育成を図る仕組みづくりを検討します。

### 取組方策③-⑤ 県有施設の高質化整備の仕組み

new

道路、河川、公園及び建築物等の公共施設は、計画時の様々な基準や要件から統一化されたデザインにより地域の景観やまちづくりに適さない場合があります。

そのため、景観上重要な地域においては、県有施設を景観重要公共施設に指定するとともに、当該指定を受けた県有施設の補修や再整備等においては、その場所の特性を踏まえたデザインとなるよう、県有施設の高質化整備の仕組みづくりを検討します。



八王子市景観計画の重点地区内の河川護岸の再整備にあたり、東京都と市が連携した事例

### 取組方策③-⑥ 魅力的な道路・沿道空間の整備

道路や沿道空間は移動するための機能に留まらず、長野県の魅力的な景観を連続しながら眺望できる景観上重要な存在です。通常のメンテナンスはもとより、地域のボランティアによる維持活動など、日頃から適切な維持管理に努めます。

## 取組方針④ 身近な自然・農村・歴史・文化を活かします

身近な自然や農村、歴史・文化が感じられる景観は、人々の生活や生業が今日まで続くことで守られ、醸し出されてきたものです。人口減少や高齢化の進展等に伴う課題に対し、景観の観点も加味した取組を推進することで、これまで守りつないできた景観の継承に努めます。

### 「身近な景観育成の方策」

#### 取組方針④－① 景観育成住民協定制、景観協定制の運用

景観育成住民協定制や景観法に基づく景観協定制の支援・推進に努めます。なお、景観行政団体の市町村の区域における景観育成住民協定の認定等の支援は、当該市町村の意向を尊重します。

近年、担い手の高齢化等により存続が困難な協定締結地区も生じており、制度のあり方を見直すなど、持続的な協定制の構築を検討します。

#### 取組方針④－② ふるさと信州風景 100 選等の継承に向けた仕組み new

地域固有の歴史や文化が調和した信州の農村景観は、地域それぞれに特色があり、信州ならではの魅力に満ちあふれています。県は、このような風景を再発見し、魅力を県内外に発信するため「ふるさと信州風景 100 選」を選定し、情報発信を行ってきました。

県は、風景の維持・向上を図る活動の支援や、風景の中で見られる道路や河川の工作物、ビューポイント等を優先的に景観に配慮した整備を行うなど、優れた風景を後世に継承することを目指します。

#### 取組方針④－③ 信州まちなかグリーンインフラの推進

都市化の進展によるみどりの減少により「持続可能な社会の構築」「都市防災におけるみどりの重要性」「緑化意識の継承」の観点から都市におけるみどりの重要性が高まっています。都市施設や土地利用において、みどりの多様な機能の活用を図る“まちなかグリーンインフラ”の推進を図り、うるおいある魅力あふれるまちづくりを目指します。

### 「産業景観の育成の方策」

#### 取組方針④－④ 長野県農村景観育成方針の展開

県は、美しく豊かな農村風景を守り育てる主体を維持、確保することを目的に、「持続性のある農林業の実現」「魅力ある農村風景づくり」及び「都市と農山村の連携交流」の好循環を目指す「長野県農村景観育成方針」に基づき、農村風景の保全・育成に努めます。



基本目標と基本方針

#### 取組方策④－⑤ 農業や林業等の自然的な景観の育成

農業や林業等の自然と共生する生業が醸し出す景観は、その担い手によって保たれている一方、人口減少や高齢化の影響が懸念されていることから、美しい自然の魅力発信や保全活動を支援するとともに、関わる主体の間口を広げるため体験や研修などの多様な機会の提供に努めます。

#### 取組方策④－⑥ 産業と結びついた景観の継承 new

信州の景観特性の一つである農林業の生産地やその加工製造業の景観は、信州らしさやふるさとを感じられるアイデンティティとなる景観であるとともに、来訪者を誘引する場として観光業の観点からも関心が高くなっています。しかし、生産者の高齢化や担い手不足、生産品の経済的な循環が滞るなど、今後このような景観が損なわれる可能性があります。そのため、県関係機関と個別事業を連携・調整しながら、生産物や地域の価値の向上の好循環となるような仕組みづくりを検討します。



### 「景観資源の保存活用の方策」

#### 取組方策④－⑦ 景観重要建造物、景観重要樹木の指定の推進

地域の景観を構成する主要な要素の一つである建築物や工作物、樹木について、当該所有者との協議及び同意に基づき、景観法に基づく景観重要建造物、景観重要樹木として指定を進め、地域の景観育成の核として、その維持保全や継承に努めます。

#### 取組方策④－⑧ 景観資産の指定、保全の推進

地域の特性を生かした広域的な景観の育成を図るため、広域的な景観育成に資する建造物や樹木、遺跡、名勝地、優れた風景を眺望できる地点等を景観資産として指定し、景観資産に影響を与える行為の届出等を通じて、その保全に努めます。

## 4-4 ビジョン3に基づく取組方針と方策

■ビジョン3～多様な主体との連携の視点～

「あらゆる主体の豊かな感性がつながり合い、  
信州の景観を磨き上げていく」



取組方針⑤ →主体:県民・事業者・  
市町村・国・長野県  
多様な人材と協働・連携で推進します

### 取組方針⑤ 多様な人材と協働・連携で推進します

長野県は、平成18年の長野県景観育成計画の策定当初から市町村や県民、土地所有者、事業者等の様々な主体と協働する「景観の育成」を掲げ、取組を進めてきました。人口減少や高齢化の進展に伴う担い手や財源の減少等に対し、多様な人材と協働・連携する取組を進めます。

#### 【各主体に期待される役割】

- ・県民(土地所有者)は、身近な暮らしの景観を維持したり、景観に関する取組へ積極的に参加したりするなど、身近な景観育成に資する活動への協力
- ・来訪者は、良質な景観地を訪れたり、その情報を友人・知人、SNSなどで共有したり、景観育成に資する活動への協力
- ・事業者(生産者)は、市町村をはじめ県、国の取り組みへ協力するとともに、景観育成に貢献する日常的な事業活動や景観育成の課題解決につながる地域貢献活動への協力
- ・市町村は、景観法や関連法令等の活用や県民、来訪者、事業者等と連携しながら地域の景観育成につながる取組を推進

#### 【県の役割】

- ・県は、個々の市町村と景観育成に対する考えの共有化を図りつつ、市町村と県の役割を整理し、多様な主体と連携・協働による景観育成の方策を検討
- ・県は、本ビジョンの進捗管理や県土の景観の変化を踏まえつつ、必要な施策を検討して実施

### 取組方策⑤-① 景観にまつわる表彰制度の運用

長野県ならではの景観やその景観育成に関わる活動を表彰する仕組みを運用し、景観育成に関わる方々の意欲向上や情報発信を通じて長野県の景観イメージを高めます。



景観にまつわる表彰(“信州の木”建築賞)

## 取組方策⑤-② 景観教育の導入

景観育成の担い手である子ども達を対象に景観にまつわる学びの機会の提供を図ります。

出前講座の実施や、小中学校と連携し子ども達が景観に触れる機会の創出に努めます。



小学校への出前講座の様子(景観学習)

## 取組方策⑤-③ 長野県の景観に関する情報発信

長野の景観の魅力や場所、景観育成の取組等を広く伝えるため、県のホームページのほか、SNSなどを活用し、情報を発信します。

情報発信は、県民や来県者、事業者など多様な主体による情報発信を念頭に、デジタルデータの活用を推進します。



県公式 SNS での情報発信

## 取組方策⑤-④ 市町村が主体となった景観行政の実現

景観法の施行により、市町村が景観行政団体に移行し、その地域の特徴を尊重した独自の景観育成の取組を可能としました。市町村が新たに景観行政団体に移行する際は、より実効性のある景観行政が実現できるよう、これまでの取組の継承や、必要に応じて隣接する市町村との調整を行います。

また、県内の屋外広告物の景観誘導は、独自の屋外広告物条例を持つ市町村を除き、長野県屋外広告物条例により規制・誘導が図られています。屋外広告物条例の基準等の整備や取扱いの調整、景観行政団体市町村の屋外広告物条例制定の相談支援など、屋外広告物行政の適切な運用ができるよう努めます。また、業界団体と連携し違反広告物の防止や広告物の維持保全を推進し、屋外広告物の適切な設置・維持に努めます。

## 取組方策⑤-⑤ 景観法令等に係る事務手続きの見直し

建築物や工作物等の技術は日々進歩しており、計画検討時に想定していなかった景観に影響を及ぼし得る行為が生じています。今後もこのような景観に影響を及ぼし得る新たな行為が生じることが予想されるため、適宜基準の見直しや手続きを追加するなど、法令に基づく実効性のある運用を図るため、必要な見直しを行います。

また、景観行政団体市町村間での基準や運用等を調整するため、必要な情報交換の機会を設け、景観法令等の適切な運用に努めます。

### 取組方策⑤－⑥ 中間支援組織や景観整備機構との連携

市町村と県民を含めた事業者等が連携した景観育成を進めるため、建設分野や屋外広告物等の業界団体といった関係団体、中間支援組織である UDC 信州、景観法に基づき指定した景観整備機構などと連携し景観育成を進めます。

### 取組方策⑤－⑦ 景観専門家の派遣制度の改定、運用

地域における自律的な景観育成、県による先導的な景観育成の取組において、地域特性に精通した専門家や景観に係る様々な分野における高度な知識と感性を有する専門家のもと、個性豊かな景観育成を進めることが重要です。そのため、景観アドバイザー派遣制度の見直しを行い、地域に根差して継続的に参画できる専門家の派遣に加えて、民間事業や公共事業等の景観協議において助言・指導できる専門家の活用、育成を図ります。



景観デザイナーの派遣

### 取組方策⑤－⑧ 新たな景観育成の財源の確保 new

景観行政を持続的に推進する上ではその財源の確保が必要となるため、ふるさと納税制度の活用やまちづくりファンドの創設など、新たな景観育成の財源の確保に向けた検討を進めます。

## 参考:景観育成の取組方策の一覧まとめ

県は、これまで取り組んできた景観育成の取組方策に加え、新規に取り組む景観育成の取組方策を加えることで、次のステージの景観行政に取り組めます。

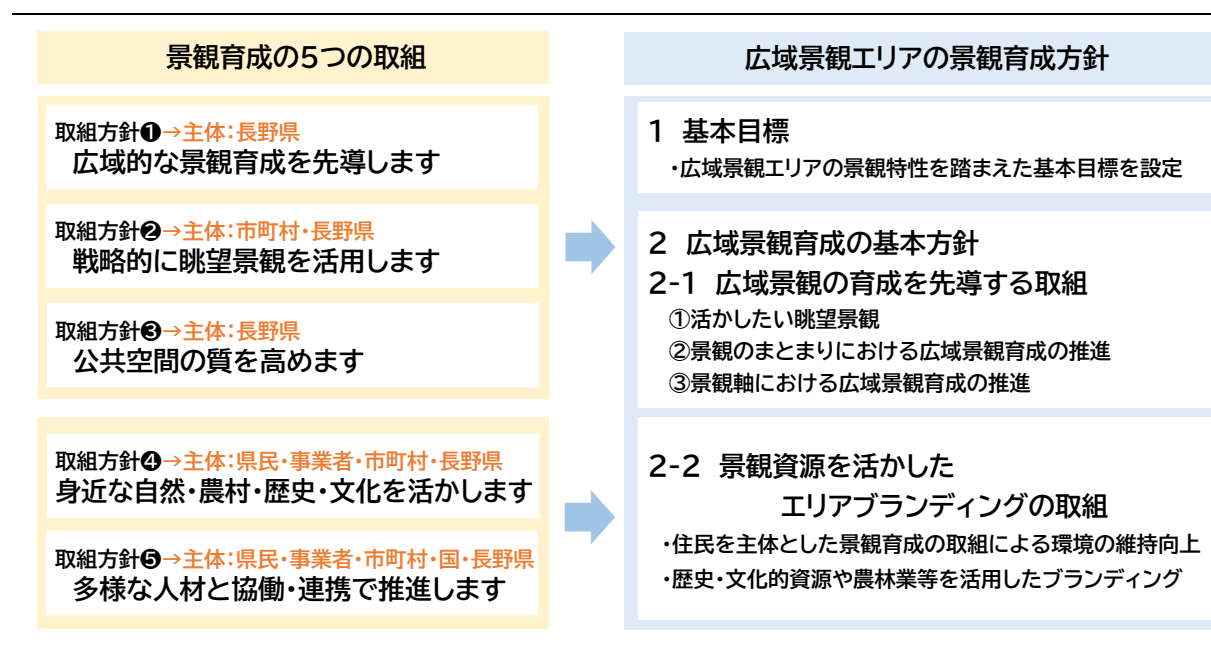
取組方針	取組方策	
① 広域的な景観育成を先導します	① 景観法制度を活用した景観誘導 ② 広域景観エリアの設定、広域景観エリア協議会による取組の推進 ③ 重点的に広域景観の育成に取り組む地域の設定 ④ 広域景観エリア内の統一案内サイン等整備	
② 戦略的に眺望景観を活用します	① ビューポイントの指定・認定、情報発信 ② ビューポイントから眺望景観に影響を及ぼす行為の景観協議 ③ 信州の自然環境を活かした景観整備 ④ 広域景観アセスメント制度の創設・運用 ⑤ ビューポイントの滞留空間等の整備支援	
③ 公共空間の質を高めます	① 公共事業景観育成指針の運用 ② 景観重要公共施設の指定の推進 ③ 無電柱化等の整備の推進 ④ 広域的な公共整備の景観協議の仕組み ⑤ 県有施設の高質化整備の仕組み ⑥ 魅力的な道路・沿道空間の整備	
④ 身近な自然・農村・歴史・文化を活かします	身近な景観育成の方策	① 景観育成住民協定制度、景観協定制度の運用 ② ふるさと信州風景100選等の継承に向けた仕組み ③ 信州まちなかグリーンインフラの推進
	産業景観の育成の方策	④ 長野県農村景観育成方針の展開 ⑤ 農業や林業等の自然的な景観の育成 ⑥ 産業と結びついた景観の継承
	景観資源の保存活用の方策	⑦ 景観重要建造物、景観重要樹木の指定の推進 ⑧ 景観資産の指定、保全の推進
⑤ 多様な人材と協働・連携で推進します	① 景観にまつわる表彰制度の運用 ② 景観教育の導入 ③ 長野県の景観に関する情報発信 ④ 市町村が主体となった景観行政の実現 ⑤ 景観法令等に係る事務手続きの見直し ⑥ 中間支援組織や景観整備機構との連携 ⑦ 景観専門家の派遣制度の改定、運用 ⑧ 新たな景観育成の財源の確保	

## 第5章 広域景観エリアの景観育成方針

### 5-1 広域景観エリアの景観育成方針の作成方法

本章では、第3章及び第4章を踏まえ、今後の景観育成の基本目標及び基本方針を広域景観エリアごとに広域景観エリアの景観育成方針として（以下、「広域景観エリアシート」という）まとめます。

広域景観エリアシートは市町村が景観行政団体に移行済であるかに関わらず、共有すべき景観に係る情報や景観育成の方向性を示すことで、様々な主体が連携しながら効果的で一体性のある景観育成を進めていくことをねらいとして作成します。



#### 1 基本目標

取組方針①に基づき、広域景観エリアの景観特性を踏まえた基本目標を示します。

#### 2 広域景観の育成を先導する取組

取組方針①、②及び③に基づき、活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーン（景観のまとまり、景観軸）を示し、広域景観を育成する先導的な取組の方向性を示します。

#### 3 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

取組方針④及び⑤に基づき、住民を主体とした生活環境や自然・田園環境等の維持向上、歴史的資源や農業等を活用したエリアブランディングに関する方向性を示します。

## 5-2 広域景観の育成を先導する取組について

広域景観の育成を先導する取組である「(1) 活かしたい眺望景観」と、「(2) 広域景観育成重要ゾーン」を、長野県景観条例で定める景観育成重点地域を指定する際の景観類型（次頁参照）を参考にしながら、各広域景観エリアの特性を踏まえ設定し、市町村との連携により景観育成を進めていきます。

なお、眺望景観及び広域景観育成重要ゾーンは、広域景観エリア協議会との調整を踏まえ、景観計画に基づく重点地域の指定を見据えた検討を行っていくことも想定しています。

### (1) エリアを代表する活かしたい眺望景観

高台等から山地、田園、都市などの眺望（パノラマ）や、道路等からまち並みやアイストッパへの眺望（ビスタ）を対象とし、広域景観エリアの特徴が感じられ、良好な眺望景観が望める視点場と視対象を「活かしたい眺望景観」とします。

#### 【対応する景観類型】

- ・眺望景観を有する地域

#### 【対象となる視点場】

- ・既に取り組が進められているビューポイント（眺望点、信州ふるさとの見える（丘））を基本とし、広域景観育成重要ゾーン内外を問わずに設定します。

### (2) 広域景観育成重要ゾーン

#### ●景観のまとまり：面的なまとまりの視点

##### 【対応する景観類型と対象となるゾーン】

- ・表中の①～⑤の地域のうち、土地利用の状況や景観育成を行う上で拠点性の高い箇所（以下「景観拠点」という。35 P 参照）を選定し、本県を代表する優れた景観として、山地、高原、田園、また都市的な地域で、まちや水、歴史・文化などの拠点を有する地域を「景観のまとまり」として設定します。

#### ●景観軸：線的なつながりの視点

##### 【対応する景観類型と対象となる軸】

- ・表中の①～⑤の地域の中で、県民や来県者が信州らしい景観として高く認知されている要素が集積しており、歴史・文化を有する旧街道や各種景観拠点を結ぶ骨格的な道路、鉄道、河川（沿道・周辺を含む）、また、エリアの広域的なネットワークの形成や景観のまとまりへの主要なアクセス道路や風景街道等を『景観軸』とします。

表 広域景観育成重要ゾーンの対象となる景観類型（長野県景観条例第4条第3項より）

類型区分	空間イメージ
<b>①山地、高原等の自然的景観を有する地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 山地や丘陵地の斜面地の連なりの中で、樹林地、農業生産地及び集落、観光・リゾート施設などで構成される、地域のまとまり</li> </ul>	
<b>②道路又は河川に沿った地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 基幹道路、鉄道、旧街道と宿場、河川（湖沼を含む）や河川沿いの景勝地、橋梁等の河川施設、発電施設などで構成される、地域のつながりやまとまり</li> </ul>	
<b>③田園景観を有する地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● エリアの風景を特徴づけている田園及び集落地や屋敷林、河川、道路などで構成される、地域のつながりやまとまり</li> </ul>	
<b>④都市景観を有する地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 主に②・③と一体となった市街地や、今後、新たに拠点的地域としての景観育成が求められる、地域のまとまり</li> </ul>	
<b>⑤歴史的景観を有する地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国宝や伝統的建造物群保存地区などのシンボル、城下町や往時の名残を残す歴史的なまち並みなどの地域のつながりやまとまり</li> </ul>	
<b>⑥眺望景観を有する地域</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 視界の開けた高台等から山並みや田園などの広がりを見対象とする見晴らし（パノラマ）の眺めや、道路等から沿道のまち並みやアイストップのランドマークへの見通し（ビスタ）の眺め</li> </ul>	<div> <div> <p>見晴らし（パノラマ）の眺望景観</p> </div> <div> <p>見通し（ビスタ）の眺望景観</p> </div> </div>





### 5-3 活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーンの位置づけ

活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーンの設定にあたっては、各広域景観エリアにおける土地利用の状況を整理し各要素に応じた景観拠点を選定し広域的な景観育成の視点から検討を行います。

以上を踏まえ「活かしたい眺望景観」「景観軸」「景観のまとまり」とのつながりから想定される複数のパターンを示します。





#### ■土地利用の状況

長野県の地形や自然条件、土地利用の特性、法制度の指定実態などにより、次の4つの区分から整理します。

区 分	対 象
 山 岳	・ 自然公園区域
 山麓・山間	・ 保安林又は地域森林計画対象民有林
 田 園	・ 他ゾーン以外の区域
 まち・生活	・ 市街化区域又は用途地域指定区域

#### ■景観育成を行う上で拠点性の高い箇所（景観拠点）

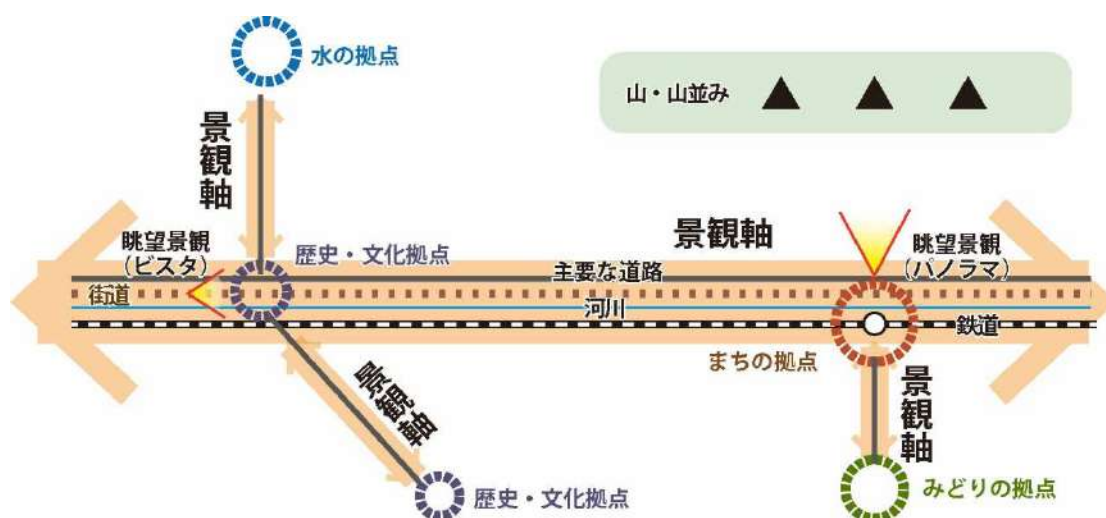
特に優れた水や農業などの自然景観、歴史・文化的な景観、都市や生活の各拠点を形成している地域を景観拠点として設定します。

区 分	対 象
 水	・ 多くの来訪者が訪れている、あるいは、今後、活用が期待される河川（渓谷を含む）や湖沼（ダム湖を含む）
 農・みどり	・ 多くの来訪者が訪れている、あるいは今後、活用が期待される高原、公園、牧場等
 歴史・文化	・ 伝統的建造物群保存地区や重要文化財、文化的景観など、エリアを代表する歴史・文化的な地域
 まち	・ 都市計画区域マスタープランに位置付けられた都市や地域の拠点 ・ 鉄道駅や市役所・役場周辺で、生活サービス機能を有する地域等

# 1) 広域景観エリアをつなぐ道路や河川等と景観拠点を景観軸で結ぶ広域景観育成の例

- ・ 広域景観エリアをつなぐ骨格的な道路や街道、河川、鉄道や、歴史的なまち並みを有する歴史・文化拠点や都市機能が集積したまちの拠点を包含した一体的な空間を「景観軸」として設定します。
- ・ この景観軸と、広域景観エリア内に点在する水、みどり、歴史・文化の拠点を結ぶ道路を「景観軸」とし、広域景観エリアのネットワーク形成を図ります。
- ・ これら景観軸においては、案内サインの統一や道路や河川等の公共施設の質の向上、建築物・工作物や屋外広告物の景観誘導、歴史的なまち並みやアイストップの山地や緑地を守るための「活かしたい眺望景観」の指定等が想定されます。

図 景観軸と活かしたい眺望景観の概念



## 2) 優れた景観のまとまりとアクセス道路等の景観軸による広域景観育成の例

- ・ 景観拠点とその周辺に広がる地域を「景観のまとまり」として設定し、これにアクセスする骨格的な道路や街道、河川、鉄道等を「景観軸」として設定することで、広域景観エリアの景観構造が形成されます。
- ・ これら景観のまとまりと景観軸においては、案内サインの統一、道路・河川等の公共施設の質の向上、建築物・工作物や屋外広告物の景観誘導、道路や高台からの優れた眺望を守るための「活かしたい眺望景観」の指定等が想定されます。
- ・ なお、これらは、新たな景観育成の取組に加えて、既往の重点地域にもあてはめることができ、広域景観エリア内に点在する水やみどりの拠点を結ぶ道路を「景観軸」とすることで、広域景観エリアの価値を高める取組に発展することが想定されます。

図 景観のまとまりと景観軸、活かしたい眺望景観の概念

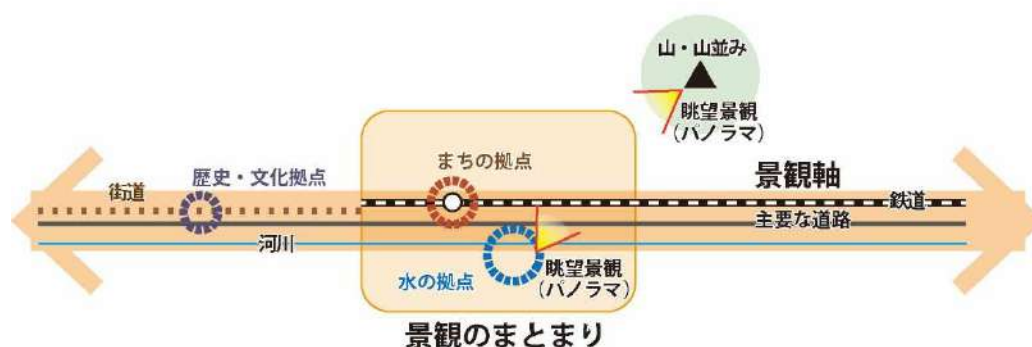
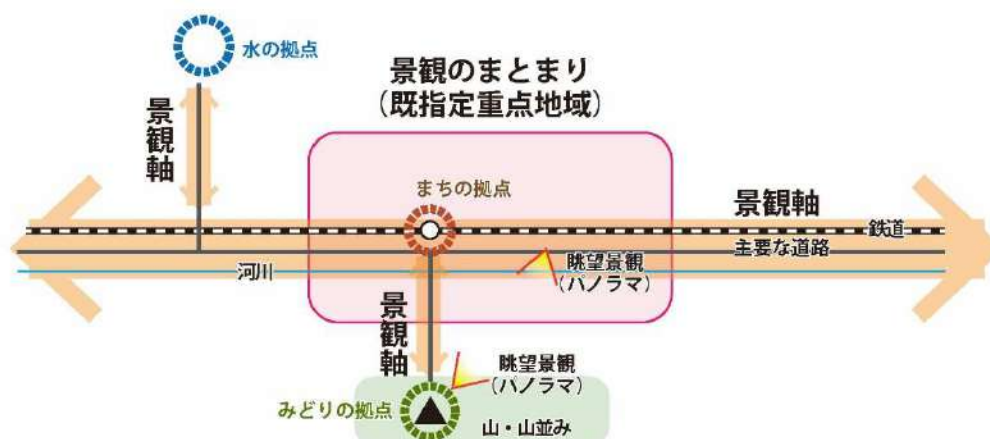


図 景観のまとまり（既指定重点地域）と景観軸、活かしたい眺望景観の概念



## 5-4 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

広域景観を育成する上では、地域に溢れる景観資源を活用しながら他分野と連携することで、更なる景観的魅力を高めることが重要です。広域景観エリアの景観的価値を高めるため、次の視点から取組の方向性を示します。

### 1) 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

景観育成住民協定に代表される住民主体の景観育成の取組が地域で行われておりますが、持続的な活動のための取組について方向性を示します。

### 2) 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

個性的な地域の景観育成のため、各地域に溢れる歴史や文化的資源のほか、農林業といった地域をかたちづくる様々な要素とどのように連携し発展した取組につなげていくのかを示します。

### 5-5 広域景観エリアシートの構成と内容

広域景観エリアシートは、次の項目により2枚構成としています。

## 1) 広域景観エリアの景観特性 (p 1) の内容

各広域景観エリアに有する道路や河川、主要な山などの景観特性を写真、参考図等を用いながら広域景観エリアの現況図として示します。

### ●景觀特性等

- ・「地形的な特徴と眺望」「道路・交通（交通景観軸）」「河川・水辺（河川景観軸）」「歴史・文化（歴史・文化的な景観）」「産業の景観」の視点から整理しています。
- ・広域的な景観要素として今後とも守っていききたい主な視対象、大切にしたい特徴を示しています。

## ●広域景観エリアの現況図

- ・地形（標高）をベースに、道路や鉄道、河川（湖沼を含む）、街道などの基礎情報を表記しています。
- ・主な資源として、主要な山、重要文化財、信州ふるさとの見える丘と、県指定眺望点を示しています。
- ・また、断面図を作図することで、各エリアの空間的な特性を示しています。



## 2) 広域景観エリアの育成方針（p 2）の内容

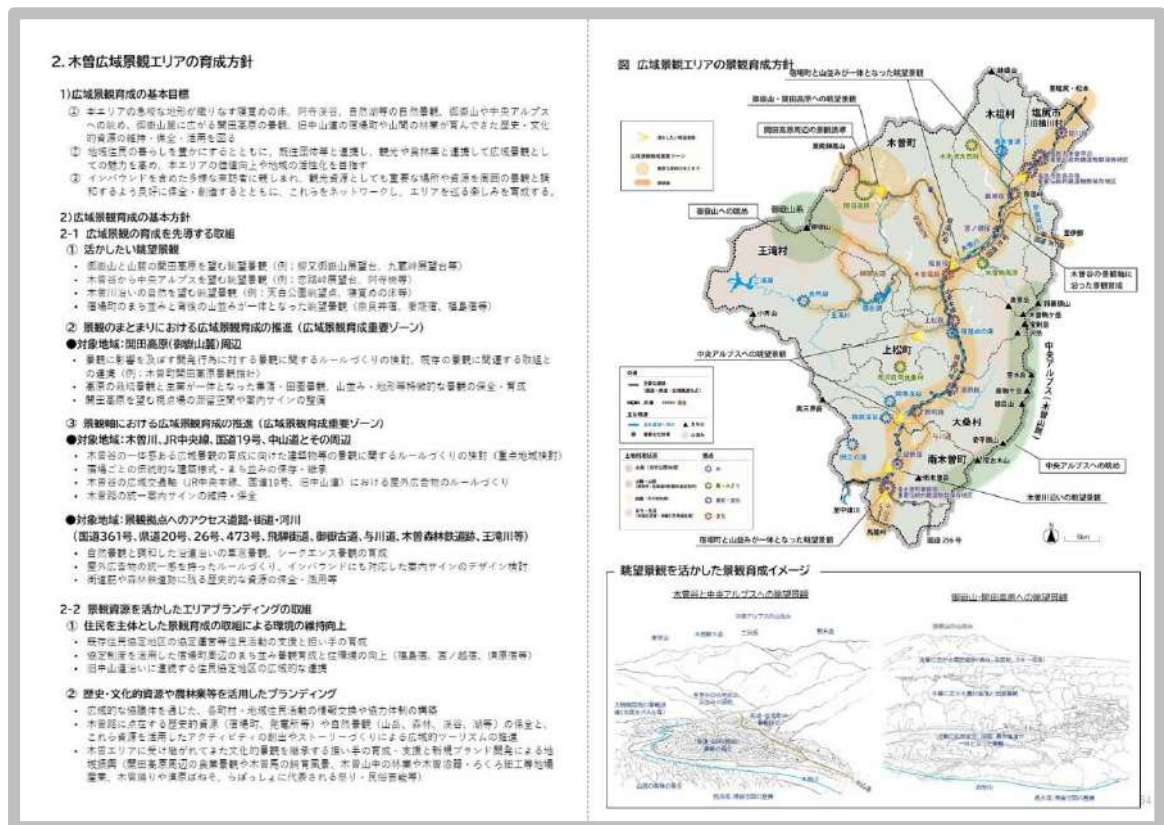
広域景観エリアの景観特性を踏まえ、広域景観育成の基本目標及び基本方針を示しています。

### ●景観育成の基本方針

- ・ 2-1 では、活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーン（景観軸、景観のまとまり）を設定し、広域景観育成の方向性を示しています。
- ・ 2-2 では、エリアの景観資源を活かした生活環境の向上や、エリアブランディングの方向性を示しています。

### ●広域景観エリアの景観育成方針図

- ・ 全エリア共通の景観育成の方向性の目安として、地形や自然条件、土地利用の状況を整理します。
- ・ 景観特性や景観と関連する計画に基づき、広域景観育成を進める上で重要な水、農・みどり、歴史・文化及びまちの景観拠点を整理します。
- ・ 広域景観の育成を先導する活かしたい眺望景観と広域景観育成重要ゾーン（景観のまとまり、景観軸）の位置を示すとともに景観育成のイメージを図で示します。
- ・ 4つの景観育成重点地域（浅間山麓、八ヶ岳山麓、国道147号・148号沿道、高社山麓・千曲川下流域）の当初指定範囲も示します。



小諸市、佐久市、東御市、軽井沢町、御代田町、立科町

### ○地形的な特徴と眺望

- ・浅間山（2,568m）山麓の緩斜面と佐久平に位置し、北に浅間山、南に八ヶ岳を望み、東は荒船山等の秩父山地、西には鹿曲川を挟んで相対する形で広がる八重原台地と御牧原台地等、特徴的な地形を有する。
- ・佐久平と浅間山には見る見られる関係があり、佐久平の田園や千曲川南の高台から浅間山への眺め、浅間山中腹から佐久平への眺めがそれぞれ親しまれている。
- ・小諸市（小諸眺望百選）や御代田町（浅間山八景）では、浅間山等の豊かな自然の認知と新たな魅力発見等を目的とし、独自に眺望点を選定しているほか、飯綱山公園歴史の広場は関東の富士見百景の1つに選定されている。

## ○道路・交通(交通景觀軸)

- ・ 国道18号、142号、254号、北陸新幹線、しなの鉄道、上信越自動車道等が長野・上田方面と群馬・関東方面を、国道141号やJR 小海線が佐久平を経由し、南佐久・小淵沢方面をそれぞれ結んでいる。
- ・ 浅間サンライン（浅間山麓広域農道）や国道254号沿いのコスモス街道等、地域主体の取組により県内外に親しまれる固有の沿道景観が形成されている。

## ○河川・水辺(河川景觀軸)

- ・甲武信ヶ岳を源とする十曲川は、佐久平を南から北に縦断した後、小諸より西に流れる。大小の支流と相まって、豊かな田園景観や渓谷等の潤いのある水辺景観を形成している。また、佐久鯉や豊富な地下水と良質米を利用した多くの造り酒屋等水の豊かさ支える固有の生業が営まれている。
- ・白樺湖や女神湖等の蓼科高原エリアや御膳水水源とする雲場池、龍神伝説の伝わる大沼の池の湧水等エリア各所で湧水やため池等が潤いある景観を形成している。

## ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- ・ 星型稜堡をもつ洋式城郭である龍岡城五稜郭と城下町より低い位置にあるため通称「六城」と呼ばれる小諸城のユニークな城址が2つあり、多くの市民や来訪者に親しまれる歴史的な景観を留めている。
- ・ 中山道と北国街道の2本の主要街道が通り、東中山道追分宿・小田井宿・茂田井間の宿、北国街道小諸宿・海野宿等、複数の宿場が形成されている。旧市街海野宿は昭和62年4月に重要伝統的建造物群保存地区に選定され、小諸市では歴史的まち並みの保全・活用に取り組んでいる。

## ○産業の景観

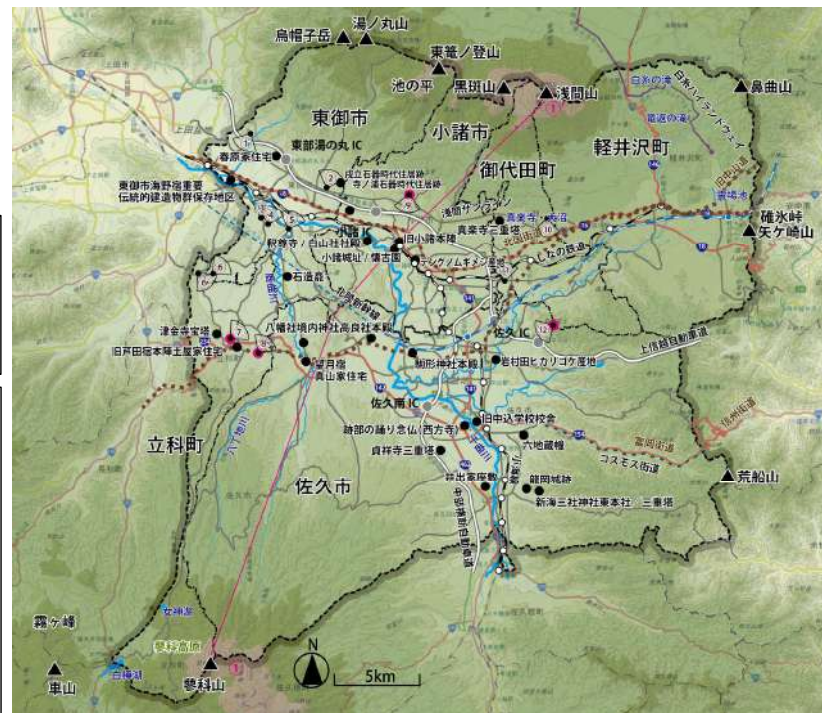
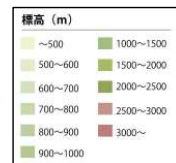
- ・浅間山山麓では高原野菜を中心とした畑地、傾斜地を生かした棚田が見られ、千曲川の段丘斜面上の平地や佐久平には水田を中心とした農地が広がり、集落や山並みと相まって美しい田園景観が形成されている。
- ・千曲川ワインバレーとしてワイナリーの集積、広がりある田園でつくられる五郎兵衛米のブランディング、地元の酒米での酒造り等、特産品の生産地と産業振興が結びついた取組も多く展開されている。
- ・軽井沢町や御代田町の山麓は、樹林に囲まれた山地や高原リゾート地が形成されている

## 大切にしたい特徴

佐久平から望む浅間山／千曲川沿いの市街地と河岸段丘／広域交通軸である国道や鉄道からの車窓の景観／佐久平に広がる水田／２つの城郭や旧中山道と北国街道沿いに形成された宿場町・歴史的景観／浅間山麓に広がる棚田・田園集落／蓼科山、白樺湖、女神湖等多くの人が訪れる自然環境高高原景観／別荘地の緑豊かな環境、国営林

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・浅間山
- ・千曲川
- ・佐久平周辺の山岳景観や自然景観  
(田園、湯ノ丸山、烏帽子岳等)
- ・浅間山山麓の果樹等の栽培風景
- ・鉄道(しなの鉄道、JR小海線)



県指定眺望点 番号別対象地点名

- ① 湯泉里館
- ② 道の駅雷電くるみの里
- ③ 田奈池
- ④ 外山城跡
- ⑤ みまさ大橋
- ⑥ 県道丸子北御牧東部線
- ⑦ 権現の社公園 風の子広場
- ⑧ 立科町交流促進センター内駐車場
- ⑨ 小諸市菱野の棚田
- ⑩ 稲荷神社鳥居
- ⑪ 浅間八景 JA佐久浅間御代田支所  
ライオンセンター前
- ⑫ 市民の森(平尾富士)



北国街道・小諸宿の町並み(小諸市)



奥に浅間山を望む五郎兵衛新田の景観  
(佐久市)



北国街道・海野宿の町並み(東御市)



雲場池(軽井沢町)



浅間山に抱かれた高原野菜の産地  
(御代田町)



白樺湖(立科町・茅野市)

## 2. 北佐久広域景観エリアの育成方針

### 1)広域景観育成の基本目標

- ・ 見る見られる関係にある佐久平と浅間山の眺望景観を、景観の基調を成す田園風景等生業の風景と一体的に守り育てる。
- ・ 街道筋のまち並み、歴史的資源を良好に保全・創出するとともに、国道や広域農道（浅間サンライン）等の広域交通軸は、軸としての魅力を高める。
- ・ 別荘地等特色ある環境、浅間山麓の棚田や果樹栽培の風景、佐久平の田園風景等、市町村を超えて一体的な特色を有する場所を保全することで、エリア固有のまとまりのある景観を形成する。

## 2) 広域景観育成の基本方針

## 2-1 広域景観の育成を先導する取組

### ① 活かしたい眺望景観

- ・ 佐久平に広がる田園から浅間山、蓼科山への眺め（例：五郎兵衛新田）
- ・ 千曲川南の高台や斜面地から浅間山・千曲川を一体的に望む眺め（例：八重原台地・御牧原台地）
- ・ 浅間山中腹から佐久平への眺め（例：稲荷神社鳥居、小諸市菱野の棚田）
- ・ 国道や広域農道、鉄道等の交通軸から連続的に望む景観（例：国道18号、142号、254号、浅間サンライン）

## ②景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

### ②-1 浅間山麓景観育成重点地域における広域景観の育成

●対象地域:浅間山麓景観育成重点地域(当初指定地域)

- ・ 県と市町村（景観行政団体、未移行自治体）間での方向性の共有、景観形成基準の調整
- ・ 山麓の緩斜面に展開する果樹栽培や棚田の風景、樹林地に囲まれた別荘地等の保全・活用
- ・ 広域農道（浅間サンライン）や市町村の浅間山を望む眺望点等の滞留空間や案内サイン整備

## ②-2 佐久平と周囲の山並みとが一体となった拡がりある広域景観の育成

●対象地域:佐久平の一帯

- ・ 佐久平を望む視点場の滞留空間や案内サインの整備、眺望支障物の撤去、夜景等の保全
- ・ 市町村を超えて一体的な特色を有する景観の育成（市町村境の大規模建築物・工作物等の誘導）
- ・ 佐久平固有の生業の風景を活かした産業とも連携した景観育成の推進

## ③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域:国道18号、国道141号、国道142号、国道254号、高速道路(上信越道)、新幹線等

- ・ 街道筋や千曲川、広域交通等、エリアをネットワークする要素を活かした景観誘導  
(エリアの共通イメージをつくる統一サインの整備、建築物や屋外広告物のルールづくり)
- ・ 特に眺望の美しい区間や眺望スポットの整備、前景となる田園景観の保全・育成
- ・ 中部横断自動車道の延伸により、広域交通を軸とした景観育成の取組検討（南佐久広域景観エリアとの連携）
- ・ 高速道路や新幹線の沿道・沿線における屋外広告物のルールづくり

## 2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

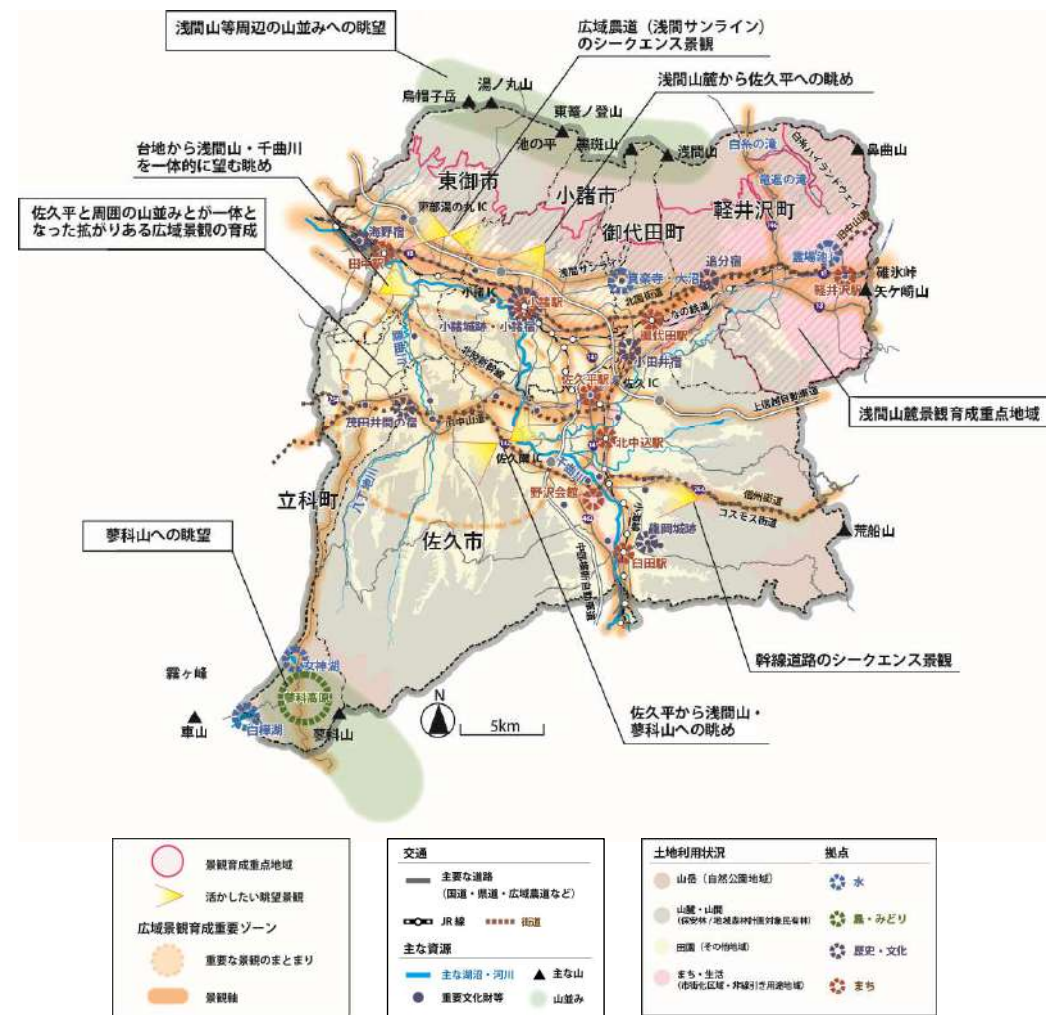
## ① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・別荘地等の特色ある住宅地や五郎兵衛米（ブランド米）の生産地である田園と集落地等、固有性の高いエリアの景観誘導、歴史文化等地域固有の景観の保全・創造に使われてきた既存の住民協定活動の支援、担い手育成
- ・住民主体での沿道景観形成や文化財・まち並み保全の動きとの連携や支援

## ② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり（資源のリスト化やエリア統一の情報発信等）
- ・佐久地域（南佐久広域景観エリアとの連携）で取り組んでいる周遊ルートづくりや、宇宙・星空をテーマとしたツアーと連携した取組（景観学習等）
- ・既存の取組（千曲川ワインバレー）等特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討（ワイン用ブドウとワイナリー、酒米と酒蔵、ブランド米等）

図 広域景観エリアの景観育成方針



## 眺望景観を活かした景観育成イメージ



# 南佐久広域景観エリアの景観育成方針

小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村

## 1. 南佐久広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴と眺望

- 東にハケ岳・蓼科山、西に関東山地(秩父山地)等山々に囲まれたエリアで、北部の佐久平から連なる千曲川沿い等の平地(台地・丘陵地)も標高約1000mを超え、山裾の高原地の景観を有する。
- 野辺山高原は高地で見晴らしが良く低湿、山に囲まれ光害が少ない等から、天文学者が選ぶ「日本で一番綺麗な星空ベスト3」に選定されている。
- エリア南部の高台等からはハケ岳への眺めが、エリア北部ではハケ岳と浅間山の双方の眺めがそれぞれ得られる。また、県境付近の山頂や峠からは北アルプス、富士山、群馬県の山並み等、エリアを超えた眺めが楽しめる。

### ○道路・交通(交通景観軸)

- 国道141号とJR小海線が南北を、国道299号及び国道462号が東西を貫き、エリアの骨格道路となっている。
- 蓼科高原から八千穂高原を通る国道299号は美しい景観からドイツ・メルヘン街道に因んでメルヘン街道と呼称される。
- 中部横断自動車道が佐久小諸JCTより八千穂高原ICまで整備され、今後長坂JCTまで延伸される計画である。

### ○河川・水辺(河川景観軸)

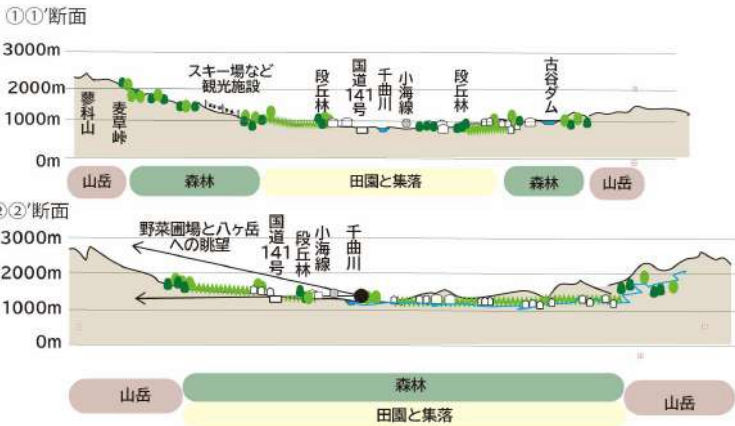
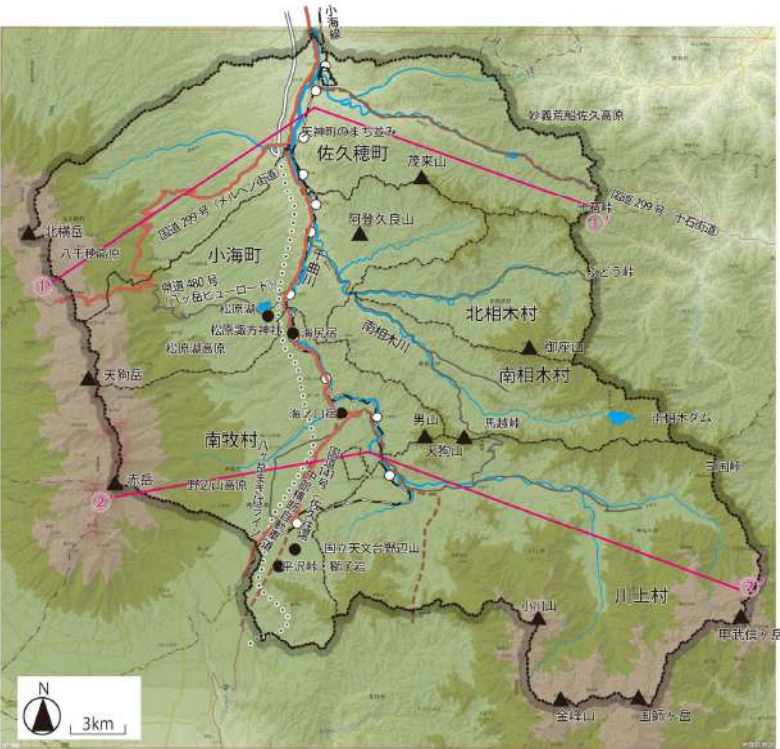
- 甲武信ヶ岳を水源とする千曲川は川上村内を東西に流れ、信濃川上駅付近より小海線や国道141号と並行してエリア中央部を東西からの支流を集めながら流れ、各町村の中心部を結んでいる。
- 支流は急峻な箇所も多く、各所に滝や溪谷が形成され、名勝地として認知されているものも見られる。
- ハケ岳の水蒸気爆発による崩壊で生まれた松原湖をはじめ、中小の湖沼群が点在している。

### ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- エリア内には、複数の社寺や獅子舞等の民族芸能が見られるほか、近世以降に整備された佐久往還(佐久甲州街道・中山道村田宿～甲州街道韭崎宿)の複数の宿場が往時の名残を留めている。

### ○産業の景観

- 高地を利用したレタス、キャベツ、白菜等の栽培が盛んであり、大規模な耕作地の景観が見られる。
- 国道299号(メルヘン街道)や県道480号(ハケ岳ビューロード)、ハケ岳まきばライン周辺には別荘地やスキー場、キャンプ場、美術館等の観光施設が多く分布している。



### 大切にしたい特徴

ハケ岳と山麓に広がる雄大な自然と農業景観／自然景観と一体となった千曲川とその支流・湖沼の水辺景観／変化に富んだ地形に寄り添う農業景観(田園・果樹・高原野菜や酪農等)／広域的な観光交流軸であるメルヘン街道やハケ岳ビューロード、ハケ岳まきばライン沿道の景観

### 主な視対象(広域的な景観要素)

- 国道141号、299号、462号沿道や鉄道(小海線)
- ハケ岳、浅間山、秩父山地
- 各市町村のランドマークとして親しまれている山々(茂来山、阿登久良山、天狗山、男山等)
- 千曲川と段丘林



松原湖とハケ岳(小海町)



高原野菜圃場とハケ岳への眺め(川上村)



野辺山高原の高原野菜(南牧村)



天狗山(南相木村)



御座山麓(北相木村)



山並みと耕作風景の拡がり(佐久穂町)

2. 南佐久広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- 地区の中央を縦断する千曲川、小海線、中部横断自動車道を広域的な自然・交通軸とし景観育成を進め、移動の軸としての魅力を高めながら、エリアとしての統一感を創出する。
- 佐久甲州道を始めとした街道筋のまち並み、古い歴史を有する社寺等の歴史・文化的資源を良好に保全・活用を進める
- 河川アクティビティや湖畔、滝等の水辺、星空等の個性の異なる地域資源を巡る楽しみを育成。
- 高原や地形的特徴と野菜栽培の豊かさはエリア共通の景観の基盤として保全・育成する。

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- エリア南部から八ヶ岳を望む眺望景観（例：平沢峠）
- 県境の山頂から八ヶ岳、浅間山、北アルプス、群馬県の山並みや富士山を望む眺望景観（例：十石峠等）
- 千曲川平地面より望む八ヶ岳や浅間山を望む眺望景観（例：栄橋）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：特徴的な気候と千曲川流域に広がる田園地域における広域景観の育成

- 山麓の樹林や高原農地等を基調とした景観の誘導
- 八ヶ岳や浅間山を望む視点場の滞留空間や案内サインの整備、眺望支障物の撤去、夜景等の保全
- 大規模建築物・工作物（太陽光発電施設・電力施設の鉄塔）等の誘導

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：八ヶ岳や千曲川と並走する南北に延びる景観軸の景観育成（千曲川、国道141号、JR小海線、中部横断自動車道等）

- JR小海線や中部横断自動車道におけるシークエンス景観の育成
- 河川（八千穂地区かわまちづくり、道の駅）、河川沿いの遊歩道から望む景観の育成
- 中央横断自動車整備に際しての道路施設デザインの景観配慮
- 中央横断自動車道の全線開通に向けた沿道における屋外広告物の規制誘導の検討

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- 身近な生活環境や歴史・文化等の地域固有の景観の保全・創造に対して、住民協定の締結や活動の支援、担い手の育成等に取り組む
- 住民やまちづくり団体と連携した歴史文化的資源や河川・水辺、自然環境の保全活動

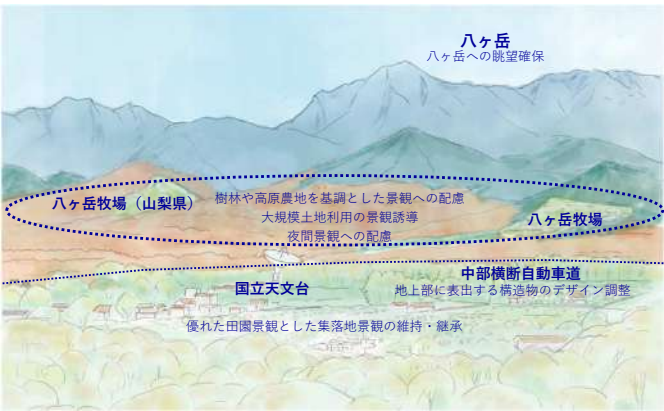
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- 佐久甲州道沿いに残る歴史的資源を活用した広域ネットワークの形成  
→小海線八千穂駅～八千穂駅周辺の酒蔵を中心とした歴史的なまち並みの保全や活用
- 特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討  
→高原で栽培される野菜等のエリア統一のブランディング
- 星空を活かした夜間の景観づくり  
→天体観測等の星空の活用や夜間照明の誘導
- エリアの地形や自然的景観を改変する行為の適切な誘導  
→大規模な土地利用転換や太陽光発電施設の立地調整等

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



# 上田広域景観エリアの景観育成方針

上田市、長和町、青木村、坂城町

## 1. 上田広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴と眺望

- 県の東部、千曲川中流部に位置し、北は菅平高原、南は美ヶ原高原等の2,000m級の山々に囲まれている。中央に上田盆地・塩田平が開け、千曲川が地域を二分する形で東西に流れている。
- 盆地に形成された市街地と里山、低山等が近接しており、太郎山や独結山、葛尾山（葛尾城跡）、青木三山等、遠足や校歌等子どもの頃から親しみ、地元で愛される身近な山が多く存在する。
- 里山や高原、高速道路PA等の高台からは、上田盆地（千曲川、田園、市街地）と山並み（菅平高原、浅間山、蓼科山、烏帽子岳等）を望むほか、浅間山、蓼科山への眺望は、幹線道路の移動中等日常生活の中でも親しまれる。

### ○道路・交通(交通景観軸)

- 盆地を中心にJR北陸新幹線（上田駅）、鉄道各線、上信越自動車道、国道18号等広域的な交通網が形成され、首都圏、北陸圏との近接性が高く、長野・松本・諏訪・佐久等を結ぶ、県内交通の要衝でもある。

### ○河川・水辺(河川景観軸)

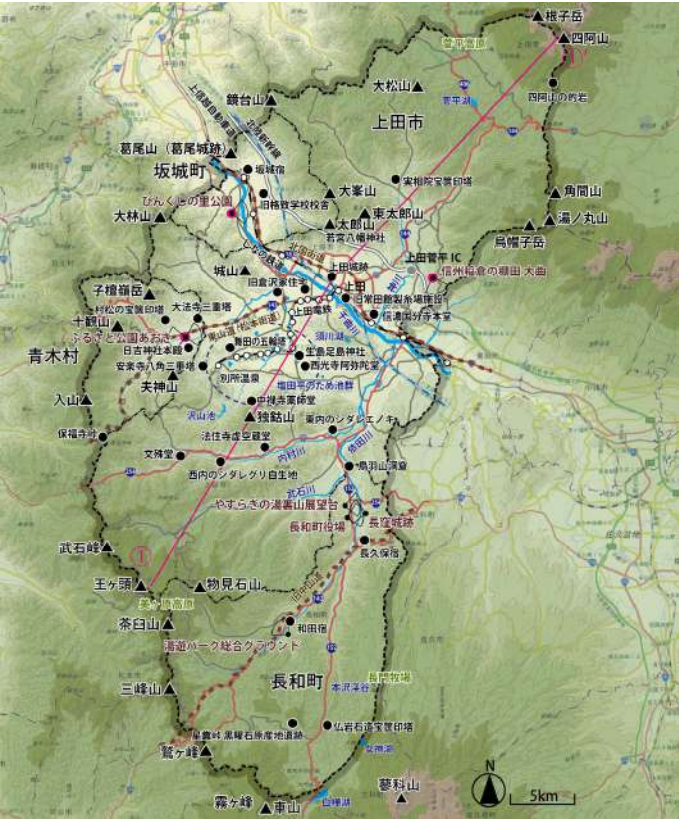
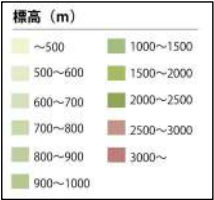
- 中央部に東西に流れる千曲川は、依田川、神川、内村川等の大小の支流が合流している。依田川等の支流沿いには渓谷や滝等の景勝地が多く存在するほか、河岸段丘が形成する緑地帯が市街地の中に見られる。
- 降水量の少なから、塩田平を中心に多くのため池があり、ため池や水にまつわる民話や伝承が数多く残る。

### ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 上田城と城下町、国宝の安楽寺八角三重塔や大法寺三重塔、別所温泉や鹿教湯温泉、飛鳥時代に開湯した田沢温泉・沓掛温泉、旧街道沿いの宿場町等の歴史的な資源、まち並みを有している。
- 古くは飛鳥時代から京都〜東北を結ぶ東山道の拠点として栄えた交通の要衝であり、北国街道をはじめ、旧中山道、松本街道等の街道筋が整備され、東山道浦野駅(うらののうまや)・日理駅(わたりのうまや)、北国街道上田宿・坂城宿、旧中山道長久保宿・和田宿等の宿場町が形成された。また、北国街道沿いには蔵蔵や蚕室造りの民家等蚕都の面影を伝える歴史的まち並みも残されている。
- 上田市では信州上田・塩田平の歴史・文化財が、長和町では黒曜石原産地遺跡等が日本遺産に認定されているほか、青木村の古くは飛鳥時代に由来する歴史等、民話や伝承とともに継承されてきた奥深い歴史文化を有するエリアでもある。

### ○産業の景観

- 盆地の市街地縁辺にはまとまった田園が広がる一方、斜面を活かした棚田や畑作地等、地形を生かした農業が展開されている。晴天率の高い気候条件と標高差を生かした高原野菜やぶどうの産地であり、カラマツを主体とした林業・木材産業も活発である。
- 菅平高原・湯の丸高原等の自然、上田城跡、宿場町等の歴史文化的資源、別所温泉等の観光資源がコンパクトに集積している。高原エリアでは別荘地やスキー場等が形成されている。



### 大切にしたい特徴

上田盆地から望む浅間山、蓼科山等の山並み／高台や山腹から望む上田盆地と山並み／広域交通軸である国道や鉄道からの車窓の景観／千曲川沿いの市街地、河岸段丘／上田城跡と街道沿いに形成された宿場町、蚕都の面影を伝えるまち並み、歴史的資源／歴史ある温泉地／上田盆地や山腹の田園や果樹の栽培風景／菅平高原や美ヶ原高原等四季を通じてレクリエーションやスポーツ合宿で親しまれる自然

### 主な視対象(広域的な景観要素)

- 上田盆地(田園、市街地)や周囲の山々
- 千曲川
- 国道や生活道路から見える山並み(四阿山、浅間山、蓼科山、烏帽子岳等)
- 鉄道(しなの鉄道)



上田城跡(上田市)



塩田平のため池群(上田市)



しなの鉄道と市街地(産業団地)、田園が隣接する風景(坂城町)



和田宿のまち並み(長和町)



国道142号(和田小下歩道橋)からの浅間連山の眺め(長和町)



夫神山と田園・集落の眺め(青木村)

2. 上田広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- ・ 上田盆地・塩田平を中心に形成されてきた、歴史・文化、まち、田園等の営みを保全・育成する。
- ・ 各地で地元で愛されている景観をエリア内外に発信し、磨き上げるとともに、サイクリング、交通軸（鉄道や国道等）等、広域ネットワークにおける取組とも連携し、エリアを巡る楽しさを育てる。
- ・ 民話や伝承とともに継承されてきた歴史・文化（県内交通の要衝としての街道と宿場町や道標、気候風土と深く結びついた塩田平のため池等）を良好に保全・育成し、次の世代に継承する。

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・ 低山や丘陵等の高台から上田盆地を望む眺め  
（例：びんぐしの里公園、ふるさと公園あおき、信州稲倉の棚田大曲、高速道路PA）
- ・ 身近な低山やシンボリックな山並みへの眺め（例：上田盆地、塩田平、国道18号、国道152号）
- ・ 千曲川沿いの橋梁、公園、サイクリングロード等河川沿いから盆地と山並みを望む眺め  
（例：上田電鉄千曲川橋梁、上田大橋、一般県道上田千曲長野自転車道）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：千曲川の扇状地（上田盆地、塩田平、坂城盆地周辺）

- ・ 盆地や平を望む視点場の滞留空間や案内サインの整備、夜景等特徴的な眺望景観の保全
- ・ 固有の歴史や田園景観の保全・育成（建築物・工作物等の誘導、農産業とも連携した景観の保全）
- ・ 街道筋や千曲川、サイクリングロード、広域交通等、エリアをネットワークする要素を活かした景観誘導（エリアの共通イメージをつくる統一サインの整備、公共事業における質の高い景観形成）

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：国道18号、国道142号、国道143号、国道152号、高速道路（上信越道）、新幹線等

- ・ 特に眺望の美しい区間や眺望スポットの整備、前景となる田園景観の保全・育成
- ・ 建築物や屋外広告物のルールづくり、統一サインの整備
- ・ 景観軸として公共施設の質の向上（景観重要公共施設、デザイン協議等）
- ・ 巡りを促すハード・ソフトの取組を展開
- ・ 高速道路や新幹線の沿道・沿線における屋外広告物のルールづくり

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

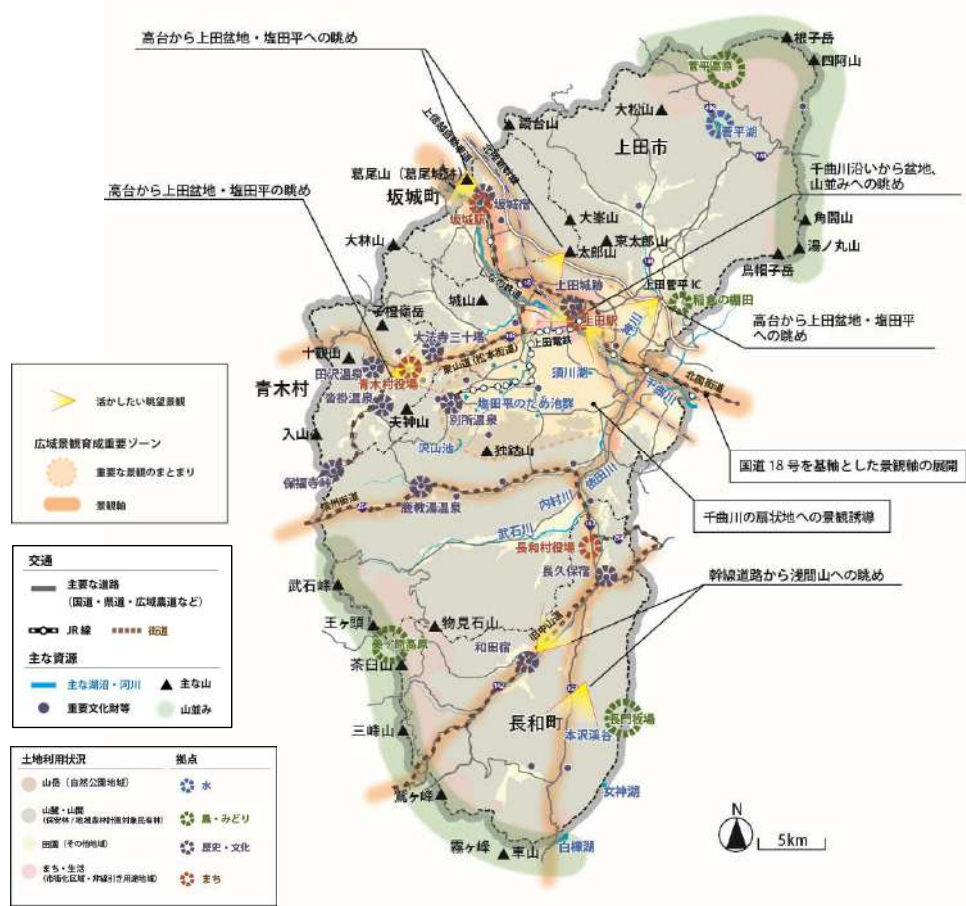
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・ 地域の大切な生活道路や商店街、高速道路のインター周辺や道の駅等の身近な拠点周辺の景観誘導、歴史文化等地域固有の景観の保全・創造に使われてきた住民協定活動の支援、担い手育成
- ・ 住民や団体と連携した河川・水辺、自然環境の保全（地域や企業と連携したクリーン活動、身近な低山の登山道や案内サイン整備等）、歴史・文化的資源を巡る取組（団体や大学等と連携したマップやルート作成）

② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・ 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり（資源のリスト化やエリア統一の情報発信等）
- ・ 地元団体や民間企業、大学と連携した周遊ルートづくりやガイドツアー、特産物と景観を結びつけるエリア振興策（ワイン用ブドウとワイナリー等）の検討
- ・ 見るだけでなく、目に見えない伝承や民話、食等の五感、移動やアクティビティとも一体となった景観体験の構築
- ・ 千曲川沿いの広域周遊ルートづくり（一般県道上田千曲長野自転車道）、サイクルトレイン（しなの鉄道）、千曲川ワインバレー等、景観育成との親和性の高い既存の取組との連携

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



# 諏訪広域景観エリアの景観育成方針

岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村

## 1. 諏訪広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴と眺望

- ハケ岳（赤岳2,899m）の西南山麓に位置し、蓼科山の山並みと南アルプス北端を望むことができる。
- 「ふるさとの見える（丘）」として、諏訪湖周及びその高台、白樺湖展望台等の山頂付近、見晴らしの良い公園が指定され、諏訪湖周、ハケ岳、南アルプス及び富士山の山・山並みが視対象である。

### ○道路・交通（交通景観軸）

- J R中央線、中央及び長野自動車道及び国道20号がエリアを縦断し、松本／伊那／山梨県の各方面を結んでいる。
- 諏訪湖スマートインターチェンジの開通により、本エリアへのアクセス性が向上。

### ○河川・水辺（河川景観軸）

- ハケ岳連峰の赤岳を源とする天竜川は、諏訪湖に集められ、西岸の釜口水門から天竜川として流出する。
- 南アルプス北部の鋸岳を源とする釜無川は、富士見町で立場川と合流し、山梨方面に流下する。
- 諏訪湖、白樺湖、蓼科湖等の湖沼や大泉等の湧水群がエリア全体に見られる。諏訪湖周は、温泉街として賑わう等、水資源が豊富なエリアであり、観光・交流の貴重な景観資源となっている。

### ○歴史・文化（歴史・文化的な景観）

- ハケ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見られない縄文時代の黒曜石鉱山があり、山梨県内を含む複数市町村が日本遺産（星降る中部高地の縄文世界）として認定されている。
- 江戸五街道の1つである甲州街道が、江戸から甲府を経由し、下諏訪まで整備された。また、中山道がエリア北部を通っており、下諏訪町には本陣が整備された。これら旧街道は、歴史的建造物や石碑等が名残をとどめている。
- 最も古い神社の一つとされる諏訪大社（上社前宮、本宮、下社春宮と秋宮の四社）が諏訪湖を囲むようにあり、その門前も含め、歴史的な景観を形成している。

### ○産業の景観

- ハケ岳山麓には広大な田園景観が広がっており、社寺林や段丘流林、防風林（茅野市の風除けの松）と相まって、個性的な景観を生み出している。
- 本エリアは信州屈指の工業地域でもあり、明治期には岡谷を中心に製糸業が発達、戦後は精密機械工業が発展した。豊富な水と澄んだ空気は精密機械に適しており、「東洋のスイス」として名を馳せた。



### 大切にしたい特徴

ハケ岳や富士山、蓼科等への眺め／ハケ岳山麓に広がる田園景観（主に高原野菜）／諏訪湖・白樺湖の湖面・水辺や湧水／諏訪湖及び周囲のアクティビティ（釣りやサイクリング等）やイベント（花火等）、美術館等／歴史のシンボルである諏訪大社とその周辺の歴史的景観／中山道、甲州街道やハケ岳エコーライン、ピナスライン等の骨格軸

### 主な視対象（広域的な景観要素）

- 富士山、ハケ岳（山、山麓）
- 諏訪湖、白樺湖、天竜川（湖面）
- 諏訪湖を囲む山々の重なりと既成市街地
- 中山道、甲州街道
- 鉄道（中央線）



シルクファクトおかや（岡谷市）



立石公園から諏訪湖への眺め（諏訪市）



風除けの松（茅野市）



下諏訪宿本陣波家（下諏訪町）



里山から富士山への眺め（富士見町）



ハケ岳山麓の田園（原村）

2. 諏訪広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- ・田園や市街地を取り囲む山並みを守り、諏訪湖・白樺湖等の水資源、ハケ岳山麓に広がる田園風景、富士山やハケ岳への眺望、諏訪大社や歴史的資源を活かし、地域住民の暮らしを豊かにする
- ・観光や産業と連携し、エリアの魅力と価値を高め、関係人口や移住者を増やし、地域の活性化を目指す

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・諏訪湖及びその周辺市街地、後背の山並みを望む眺望景観（例：立石公園、諏訪湖サービスエリア）
- ・諏訪湖畔より富士山を望む眺望景観（例：赤砂崎公園、みずべ公園）
- ・ハケ岳山麓からハケ岳を望む眺望景観（例：風除け公園、柏木農村広場）
- ・ハケ岳山麓から富士山や南アルプスを望む景観（例：立沢大規模水田地帯）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

②-1 ハケ岳山麓重点地域における広域景観の育成

●対象地域：ハケ岳山麓重点地域(当初指定地区)をベースとした周辺地域

- ・長野県と茅野市の景観計画に定める景観育成基準の統一したルールづくり（基準や取扱い等の調整）
- ・ハケ岳裾野に広がる自然豊かな景観資源と調和した屋外広告物の設置（ハケ岳西麓地域の屋外広告物に関する基本計画書、長野県屋外広告物条例）

②-2 周辺の山並みと調和した諏訪湖周の広域景観の育成

●対象地域：諏訪湖及び周辺の市街地、周囲の山並み

- ・諏訪湖周の一体感ある広域景観の育成に向けた建築物等の景観に関するルールづくり（重点地域検討）
- ・サイクリングロード整備を契機とした案内サインの統一
- ・湖周の道路や護岸、街灯等の公共施設等デザイン調整や仕様基準の検討
- ・眺望点から富士山や湖畔の建築物への眺望景観の確保
- ・湖周周辺の歴史的・文化的資源を活用した景観育成の推進

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象路線：景観拠点へのアクセス道路・街道・河川・鉄道、ハケ岳山麓重点地域内の主要な道路（甲州街道(国道20号)、JR中央線、中山道、ハケ岳エコーライン、国道299号(メルヘン街道)、ビーナスライン、高速自動車道(中央道・長野道、)、国道20号バイパス、天竜川等)

- ・沿道や車窓景観、シークエンス景観の育成
- ・街道筋に残る歴史的な資源の保全・活用等
- ・国道20号バイパス整備に際しての道路施設デザインや沿道景観に対する配慮
- ・高速道路の沿道における屋外広告物のルールづくり

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

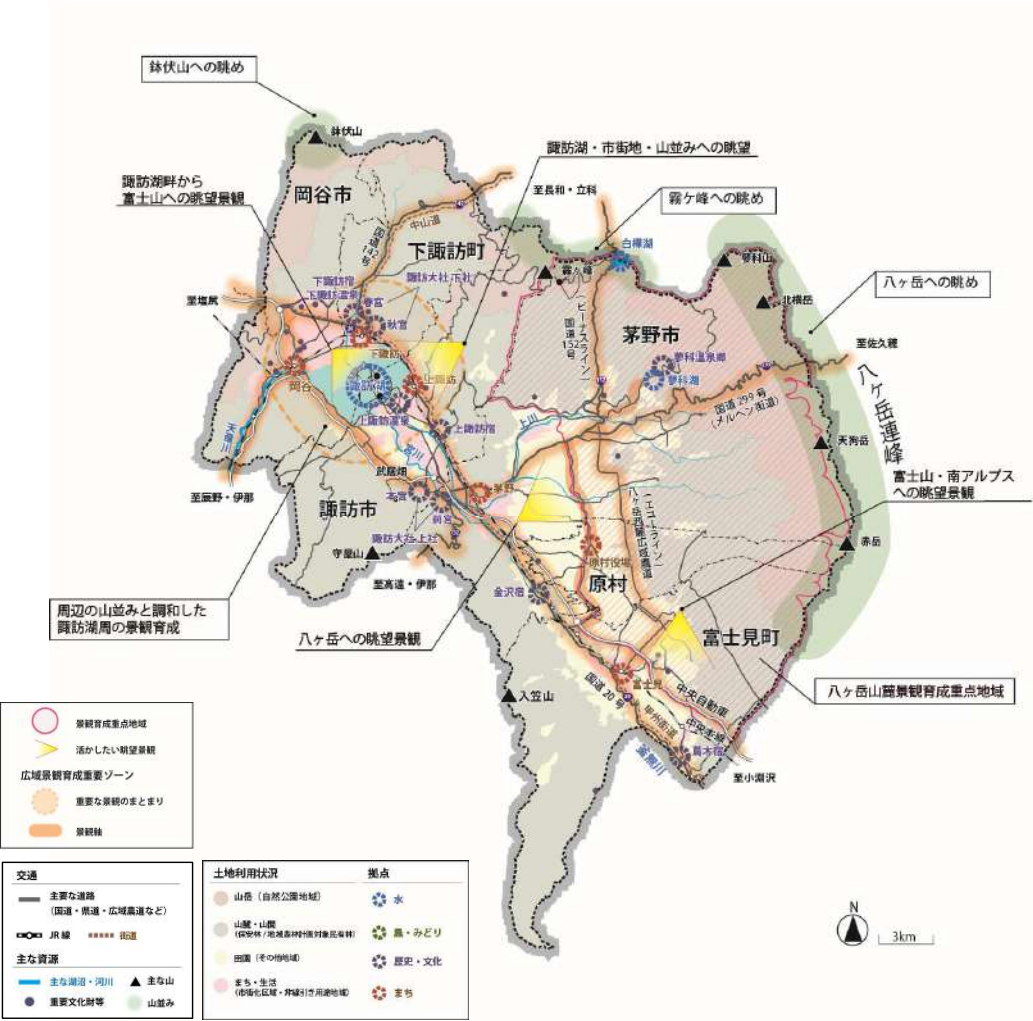
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・諏訪大社四社の参道や沿道のまち並みの修景と住民協定制度を活用した景観の維持向上
- ・御柱祭の舞台（曳行路、木落し公園（茅野市）、木落し坂（下諏訪町）等）周辺の景観育成
- ・主要な道路沿いや商店街の景観育成等、主要な通りやエリアにおける沿道型の景観育成
- ・身近な景観における緑化や花づくり、清掃や美化活動等の住民主体の景観育成の支援

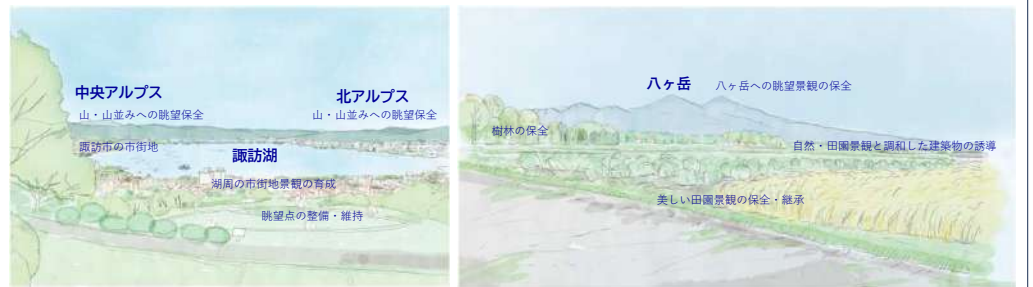
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・甲州街道に点在する歴史的建造物の保全や地場産業（酒造等）の活用
- ・諏訪湖周に広がる製糸工業等の産業遺産や片倉館の再生、歴史的なまち並みの整備、保全
- ・ハケ岳山麓にみられる坂本養川堰による開墾の歴史や踏まえた米や高原野菜等のストーリーづくり

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



# 伊那広域景観エリアの景観育成方針

伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村

## 1. 伊那広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴

- 中央アルプス、南アルプスの3000m級の山並みに挟まれ、南北に流れる天竜川沿いの伊那盆地（伊那谷、伊那平）に市街地・集落地を形成している。

### ○道路・交通(交通景観軸)

- 伊那谷にはJR飯田線、国道153号、中央自動車道が通り、エリアの主要な交通軸を形成している。
- 伊那市街で交差する国道361号は木曾方面、秋葉街道と並走する国道152号は茅野・大鹿方面のへアクセス路線となっている。
- 信州伊那アルプス街道や信州みのわ花街道（日本風景街道）、伊那西部広域農道沿いには、美しい花々や山並み、田園風景が広がっている。

### ○河川・水辺(河川景観軸)

- 伊那谷の主要な河川である天竜川には、国内最大規模の河岸段丘、田切地形が広がり、独特の景観を作り出している。
- 天竜川の支流である三峰川上流に高遠湖・美和湖やもみじ湖等美しい景観を作り出している。

### ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 戦国時代にかけて秋葉街道と杖突街道の結節点に高遠城とその城下町が形成された。現在の城址公園は、タカトコヒガンザクラが群生する桜の名所となっている。
- 江戸時代に伊那街道（三州街道）が開通すると商人や庶民の往来が増え、伊那宿では本陣や問屋等のまち並みを形成したほか、中尾歌舞伎、古田人形芝居、羽広獅子舞等の伝統芸能が大成した。

### ○産業の景観

- 天竜川沿いの肥沃な平野部を利用した県下有数の米どころである他、後背地に広がる平坦な河岸段丘部では、複合経営として果樹や野菜、花卉栽培も盛んである。
- 12月には伝統的なさざむし漁が解禁され、天竜川での冬の風物詩となっている。

### 大切にしたい特徴

中央・南アルプスの自然と眺望の景観／河岸段丘と天竜川水系の河川・水辺景観／複雑な地形を活かした農業・田園の景観／旧街道や城下町に息づく歴史・文化的景観／広域交通軸からの車窓風景と風景街道沿いの雄大な景観／伝統行事・芸能の景観／四季折々の花の景観

### 主な視対象(広域的な景観要素)

- 天竜川や三峰川、高遠湖や美和湖等の水辺景観
- 河岸段丘と田切地形
- 中央アルプスと南アルプスの山並み
- 伊那谷の田園風景(稲作、果樹、野菜等)
- 三州街道の宿場町と高遠城下町のまち並み
- アルプス街道、みのわ花街道、広域農道沿いの景観
- JR飯田線、国道153号の沿道景観



高遠城址公園の桜と南アルプスの山並み(伊那市)



中央アルプス千畳敷カール(駒ヶ根市)



小野宿問屋(辰野町)



信州みのわ花街道(箕輪町)



千人塚城ヶ池(飯島町)



「黄金の波」の田園(南箕輪村)



飯沼の棚田(中川村)



宮田の田園風景(宮田村)



2. 伊那広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- 中央アルプス・南アルプスと山々に抱かれた雄大な伊那谷の眺め、地形を縁取る天竜川の河岸段丘や田切地形、平野と段丘上に広がる田園風景、三州街道や高遠城下町、受け継がれてきた伝統芸能等の歴史・文化的資源の維持・保全・活用を図る。
- 住民協定等の景観育成によって地域住民の暮らしを豊かにするとともに、関係人口や移住・定住者を増やし、景観育成に向けた積極的な支援を行っていく。
- 既往団体と連携し、観光や農業等の視点も踏まえながら広域景観としての魅力を高め、エリアの価値向上や地域の活性化を目指す。

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- 山々や高台から伊那谷を望む景観（大城山、陣馬形の森公園等）
- 伊那谷の田園風景と遠景の中央・南アルプスの山並みを望む景観（みはらしファーム、駒ヶ根市ふるさとの丘等）
- 交通景観軸から連続的に望むシークエンス景観（信州伊那アルプス街道、伊那西部広域農道沿い等）
- 歴史的まち並みと背後の山並みが一体となった眺望景観（高遠城下町等）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：田園の拡がりや周囲の山並みによる伊那谷らしい原風景の景観保全

- 伊那谷を望む視点場や滞留空間の整備、山並みや田園風景と調和した屋外広告物のルールづくり（市町村独自の屋外広告物条例との連携）
- 一体感ある広域景観の保全育成に向けた建築物・工作物の誘導
- 稲作・野菜・果樹等多様な農業景観、桜・花桃・赤そば等花の景観、街道・城下町に残る歴史的な資源の保全・活用等

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：伊那谷の山並みや天竜川と一体となった南北を貫く景観軸

- （天竜川、JR飯田線、国道153号、三州街道、風景街道（信州伊那アルプス街道、信州みのわ花街道）伊那中部広域農道、高速道路（中央道）とその周辺）
- リニア中央新幹線開通を見据えた広域交通軸（JR飯田線、国道153号、三州街道、天竜川）における一体感あるシークエンス景観の育成
  - NPO法人や民間事業者と連携した沿道の景観育成の推進（統一感のある案内サインの普及促進等）
  - 飯田広域景観エリアと連携・連続した広域的案内サイン整備の推進
  - 高速道路の沿道における屋外広告物のルールづくり

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

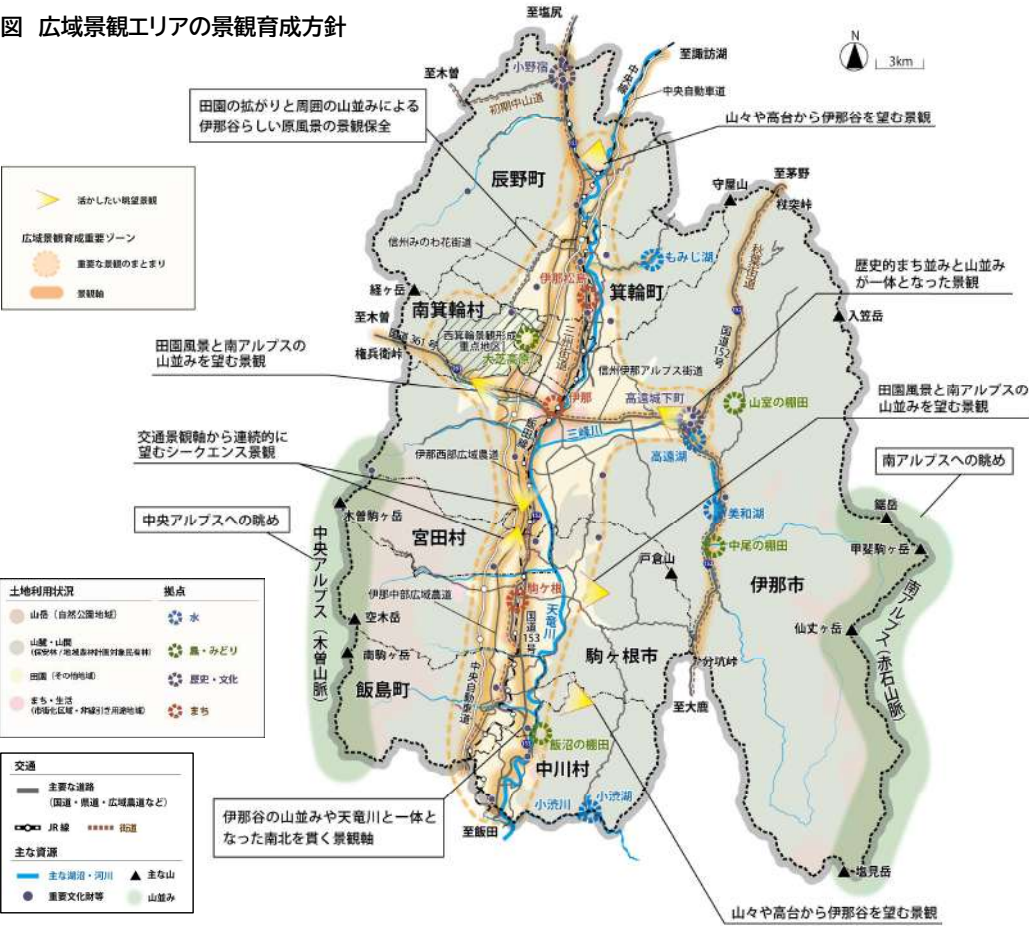
① 住民を主体した景観育成の取組による環境の維持向上

- 住民協定等を活用した住民主体による身近な景観づくりの支援と担い手の育成
- 移住定住支援を活用した空き家・耕作放棄地の発生の抑制と田園・住環境の維持向上

② 歴史・文化的資源や農業等を活用したブランディング

- 観光部局と民間の活動団体や、農政部局と連携した観光・農業の振興とブランディング化
- 高遠城下町や三州街道、秋葉街道等歴史的資源の整備保全、伝統行事・芸能の景観等地域に根付く固有の文化を継承する担い手の育成・支援
- 風景街道や文化的な保存団体との連携による歴史・文化的景観の保全・育成

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



# 飯田広域景観エリアの景観育成方針

飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下篠村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村

## 1. 飯田広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴と眺望

- 中央・南アルプス及び伊那山地に囲まれた伊那谷と天竜川、その周囲に市街地・集落地を形成し、伊那谷北部は平野部と河岸段丘、天竜川支流による谷を縁どる緑の連なり（段丘林）は田園風景の広がりとともに伊那谷を特徴づけている。
- 南部は谷が狭まり、南西部の矢作川源流域とともに山深さを感じる景観となる。
- 「ふるさとの見える（丘）」として段丘上の見晴らしの良い公園やレクリエーション施設が指定され、平野部の田園・市街地と背景の山並みの他、果樹や棚田の風景等が視対象となっている。この他に、南部の高台等からアルプスの山並みや天竜川への眺め、美しい星空が特徴的である。

### ○道路・交通(交通景観軸)

- エリア中央を南北に通るJR飯田線、国道151号・153号が主要な交通軸を形成する他、中央自動車道がエリア西部を通る。
- 飯田市街地にリニア長野県駅（仮称）開業を控えている他、三遠南信自動車道の整備が進められている。

### ○河川・水辺(河川景観軸)

- 天竜川は、変化にとんだ河川景観を有し、国指定名勝・天龍峡や、平岡ダム、羽衣崎等の景勝地、遊歩道、川下り舟、カヌー等水辺のレクリエーションの場を提供し、エリア内外の人々に親しまれている。

### ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 飯田市街地には大火でまち並みは失われたものの、城下町の面影を残す碁盤状の町割が見られる。
- 秋葉街道（国道151号）や三州街道（国道153号）、大平街道等の旧道があり、旧宿場町が分布している。
- 山間にも集落が分布し、秘境といわれる下栗の里等山的生活文化を感じる景観が見られる。
- 民俗芸能の宝庫として大鹿歌舞伎、下黒田の人形芝居等があり、神社境内等に設えられた舞台と共に大切に保存されている。

### ○産業の景観

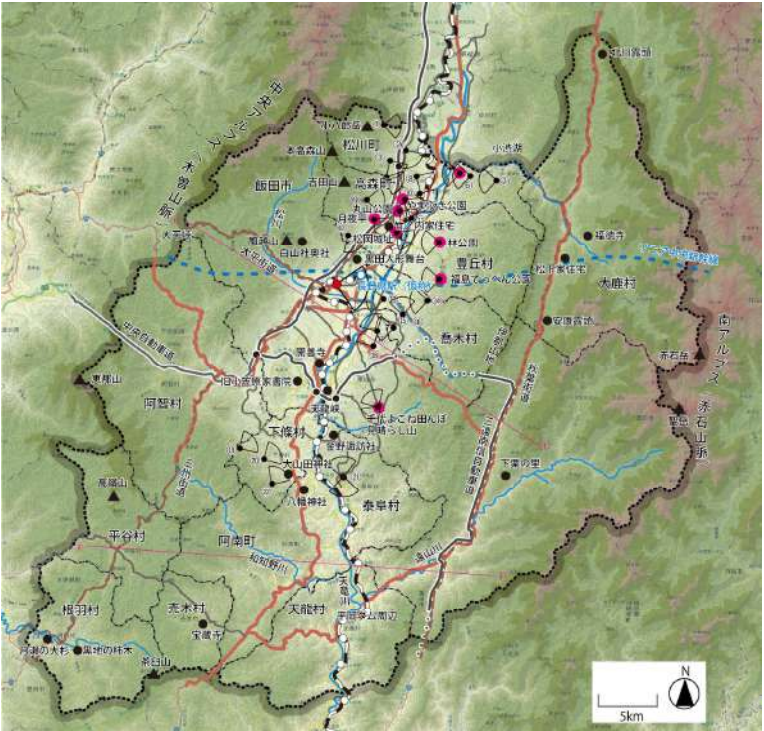
- 平野部の水田、傾斜地の棚田、水路、水脈、竜東・竜西一貫水路、段丘上の果樹（市田柿等）や花き栽培、山地部の牧場等多彩な農の風景が見られる。
- 南部を中心として豊かな森林が広がり、県認証の根羽スギ・ヒノキ等の木材及び加工品を産出している。

### 大切にしたい特徴

伊那谷から連なる中央・南アルプス、天竜川を軸とした広い伊那谷の眺め／段丘林や田切に縁取られた段状の生活・農業地のまとまり／中央構造線等複雑な地形が織りなす多彩な自然と農林業の景観と食や生活文化／サイクリングを軸としたエリアトレイルで体験できる景観／旧街道や山間部等に息づく集落と伝統芸能の景観

### 主な視対象(広域的な景観要素)

- 伊那谷を挟む中央アルプス、南アルプス、伊那山地の山並み
- 風越山等の自然豊かで雄大な山並み
- 伊那谷の風景を特徴づけている段丘林の連なり
- 樹林に縁取られた美しい田園風景
- 天龍峡等河川の景勝地



- 県指定眺望点番号別対照地点名
- ① 青木ヶ沢展望台
  - ② 上片桐バイパス
  - ③ 桑園横断線
  - ④ 増野中央線
  - ⑤ 城山公園
  - ⑥ 入倉堤
  - ⑦ 朝陽丘
  - ⑧ 城山公園
  - ⑨ アグリ交流センター
  - ⑩ 古町八幡神社
  - ⑪ 天竜川高森かわまちづくり計画地
  - ⑫ 御大の館
  - ⑬ 縄文の丘フルーツパーク
  - ⑭ 茶臼山公園
  - ⑮ 九十九公園
  - ⑯ 城山公園
  - ⑰ 常信院
  - ⑱ ひさかた和紙の里
  - ⑲ 極楽峠パノラマパーク
  - ⑳ そば畑
  - ㉑ あいパークやすおか
  - ㉒ 新井展望公園



田園・市街地と山並みの景観（豊丘村、高森町、飯田市付近）



飯田市街地と飯田城、風越山



天龍峡（飯田市）



松源寺の柿すだれ（高森町）



下栗の里（飯田市）



大鹿歌舞伎（大鹿村）



泰阜の田園風景（泰阜村）



横旗の棚田（根羽村）



# 木曽広域景観エリアの景観育成方針

塩尻市(旧檜川村)、上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村

## 1. 木曽広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴と眺望

- 中央アルプスと御嶽山系の3000m級の山々に挟まれ、総面積の約93%を森林が占める。
- 木曽川の浸食によって形成された南北約60kmにわたりV字谷地形(木曽谷)が連続する。

### ○道路・交通(交通景観軸)

- 木曽川沿いの南北にJR中央本線と国道19号が、東西に国道361号が通り、主要な交通軸を形成している。
- 旧中山道が木曽谷の限られた谷地を縫うように連続し、開田高原にかけての山間を通る旧飛騨街道や、霊峰・御嶽山へ続く御嶽古道等が連なる。

### ○河川・水辺(河川景観軸)

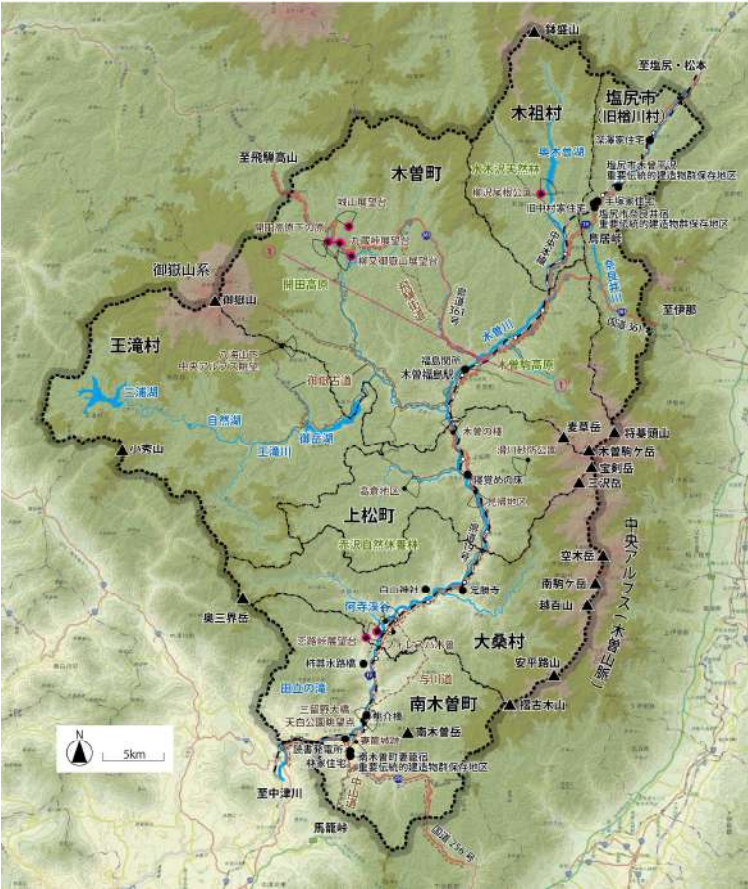
- 木曽谷の主要な河川である木曽川は、寝覚の床といった景勝地等独特の河川景観を作り出している。
- 山間部では奥木曽湖や自然湖、阿寺溪谷や柿其溪谷等、急峻な自然地形が美しい景観を作り出している。

### ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 室町時代後期には集落の形成が始まり、江戸時代に入り中山道が整備されると、木曽路(旧中山道のうち賛川宿〜馬籠宿間の俗称)は交通の要衝として11の宿場町が形成された。
- 重要伝統的建造物群保存地区に指定されている妻籠宿、奈良井宿、木曽平沢をはじめ、木曽路の歴史的なまち並みは重要な観光資源となっている。

### ○産業の景観

- 開田高原を中心とした高原地帯で栽培されるブランド野菜「御嶽はくさい」等の栽培をはじめ、木曾かぶ(赤かぶ)を乳酸発酵させた伝統的な発酵食品「すんき漬け」等、独自の食文化が根付いている。
- 豊富な森林資源を活かした林業が盛んであり、「木曽ヒノキ」はその美しい景観から日本三大美林に位置づけられている。また、木曽漆器等の地場産業やかつての森林鉄道を転用した観光列車等、製造業や観光業等の地域産業と深い関りがある。
- 豊富な水量と落差の大きい木曽川の地形を生かした水力発電施設が点在し、国の重要文化財や近代化産業遺産に指定されている。



### 大切にしたい特徴

中央アルプス・御嶽山系への眺め／複雑な地形が織りなす木曽谷・木曽川沿いの自然景観／高原や山間部に広がる農林業の風景／地域で受け継がれてきた地場産業、祭り・民族芸能の景観／旧街道に息づく宿場町の歴史・文化的景観／木曽川沿いの近代遺産

### 主な視対象(広域的な景観要素)

- 木曽川、寝覚の床、阿寺溪谷等の水辺景観
- 御嶽山・中央アルプス(木曽山脈)の山並み
- 木曽谷の棚田・開田高原の田園風景
- 旧中山道宿場町のまち並みと背後の山並み
- JR中央線、国道19号、361号の沿道景観



奈良井宿アイスカンドル祭り(塩尻市)



赤沢自然休養林と森林鉄道(上松町)



妻籠宿のまち並み(南木曽町)



御嶽山と開田高原(木曽町)



御嶽はくさいの栽培風景(木祖村)



御嶽古道(王滝村)



阿寺溪谷(大桑村)

2. 木曽広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- ① 本エリアの急峻な地形が織りなす寝覚めの床、阿寺溪谷、自然湖等の自然景観、御嶽山や中央アルプスへの眺め、御嶽山麓に広がる開田高原の景観、旧中山道の宿場町や山間の林業が育んできた歴史・文化的資源の維持・保全・活用を図る
- ② 地域住民の暮らしを豊かにするとともに、既往団体等と連携し、観光や農林業と連携して広域景観としての魅力を高め、本エリアの価値向上や地域の活性化を目指す
- ③ インバウンドを含めた多様な来訪者に親しまれ、観光資源としても重要な場所や資源を周囲の景観と調和するよう良好に保全・創造するとともに、これらをネットワークし、エリアを巡る楽しみを育成する。

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・ 御嶽山と山麓の開田高原を望む眺望景観（例；柳又御嶽山展望台、九蔵峠展望台等）
- ・ 木曽谷から中央アルプスを望む眺望景観（例；恋路峠展望台、阿寺橋等）
- ・ 木曽川沿いの自然を望む眺望景観（例；天白公園眺望点、寝覚めの床等）
- ・ 宿場町のまち並みと背後の山並みが一体となった眺望景観（奈良井宿、妻籠宿、福島宿等）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：開田高原（御嶽山麓）周辺

- ・ 景観に影響を及ぼす開発行為に対する景観に関するルールづくりの検討、既存の景観に関連する取組との連携（例；木曽町開田高原景観指針）
- ・ 高原の栽培景観と生業が一体となった集落・田園景観、山並み・地形等特徴的な景観の保全・育成
- ・ 開田高原を望む視点場の滞留空間や案内サインの整備

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：木曽川、JR中央線、国道19号、中山道とその周辺

- ・ 木曽谷の一体感ある広域景観の育成に向けた建築物等の景観に関するルールづくりの検討（重点地域検討）
- ・ 宿場ごとの伝統的な建築様式・まち並みの保存・継承
- ・ 木曽谷の広域交通軸（JR中央本線、国道19号、旧中山道）における屋外広告物のルールづくり
- ・ 木曽路の統一案内サインの維持・保全

●対象地域：景観拠点へのアクセス道路・街道・河川

（国道361号、県道20号、26号、473号、飛騨街道、御嶽古道、与川道、木曽森林鉄道跡、王滝川等）

- ・ 自然景観と調和した沿道沿いの車窓景観、シークエンス景観の育成
- ・ 屋外広告物の統一感を持ったルールづくり、インバウンドにも対応した案内サインのデザイン検討
- ・ 街道筋や森林鉄道跡に残る歴史的な資源の保全・活用等

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

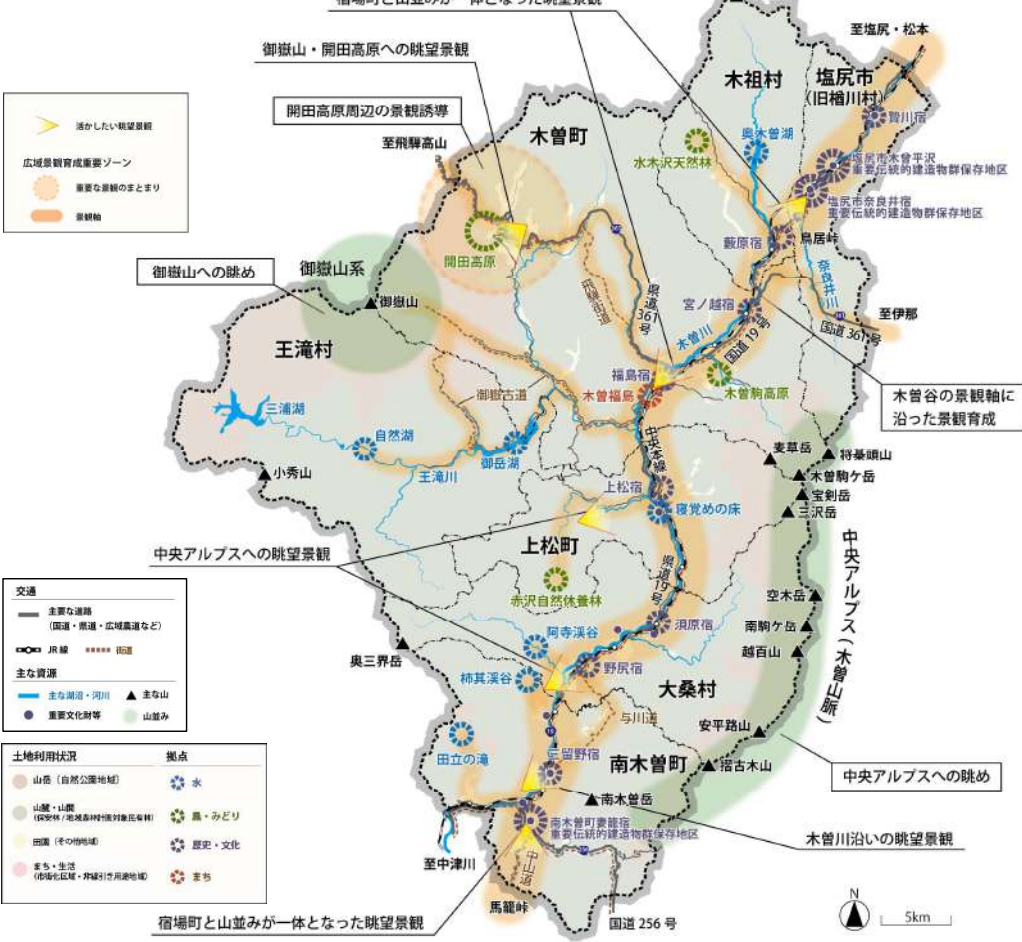
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・ 既存住民協定地区の協定運営等住民活動の支援と担い手の育成
- ・ 協定制度を活用した宿場町周辺のまち並み景観育成と住環境の向上（福島宿、宮ノ越宿、須原宿等）
- ・ 旧中山道沿いに連続する住民協定地区の広域的な連携

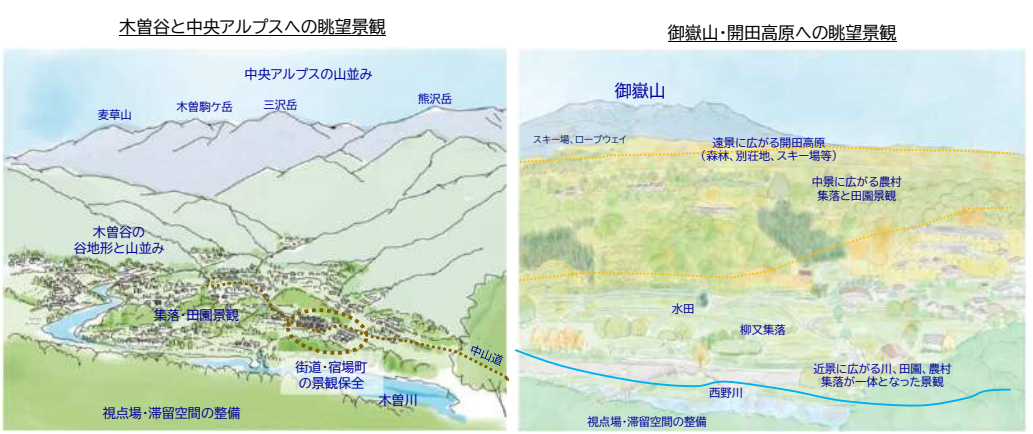
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・ 広域的な協議体を通じた、各町村・地域住民活動の情報交換や協力体制の構築
- ・ 木曽路に点在する歴史的資源（宿場町、発電所等）や自然景観（山岳、森林、渓谷、湖等）の保全と、これら資源を活用したアクティビティの創出やストーリーづくりによる広域的ツーリズムの推進
- ・ 木曽エリアに受け継がれてきた文化的景観を継承する担い手の育成・支援と新規ブランド開発による地域振興（開田高原周辺の農業景観や木曽馬の飼育風景、木曽山中の林業や木曽漆器・ろくろ細工等地場産業、木曽踊りや須原ばねそ、らぼっしょに代表される祭り・民俗芸能等）

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



# 松本広域景観エリアの景観育成方針

松本市、塩尻市(旧檜川村地区以外)、麻績村、山形村、朝日村、筑北村

## 1. 松本広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴と眺望

- 東西を北アルプス（3,000m級）、上高地や美ヶ原（2,000m級）に挟まれた松本平に田園集落地及び松本から塩尻にかけて市街地を形成している。
- 北部は聖高原の山間地域として麻績川、安坂川周辺に田園集落地が形成され、西部山麓部には平坦な田畑が広がっている。
- ビューポイントとして、塩尻市の高ボッチ高原の360度の眺望が開けた山頂からは、北アルプスの山々、諏訪湖、南アルプス、富士山までの景色を楽しむことができる。また、朝日村役場・鉢盛山や唐沢そば集落付近の高台から松本平が望め、聖高原付近からは善光寺平や北アルプスといった、広域景観エリアを超えた眺めを楽しむことができる。

### ○道路・交通(交通景観軸)

- 国道19号が主要な幹線道路であり、北アルプス方面（国道147号）、高山方面（国道158号）、諏訪方面（国道20号）の4方向を結んでいる。また国道19号と並走する長野自動車道は中央自動車道と上信越自動車道を結んでいる。
- 松本市・塩尻市にまたがる位置に松本空港が整備されており、信州の空の玄関口となっている。

### ○河川・水辺(河川景観軸)

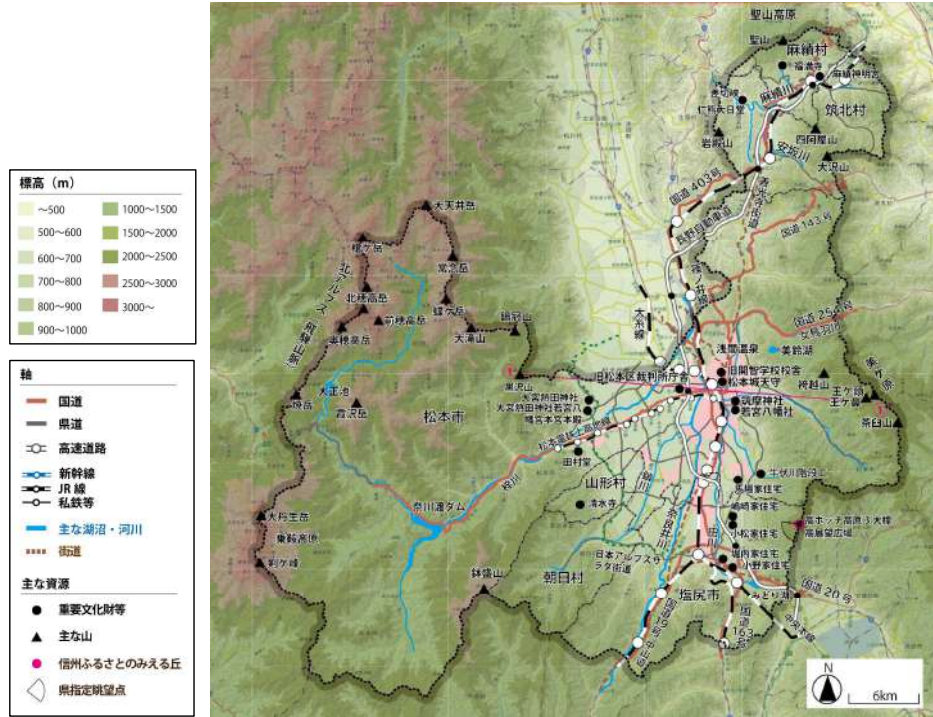
- 槍ヶ岳等に源を発する梓川は、田川、鎖川、女鳥羽川等の支流を集め、奈良井川と合流し、犀川となる。
- 北部の麻績村を流れる麻績川は、筑北村を流れる東条川や別所川と合流し、犀川に流入している。

### ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 塩尻市桔梗ヶ原には、縄文時代から平安時代まで人が暮らしていたとされ、日本三大遺跡に数えられている国史跡平出遺跡がある。
- 国宝松本城及び城下町には中町通りのまち並みや近代の建築物等歴史を感じさせる資源が分布している。
- 旧道として中山道、千国街道、善光寺街道が挙げられ、社寺や町家等往時を偲ばせる資源が分布している。

### ○産業の景観

- 塩尻市桔梗ヶ原は、全国的に知られたブドウの産地であり、信州ワインバレーの一翼を担っている。国産ワインの需要拡大を背景として、片丘地区にもブドウ畑の拡大が見られる。
- これらと朝日村の高原野菜、山形村の長芋、波田のスイカ等特産物の農村風景を結ぶ日本アルプスサラダ街道が整備されている。
- 梓川付近では散居村・水稻の栽培風景が広がり、大町・安曇野エリアの屋敷林と空間的つながりがある。



①—①'断面



### 大切にしたい特徴

高台や高原からの北アルプス・松本平への雄大な眺め／山並みと一体となった農村風景や食の風景／国宝松本城・城下のまち並みと街道筋に広がる歴史・文化的景観／広域交通軸である国道19号や147号・長野自動車道や鉄道からの車窓の景観

### 主な視対象(広域的な景観要素)

- 北アルプスの山並み／塩尻周辺から望むハヶ岳
- 美ヶ原や高ボッチ高原、鉢盛山から望む松本平
- 聖高原付近から望む善光寺平
- 松本城
- 犀川と周辺の田園風景



松本城と北アルプス(松本市)



高ボッチ高原からの眺め(塩尻市)



聖高原と北アルプス(麻績村)



日本アルプスサラダ街道(山形村、朝日村他)



河鹿沢の河野菜畑(筑北村)

2. 松本広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- 北アルプス上高地、美ヶ原、聖山高原等多彩な自然環境、安曇野へと連なる松本平を中心として形成されてきた市街地、田園・集落地の一体性やつながり、景観の秩序を維持し、継承していく。
- 松本市の城下町を中心とした善光寺街道や中山道、千国街道の宿場・街道筋に残る歴史的資源を活かし、エリアの歴史的特徴を引き立てる。
- 交通の要衝地として主要道路や鉄道からのシークエンス景観を大切に、エリアが持つ美しい景観イメージの維持や更なる醸成を図る。
- ワインバレーやサラダ街道を活かし、農村風景を食とともに味わう体験ツアー等、エリアの魅力をさらにPRしていく取組を検討する。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- 北アルプスや美ヶ原の山並みを中心に松本平と一体となった眺望景観（例：鉢盛山等）
- ハヶ岳や遠方の山並みへの眺望景観（例：高ボッチ高原等）
- 聖高原から善光寺平への眺望景観

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：山並みを背景とした松本市街地・塩尻市街地及びこれを取り巻く松本平の広域景観の育成

- 松本平周囲の山並みを背景とした建築物等への眺望景観の確保
- 大町・安曇野エリアと連続する田園の屋敷林等の維持保全策の検討
- 田園景観と調和した沿道施設等（屋外広告物、太陽光発電施設等）の誘導

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：歴史的な街道筋や農と一体となった道路

（中山道、善光寺街道、日本アルプスサラダ街道）

- 旧街道を軸とした歴史・文化的景観の育成
- サラダ街道を軸とした農の景観のネットワーク化
- 建築物や屋外広告物の統一感を持った規制誘導、広域案内サインの整備

●対象地域：景観拠点へのアクセス道路・街道・河川

（国道19号・143号、高速道路(中央道)、JR中央本線・篠ノ井線等）

- シークエンス景観の育成、広域案内サインの整備
- 統一感を持った屋外広告物設置の推進（規制地域の検討や統一した案内サインの検討）
- 高速道路の沿道における屋外広告物のルールづくり（屋外広告物規制による統一感を持った景観誘導等）

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

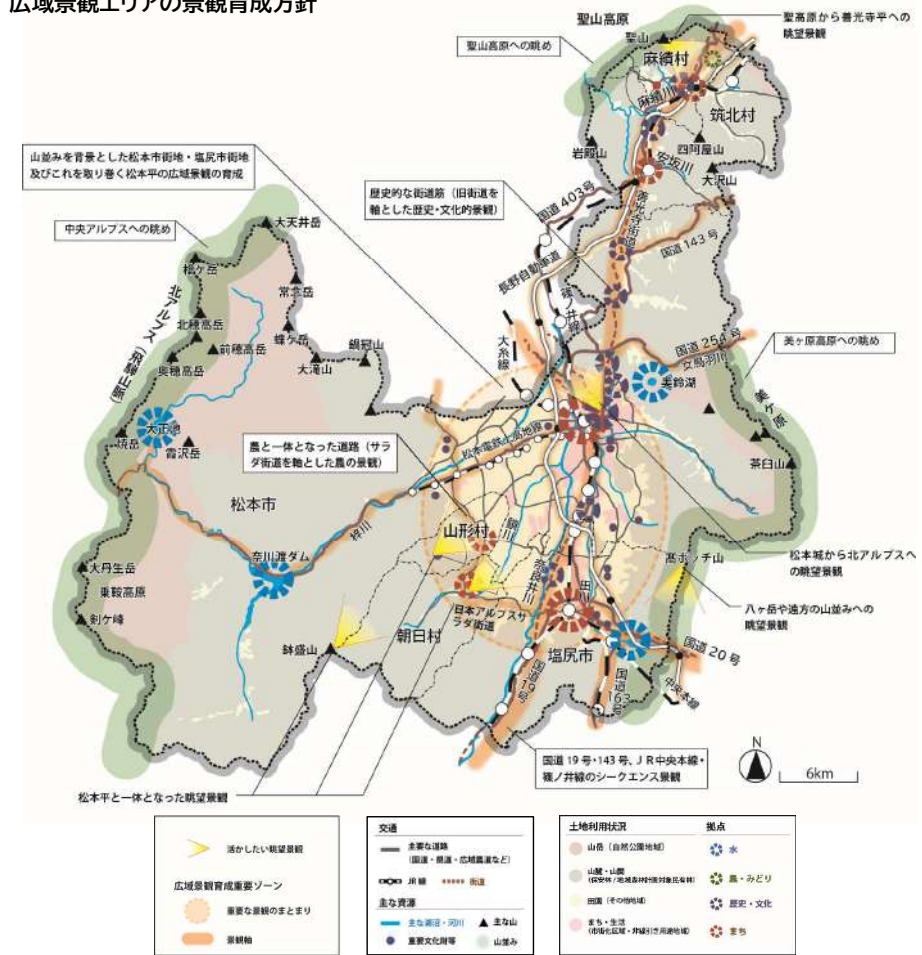
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- 既定の住民協定・住民活動の支援及び締結地区拡大の需要に応じた支援
- 里山や耕作地等での新たな宅地開発の動向を踏まえ、各市町村の土地利用施策や地域住民のまちづくり活動支援と連携した景観育成（住民協定活用の支援等）

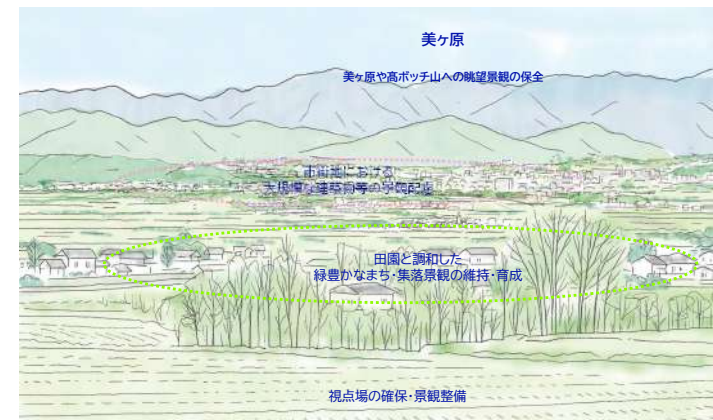
② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- 旧街道の歴史的・文化的な資産を活かした地域間交流等の促進  
→交通の要所であった地理的特性、旧街道ごとに見られる役割、複数の宿場や歴史的な建造物等をストーリー化し、歴史的資源の保全や地域間交流の促進を図る（中山道、善光寺街道、千国街道、野麦街道）  
→旧街道における統一サイン整備や景観を楽しむ場等新たな価値の検討
- 自然資源や特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討  
→「水」や「農作物」をテーマとした観光や生業と景観とつながりを強化し、新たなエリアの価値を創造

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



大町市、安曇野市、生坂村、池田町、松川村

### ○地形的な特徴と眺望

- ・ 西は北アルプス 3,000m級と前衛2,000m級の山（西山）が、東は中山山地、千曲山地（東山）が連なり、安曇野と呼ばれる松本盆地北部の低地部を囲んでいる。
- ・ これら東西の山並みを背景に、屋敷林・田園風景や果樹園、河川等の眺望や、上生坂の集落を望み眺望等が「ふるさと」の見える（丘）に指定されている。

## ○道路・交通(交通景觀軸)

- 高瀬川流域は国道147号、県道51号、オリンピック道路、J R大糸線等南北の交通軸と、県道等の東西道路で構成され、犀川流域では国道19号、国道403号、JR篠ノ井線が地域の交通軸を担っている。

## ○河川・水辺(河川景觀軸)

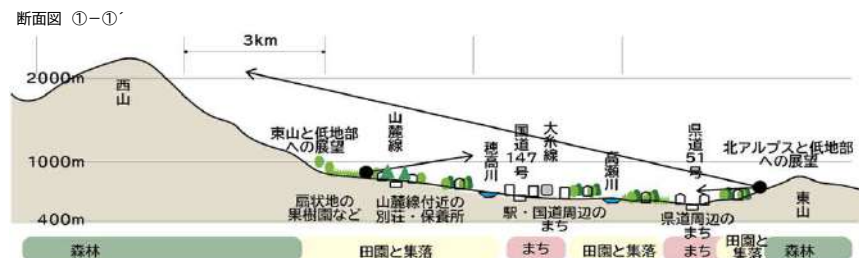
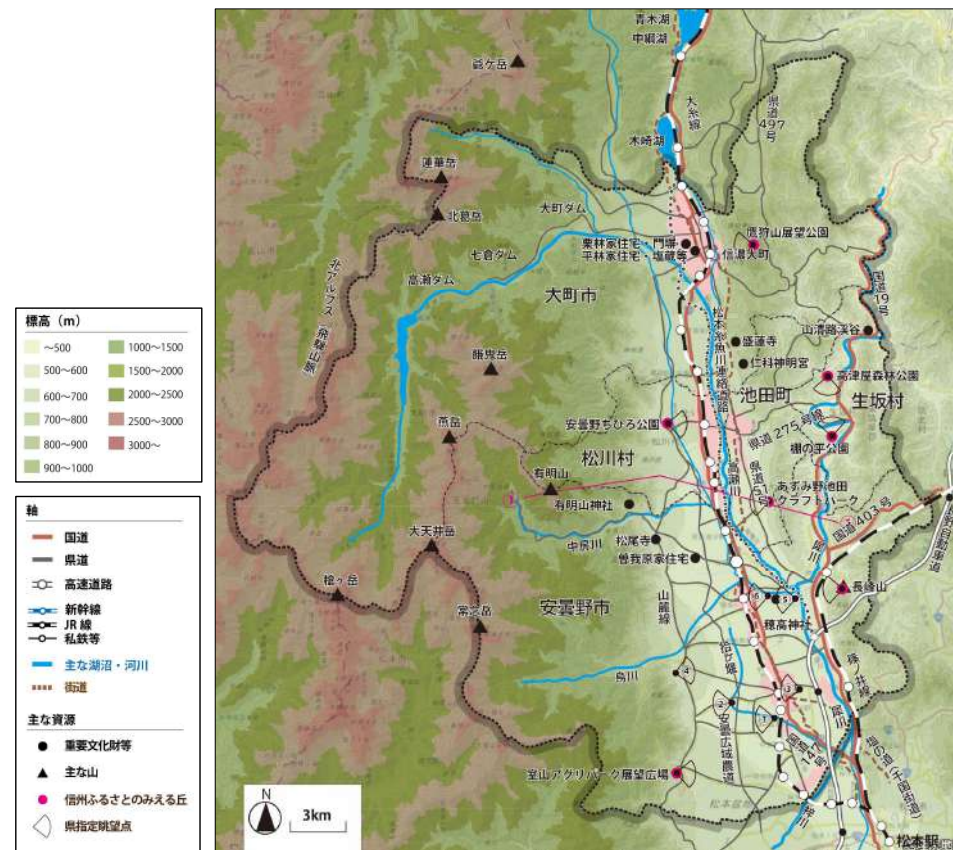
- ・ 槍ヶ岳等を水源とする高瀬川がエリア中央部を南北に流れ、梓川と合流して犀川となり、生坂村を經由し、善光寺平方面に流下している。
- ・ 犀川と麻績川との合流点にある山清路の溪谷は景勝地としても有名である。

## ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- ・江戸期の拾ヶ堰（1816）整備等新田開発が進み、豊富な湧水を背景に、近代以降わさびやニジマス養殖等の特産も開発された。
- ・千国街道（塩の道）沿いの成相新田宿、保高宿、池田宿や大町宿に町家・蔵等が点在し、石碑や水路等に往事をしのぶことができる。
- ・国指定の文化財として大町市の仁科神明宮（国宝）、盛蓮寺（重要文化財）、安曇野市の松尾寺（重要文化財）等がある。
- ・エリア内に多く点在する道祖神はその数とともに双体道祖神の愛らしさ等が固有の景観資源となっている。

## ○産業の景観

- ・低地部に広がる田園と集落・屋敷林の連なりは山麓部の果樹園や山並みと一体となって安曇野を象徴する風景となっている。
- ・松川村の酒米、安曇野市西部の烏川扇状地や神戸原扇状地等でりんご等の栽培、高瀬川沿い等でのわさび栽培、生坂村のブドウ栽培、池田町の東山傾斜地等でワイン用ブドウの栽培等、気候風土を活かした多様な農作物の栽培が行われている。



## 大切にしたい特徴

北アルプスと安曇野の田園風景や屋敷林の眺め／地下水や水田開発により生まれた複数の湧水やわさび田、レクリエーションの景観／旧街道や集落に歴史的な資源や暮らしの文化／梓橋で分岐する高瀬川流域の景観と、犀川流域の明科～生坂村へと連なる景観とのつながり

主な視対象(広域的な景観要素)

- ・常念岳、大天井、有明山、蓮華岳、白馬三山等雄大な北アルプスの連なり
- ・低地の田園・集落と屋敷林や山麓の果樹園の風景
- ・梓川、高瀬川、犀川



早春賦歌碑公園からの眺め(安曇野市)



あずみ野クラフトパークからの眺め(池田町)



棚の平公園からの眺め(生坂村)



安曇野湧水群(安曇野市)



大町宿(大町市)



曾根原家住宅（安曇野市）

2. 大町・安曇野広域景観エリアの育成方針

1)広域景観育成の基本目標

- ① 山並み・田園集落で構成される安曇野風景を大切にし、伝統的な生活文化として維持・保全を図る。
- ② 新規の沿道型立地や、移住等による宅地開発の動向を踏まえ、地域住民による協定等培われてきた景観誘導手法を活かす。
- ③ 塩の道や道祖神等の歴史文化や近代以降の別荘文化等、時代の文脈とともに追加されてきた景観資源を大切にすると地域住民活動を尊重し、安曇野の文化としての景観育成を支援していく。

2)広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- ・ 東山から北アルプスの山並みや安曇野田園集落を望む眺望景観（例：あずみの池田クラフトパーク等）
- ・ 西山から東山や安曇野田園集落を望む眺望景観（例：安曇野ひろ公園等）
- ・ 田園内から周辺の山並みへの眺望景観（道の駅アルプスほりがねの里等）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：屋敷林と田園風景による安曇野らしい原風景の景観保全

- ・ 北アルプスへの眺めや田園景観との調和に配慮した建築物や屋外広告物の誘導
- ・ 周辺市町村を含めた統一した案内サインの検討（既存サインの整理統合を含む）
- ・ 伝統的な屋敷林や農家住宅の維持保全に係る支援措置の検討

③景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

③-1 北アルプスや高瀬川と並走する幹線道路等

●対象地域：国道147号、松本糸魚川道路、北アルプスパノラマロード、JR大糸線等

- ・ 自然景観と調和した沿道沿いの車窓景観、シークエンス景観の育成
- ・ 松本糸魚川連絡道路整備に際しての道路施設デザインの景観配慮

③-2 白馬バレー広域景観エリアに連続する広域的な景観育成

●対象地域：国道147号・148号沿道景観育成重点地域をベースとした周辺区域

- ・ 北アルプスを背景とした建築物や工作物の誘導と景観育成基準の検討（重点地域の検討等）（長野県景観育成計画・安曇野市景観計画・大町市景観計画の調整）
- ・ 統一感を持った屋外広告物設置の推進（規制地域の検討や統一した案内サインの検討）

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

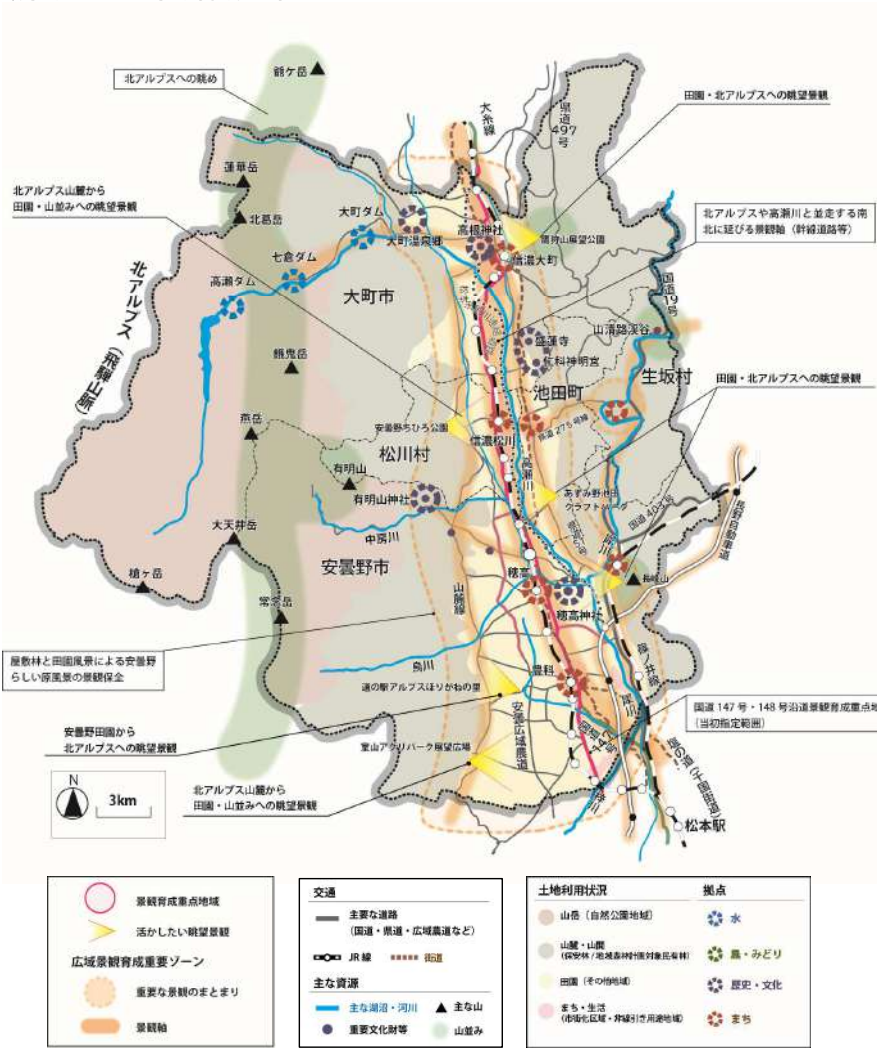
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- ・ 安曇野IC～松本糸魚川連絡道路や山麓線沿道等、開発動向に応じ、主要路線を中心に展開してきた住民協定・住民活動の支援
- ・ 里山や耕作地等での新たな宅地開発の動向を踏まえ、各市町村の土地利用施策や地域住民のまちづくり活動支援と連携した景観育成（住民協定活用等の支援等）

② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- ・ 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり  
→各市町村や住民主体による田園・屋敷林や、千国街道等のガイドツアー・交流会の情報連携やイベント連携（白馬バレーエリアとの連携も検討）
- ・ 特産物と景観を結びつけるエリア振興策（情報交換や協力体制構築）の検討  
→水・酒米・複数の酒造が揃い、ワインバレーも有するエリアとしての特徴を活かした酒蔵ツーリズム推進や地場食材体験の場づくり等

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



# 白馬バレー広域景観エリアの景観育成方針

大町市、白馬村、小谷村

## 1. 白馬バレー広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴と眺望

- 西を北アルプス、東を小谷山地に囲まれた白馬盆地とで構成され、随所より北アルプス3000m級の山々の連なりを間近に望む山岳都市の景観を有する。
- 夏場でも雪渓の残る山岳と、前景に見られる季節の彩りとの対比が特徴的であり、県内で本エリア内のみ氷河が確認されている4つの雪渓（カクネ里、唐松沢、杓子沢、不帰沢）はののうち、杓子沢氷河はまちなかからも眺められる身近なものであり、山岳ツーリズムの推進や地域学習・環境教育としての活用も期待される。
- ジャンプ台等のオリンピック施設に代表される自然景観を生かしたレクリエーション景観が広がっている。
- 県指定の「ふるさとに見える（丘）」や「眺望点」は北アルプス山麓のスキー場や山麓の公園が選ばれ、地域の生活圏と山の眺望の組み合わせで構成されている。

### ○道路・交通(交通景観軸)

- 盆地中央部をエリアの主要な交通動線である大系線や国道148号が通る他、県道長野大町線や白馬美麻線も長野駅からこのエリアのアプローチルートとして重要である。
- 歴史的な交通軸として千国街道（塩の道）が大系線至近を南北に通り、荷継ぎ町として栄えた大町宿、牛と牛方と一緒に寝泊まりしたとされる牛方宿等、随所にその面影が見られる。

### ○河川・水辺(河川景観軸)

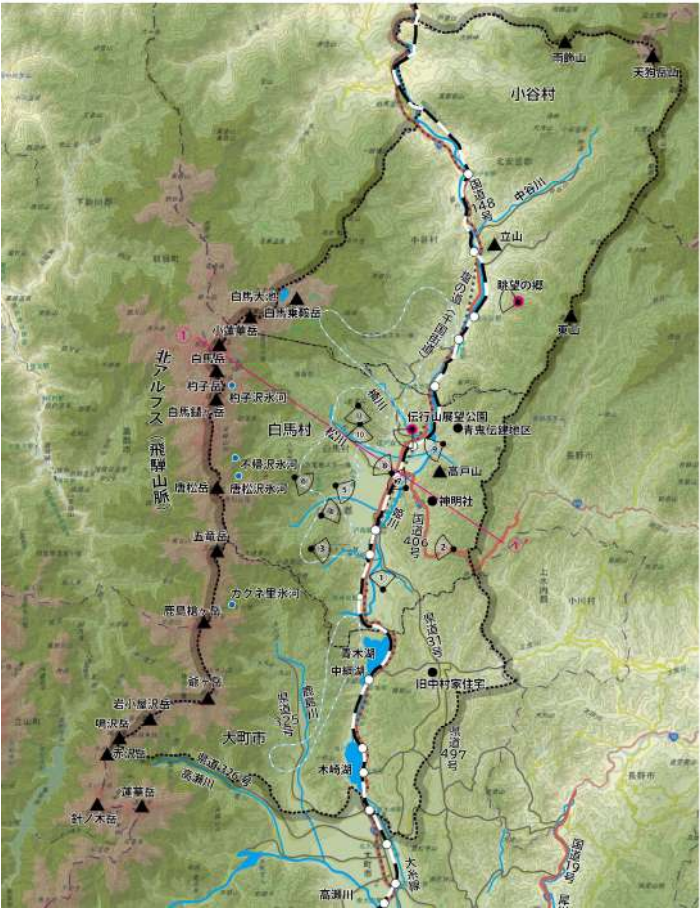
- エリア中央を流れる姫川は糸魚川・静岡構造線（フォッサマグナ）の西縁に沿って流れている。その水源は国道・民家至近の白馬村の親海湿原の湧水であり、姫川源流自然探勝園として公開されている。
- 大町市北部にある仁科三湖（青木湖、木崎湖、中綱湖）は湖底からの湧水による透明度を誇り、それぞれ特色ある水辺アクティビティが充実し、人々に親しまれている。

### ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 歴史的な交通軸として千国街道（塩の道）が大系線至近を南北に通り、その歴史は縄文時代、白馬一帯で産出されたヒスイの交易にあるとされる。荷継ぎ町として栄えた大町宿、牛と牛方と一緒に寝泊まりしたとされる牛方宿等、随所にその面影が見られる。
- 白馬村の東部山間部には重要伝統的建造物群保存地区に選定された青鬼集落があり、棚田や青鬼堰とともに昔ながらの山村集落の姿を今に伝えている。

### ○産業の景観

- 低地部や山間部等で、高冷な気候風土に根ざした、多様な特産品（紫米、雪中キャベツ、雪下ニンジン等）が栽培されている。
- 北アルプス山麓部一体は長野五輪会場となる等国内屈指のスキーリゾート地として近代以降より発展し、近年では通年型のリゾート提供地として一層の発展のため、エリア内各市村及び地元観光団体による観光DMO「HAKUBAVALLEYTOURISM」が設立された。
- 国内外のツーリスト向けの発信を行っており、通年型及び滞在型の観光戦略や、自然・歴史的環境の維持等をコンセプトとして広域的な情報発信やエリア内の整備を行っている。
- また「HAKUBAVALLEY八景」という景観を主題とした取り組みも見られる。



### 大切にしたい特徴

遠景に望む北アルプス白馬連峰、立山連峰への眺め／フォッサマグナが生み出す変化に富んだ地形／自然景観を生かしたレクリエーションの景観(仁科三湖、スキー場等)／平地部の中央を通る姫川、国道148号等のエリアの骨格軸／千国街道(塩の道)や集落に点在する歴史的な資源や暮らしの文化

### 主な視対象(広域的な景観要素)

- ・白馬駅前や、まちなか、里やリゾート地から望む、北アルプスの山並み
- ・スキー場や丘の上から望むまちや里、田園
- ・国道148号や大系線から望む、仁科三湖と山並み



白馬五竜スキー場、地蔵頭からの眺め(白馬村)



伝行山展望公園からの眺め(白馬村)



小谷の集落(小谷村)



どんぐり展望台からの眺め(白馬村)



青木湖(大町市)



青鬼集落(白馬村)



牛方宿(小谷村)



# 長野広域景観エリアの景観育成方針

長野市、須坂市、千曲市、小布施町、高山村、信濃町、飯綱町、小川村

## 1. 長野広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴と眺望

- 千曲川や犀川の扇状地である長野盆地（善光寺平）を中心に周辺の北信五岳等の山地、地すべり等で形成された緩やかな斜面、大小の河川の流れ込み等から変化に富んだ地形が形成されている。
- 都市と農山村・自然が共存するエリアであり、高原エリアに連なる丘陵地は、古墳や城址等が形成された場所も多く、山並みに囲まれた市街地、田園風景等高低差を感じる景観を望む。
- エリアを巡る河川（橋梁、沿川のサイクリングロード、水辺アクティビティ）や多様な交通軸（新幹線、高速道路、幹線道路）を移動しながらシークエンス景観を楽しむことができることも特徴である。

### ○道路・交通(交通景観軸)

- 善光寺平を中心に、JR北陸新幹線、鉄道各線、上信越自動車道、国道403号、18号、犀川沿いの国道19号等広域的な交通網が形成され、首都圏、北陸圏との近接性が高い。
- 佐渡の金銀の輸送に使われた北国街道をはじめ、各地と善光寺周辺を結ぶ信仰の道である街道筋が多くあり、宿場町が形成された。

### ○河川・水辺(河川景観軸)

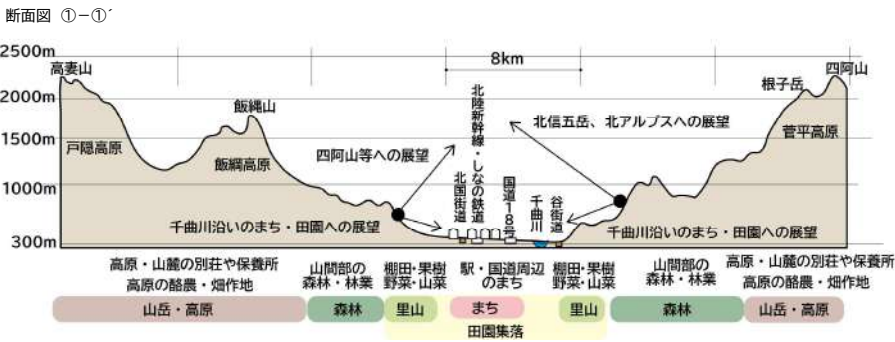
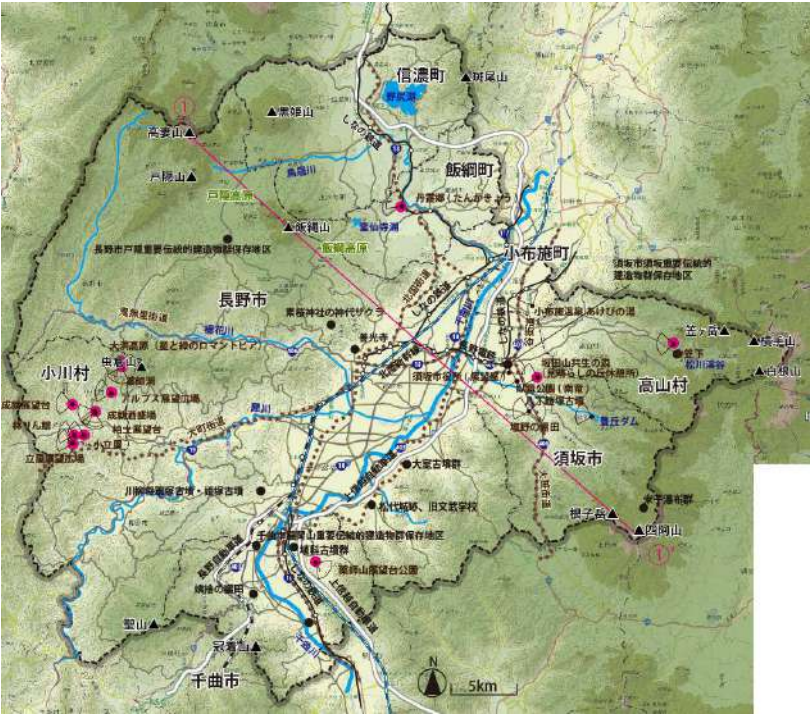
- 大規模な扇状地を形成する千曲川や犀川が骨格的な軸を形成している。千曲川では、沿川自治体が協働し、親水環境整備や水辺アクティビティの充実、広域観光ルートの構築等に取り組んでいる。
- 池沼、滝、湧水等多様な地形がもたらす水の景観が随所にみられ、北には県内最大の貯水量を誇る天然湖である野尻湖があり、透明な水の広大な景観がみられる。

### ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 約1400年前に創建されたと伝わる善光寺と門前町、各地と善光寺周辺を結ぶ街道筋が巡り、かつての街道沿いには宿場町や舟運で栄えた趣が残るまち並みや石仏等がみられる。
- 山岳信仰や古い歴史を有する社寺、宿坊が連なるまち並み、製糸業で栄えた蔵のまち並み、多くの城跡や社寺、温泉街、おやきをはじめとする固有の食文化等多様な歴史・文化的な景観を有している。

### ○産業の景観

- 善光寺平を中心に政治・経済・文化・教育等の機能が集積し、多様な産業が栄えている。特に機械・電気・食品をはじめとした製造業は地域経済を牽引している。
- 豊かな地形と水によって、盆地に広がる水田、山間地の棚田等の多様な田園風景が形成されている。また、日照や昼夜の気候差によって果樹栽培が盛んであり、市場性・生産量ともに県内随一である。
- 交通環境の良さ、自然環境や果樹栽培、歴史的な資源を活かした観光業も盛んで、河川や水辺、北信五岳や四阿山等が形成する高原エリア等、四季を通じて多様なアクティビティが体験できる環境に恵まれている。



### 大切にしたい特徴

北信五岳、北アルプスをはじめとする山々への眺め／千曲川、犀川と中小の河川が形成する水のネットワーク／歴史のシンボルである善光寺と各地を結ぶ街道筋の景観／変化に富んだ地形に寄り添う農業景観(田園・果樹・高原野菜や酪農等)／野尻湖や高原等の四季を通じて様々な体験ができる豊かな自然／利便性の高い交通環境

### 主な視対象(広域的な景観要素)

- ・北信五岳(妙高山、黒姫山、飯綱山、戸隠山、斑尾山)
- ・北アルプス
- ・善光寺平を囲む山々の重なり
- ・千曲川、犀川
- ・河川周辺の市街地、田園集落、果樹等の栽培風景
- ・鉄道(しなの鉄道・長野電鉄・新幹線)



別名「美蓉湖」とも呼ばれる野尻湖(信濃町)



丹霞郷と北信五岳への眺望(飯綱町)



栗の小径(小施町)



樹齢250年以上のしだれ桜と北信五岳への眺望(高山村)



須坂祇園まつりと蔵のまち並み(須坂市)



善光寺へ続く石畳(長野市)



北アルプスへの眺望と里の風景(小川村)



姨捨の棚田(千曲市)



# 北信広域景観エリアの景観育成方針

中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村

## 1. 北信広域景観エリアの景観特性

### ○地形的な特徴と眺望

- 県の最北端に位置し、エリア全体で千曲川沿いの扇状地と周囲を囲む山並みをベースとしたまとまりのある景観が形成され、随所から高社山や北信五岳、千曲川と一体となった市街地や集落、田園風景を望むことができる。
- 志賀高原、斑尾高原等、東部山岳地帯は、ほぼ全域が上信越高原国立公園に属している。高社山より北は最深積雪が2mを超える全国有数の豪雪地帯であり、四季折々の変化に富む景観を有する。
- 雪が多いことから高原には広大なブナの植生エリアが広がっており、水源涵養機能に優れたブナの森で浄化された清冽な水が千曲川の右岸・左岸から飯山盆地に流れ込み豊かな土壌を形成している。
- 高社山はエリアのシンボルであり「たかやしろ」「高井富士」等の愛称で呼ぶ地域もある。田園集落を前景に平地から望む景観、山頂付近から集落や河川・田園・周辺の山々を見下ろす景観のいずれも親しまれている。

### ○道路・交通(交通景観軸)

- 古くは信濃国稻荷山(長野県千曲市)～信濃国飯山(長野県飯山市)に至る谷街道をはじめ、現在のJR飯山線、国道117号、292号等、河川沿いに主要な交通軸が形成されている。
- 国道117号沿道は、花々(花街道)や千曲川、その周辺に広がる里山を望む沿道景観が形成されている。

### ○河川・水辺(河川景観軸)

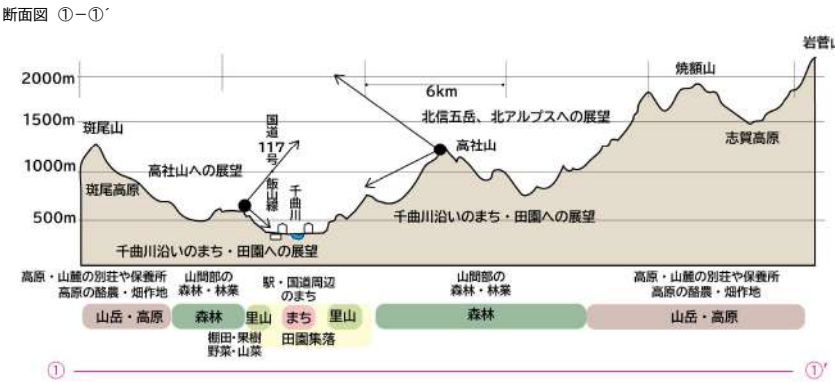
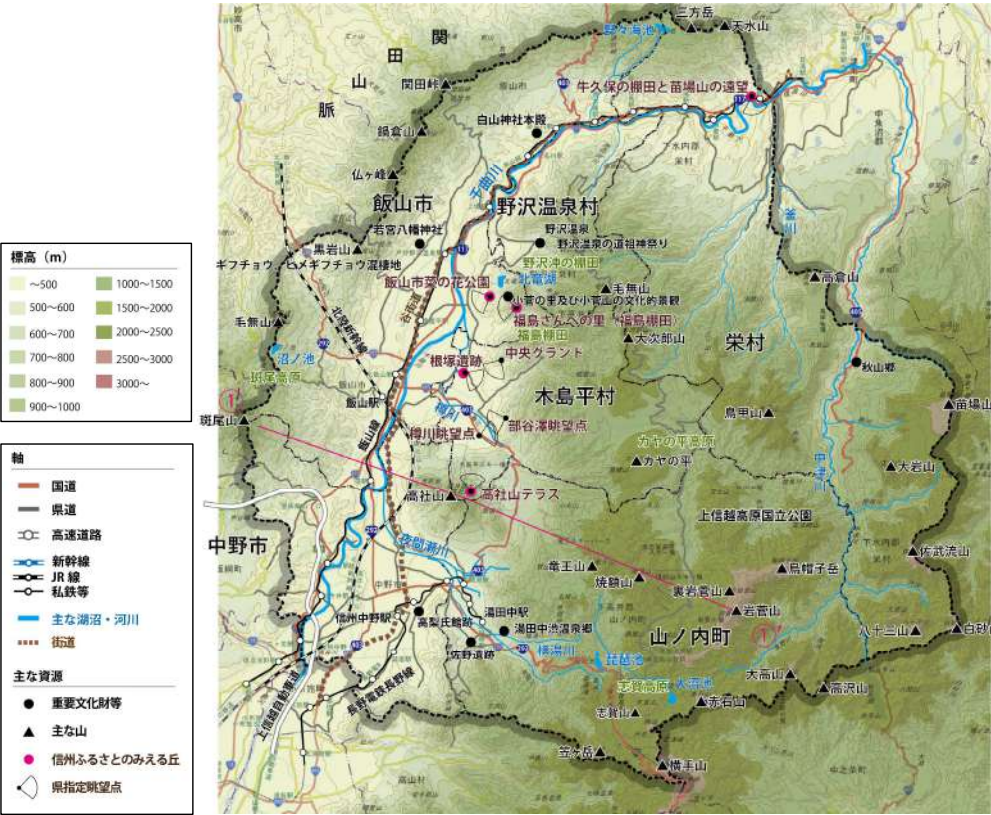
- 千曲川が骨格的な軸を形成しており、川と市街地、田園風景が一体となった景観が形成されている。また、沿川自治体が協働し、親水環境整備や水辺アクティビティの充実、広域観光ルートの構築等に取り組んでいる。
- 夜間瀬川をはじめとする河川が千曲川に流入し、河川や用水、池沼、滝、湧水等、多様な地形がもたらす水の景観が随所にみられる。龍興寺清水(平成の名水百選)をはじめとする湧水は暮らしの中で親しまれている。

### ○歴史・文化(歴史・文化的な景観)

- 飯山市の寺町や小菅地区等の神社仏閣、湯田中渋温泉郷や野沢温泉等の温泉郷等固有の歴史・文化を有する。
- ふるさとの原風景が残る恵まれた自然環境を有し、中山晋平や高野辰之「故郷」「朧月夜」に歌われた里山の風景等唱歌の世界に由来する景観が数多く残されている。
- 道祖神祭り(野沢温泉村)、黒岩山のかまくら祭り(飯山市)等、気候風土に根付いた祭礼・行事が存在する。

### ○産業の景観

- 飯山仏壇、内山紙、中野土人形、栄村つぐら等伝統的工芸品を造る地場産業に加え、千曲川が形成する扇状地や周辺を縁取る山地に沿って水田や果樹栽培等の耕地が分布し、野沢菜等の伝統野菜、きのこや山菜、りんご、ぶどう、もも、プラム等の果樹、アスパラガス等野菜や米、高原の畜産やソバ、ジャクヤク等の花き等多様な農業が展開されている。
- 志賀高原や北志賀高原、斑尾高原、カヤの平高原等の山岳高原、秋山郷等の豊かな自然環境、湯田中渋温泉郷や野沢温泉、エリアに多数あるスキー場等豊富な観光資源に恵まれた県内有数の観光エリアである。



### 大切にしたい特徴

高社山、北信五岳をはじめとする山々への眺望／千曲川とその周辺の交通軸(国道117号)が形成する沿道景観／湯田中渋温泉郷や野沢温泉等の温泉郷／日本を代表するふるさとの風景(唱歌の世界)／変化に富んだ地形に寄り添う農業(きのこ・山菜、果樹、水田、ソバ等)／秋山郷、志賀高原、苗場山等四季を通じて楽しめる豊かな自然

### 主な視対象(広域的な景観要素)

- ・高社山
- ・北信五岳(妙高山、黒姫山、飯綱山、戸隠山、斑尾山)
- ・千曲川
- ・山並みに囲まれた千曲川周辺の市街地、田園集落
- ・扇状地や山麓の水田や果樹等の栽培風景
- ・鉄道(飯山線・新幹線)
- ・秋山郷、苗場山、高原等の自然景観



千曲川・花の里風景街道・国道117号(栄村、野沢温泉村、飯山市、中野市)



蛇行して流れる千曲川と田園(栄村)



野沢温泉・大湯(野沢温泉村)



田園集落と山々への眺め(木島平村)



小菅の里及び小菅山の文化的景観(飯山市)



田園集落を前景に望む高社山(中野市)



湯田中駅と楓の湯(山ノ内町)

2. 北信広域景観エリアの育成方針

1) 広域景観育成の基本目標

- 南北を縦断する千曲川と交通軸（国道117号、飯山線）は、広域的な移動の軸、エリア内の景観育成の拠点へのアプローチ軸として、魅力を高めるとともにエリア内のまとまりが感じられる景観を創出する。
- シンボルである高社山、北信五岳への眺めは、その前景となる田園・集落の美しさとともに保全・育成する。
- 県内外、インバウンドの来訪者に親しまれ、観光資源としても重要な場所や資源を周囲の景観と調和するよう、良好に保全・創造するとともに、これらをネットワークし、エリアを巡る楽しみを育成する。

2) 広域景観育成の基本方針

2-1 広域景観の育成を先導する取組

① 活かしたい眺望景観

- 千曲川沿いの田園集落を前景に平地から望む高社山、北信五岳への眺望景観（例：中野市たかやしろ・見晴らし街道、飯山駅ホーム、千曲川沿いの田園地帯）
- 千曲川沿いの橋梁や公園等の眺望スポットから飯山盆地を望む眺め（例：中央橋、飯山市菜の花公園）
- 山々や高台から望む飯山盆地とそれらを囲む山並みから成るまとまりのある景観（例：高社山テラス）
- 鉄道（飯山線・新幹線）から連続的に望む景観（例：新幹線、飯山線の車窓景観）

② 景観のまとまりにおける広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：高社山麓・千曲川下流域景観育成重点地域(当初指定範囲を含む)をベースとした景観育成

- 景観行政団体市町村と長野県の景観計画に定める景観育成基準の統一したルールづくり（基準や取扱い等）
- 高社山等地域のシンボルとなっている山並みを背景とした眺望景観の保全
- 飯山盆地に広がる田園集落、山麓の果樹栽培の風景の保全・活用

③ 景観軸における広域景観育成の推進（広域景観育成重要ゾーン）

●対象地域：千曲川と周囲の山並みとが一体となった景観軸の景観育成（千曲川、国道117号、国道292号、403号、405号、新幹線 等）

- 主要な交差点、橋梁等ポイントとなる場所の景観整備、沿道の道路付属物等の景観配慮
- 沿道のシークエンス景観とともに特に眺望の美しい区間や眺望スポットの育成
- 建築物・工作物や屋外広告物のルールづくり、統一サインやエリア内の巡りを促すサインの整備
- 公共施設の質の向上（景観重要公共施設、デザイン協議等）
- 千曲川・花の里山風景街道（一般国道117号）、千曲川かわまちづくり（河川沿いの広域周遊ルートづくり）等の既存の取組と連携した景観育成
- 国道117号線や新幹線の沿道・沿線における屋外広告物の規制誘導

2-2 景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

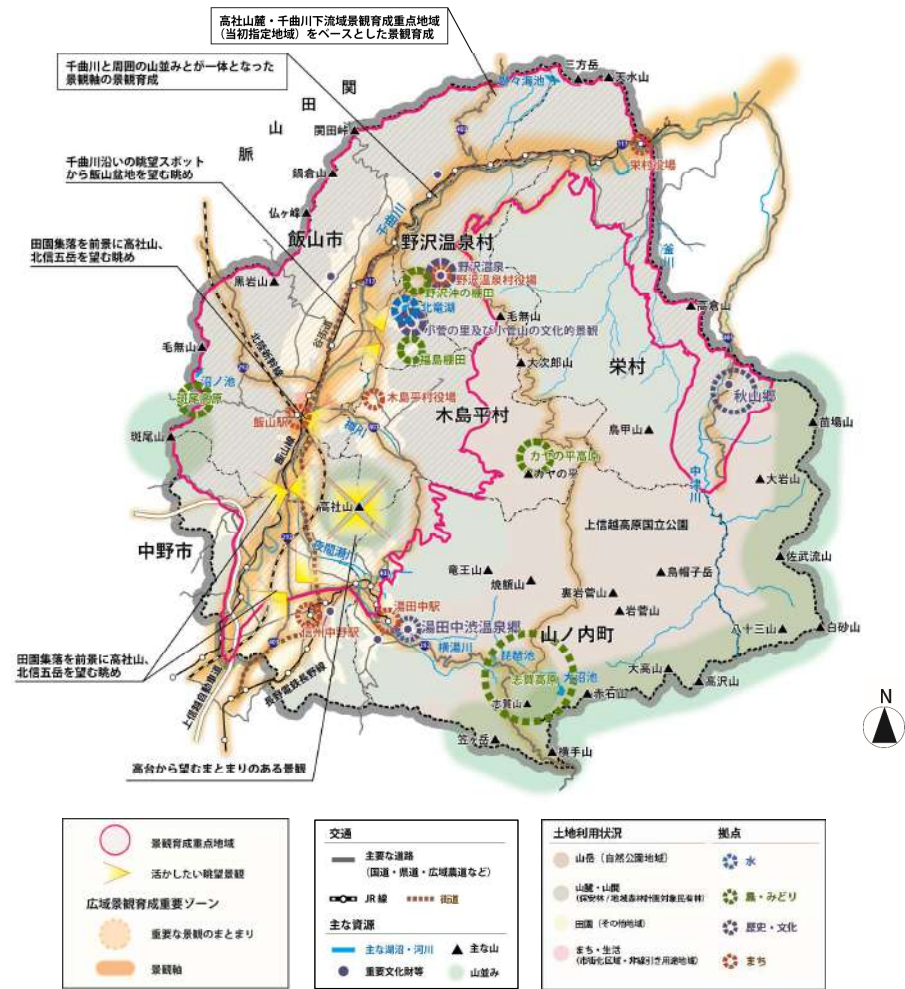
① 住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上

- 住民協定や住民主体の活動の支援、担い手育成（身近な生活環境（市街地、集落地）や歴史・文化的まち並みや自然・田園等の保全・創造）
- 景観拠点とその周辺における、花・みどりづくり、案内サインづくり、インバウンドへの対応も含めた建築物や広告物のルールづくり

② 歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

- 景観資源活用の情報交換や協力体制構築の場づくり（資源のリスト化やエリア統一の情報発信等）
- 豪雪地帯ならではの四季、スキー場・ウィンタースポーツ文化のエリア統一のイメージづくり、情報発信
- 飯山仏壇、内山紙、中野土人形、栄村つぐら等伝統的工芸品を造る地場産業を活かした景観（まち並みや産地の維持・保全、建築物やサインへの技術活用等）
- 水田や果樹栽培、野沢菜等の伝統野菜、きのこや山菜等、多様な特産物と景観を結びつけるエリア振興策の検討（産地とセットでブランディング、ツアーへの活用等）

図 広域景観エリアの景観育成方針



眺望景観を活かした景観育成イメージ



## 第6章 長野県景観育成ビジョンの推進体制

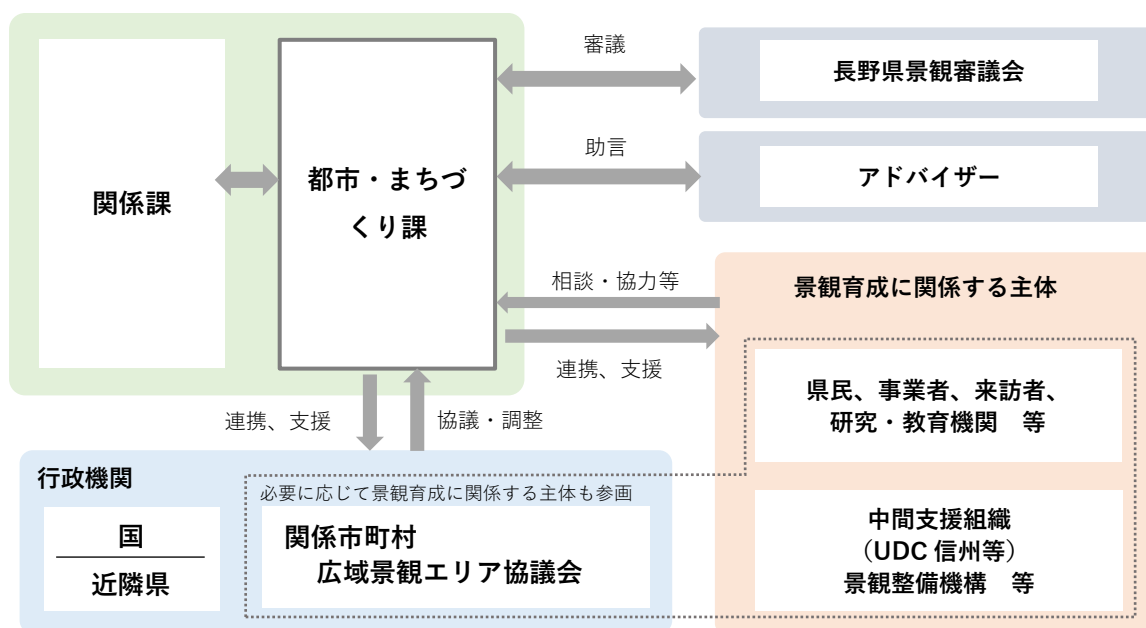
### 6-1 推進体制

#### (1) 長野県景観育成ビジョンの推進体制の全体像

長野県景観育成ビジョンの推進にあたっては、関係機関との横断的な体制を整え計画的に進捗管理を行います。

長野県景観育成ビジョンに基づく事務事業の実施にあたっては、長野県と関係する主体として、国や近隣県などの広域行政機関、関係市町村と連携を図り事業を実施します。

図 長野県景観育成ビジョンの推進体制



#### (2) 景観審議会

景観の育成に関する重要事項について調査審議するため、長野県景観条例第 34 条に基づき、景観審議会を設置し、県知事の諮問に応じて、景観の育成に関する重要事項を調査審議することとし、学識経験者等の 15 人以内の委員をもって組織します。

#### (3) 専門委員会

景観に関して専門の事項を調査するため必要があるときは、長野県景観条例第 39 条に基づき、専門委員会を設置することができます。専門委員は、県知事の諮問に応じて審議することとし、学識経験者等の委員をもって組織します。

#### (4) 広域景観エリア協議会

市町村界を超えた一定のまとまりのある広域的な景観を推進するため、広域景観エリアに属する市町村と県で検討や意思統一を図るための広域景観エリア協議会を設置し、必要に応じて地域で景観育成に取り組む団体や事業者等も参画し景観育成に取り組みます。

## 6-2 進捗管理の方法

### (1) 実行計画の作成

長野県景観育成ビジョンで掲げる基本理念や役割分担等を踏まえ、短中期的に達成する目標とその実現に向けた戦略や具体の施策を、景観育成に直接関連する事業と間接的に関連する事業とに整理した、実行計画を作成します。

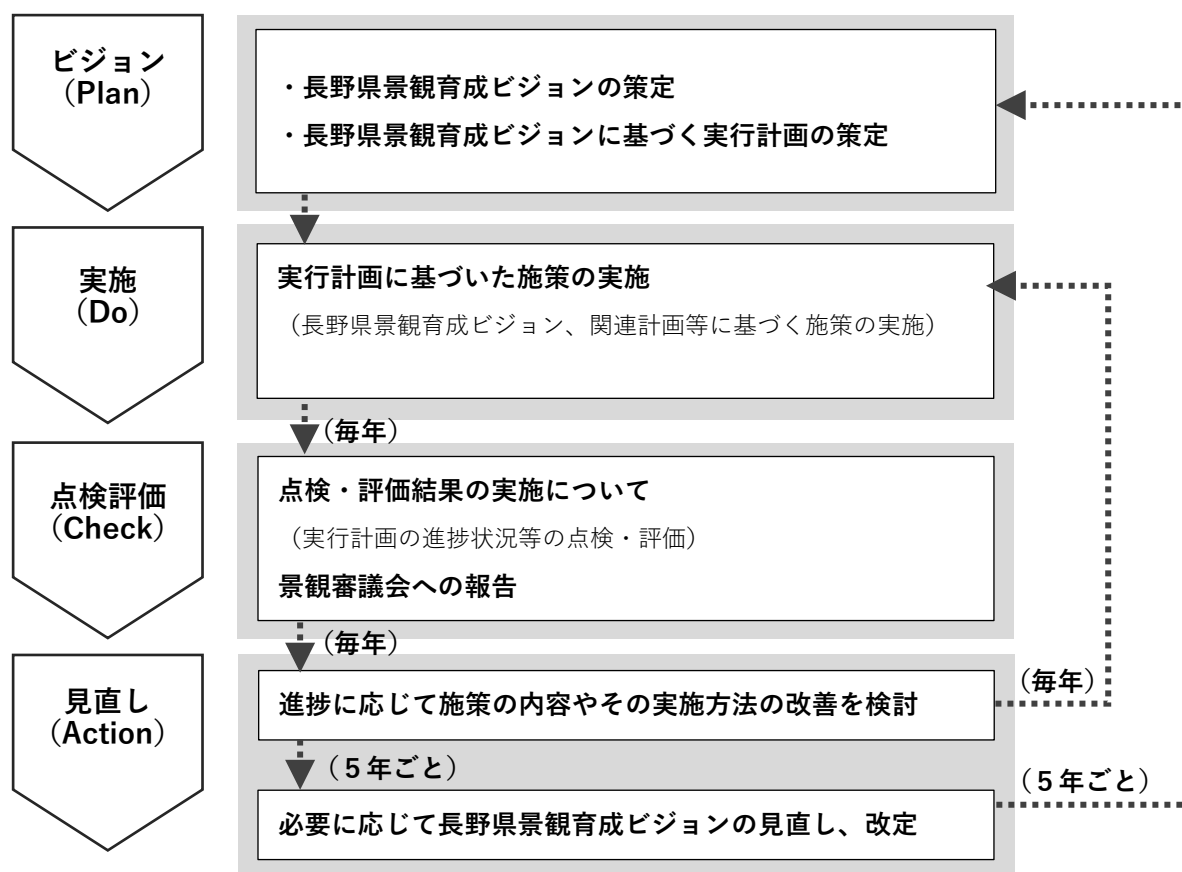
なお、事業の進捗等により追加削除が必要となるため、実行計画はビジョンとは別冊とし進捗管理を行うものとしします。

### (2) PDCAサイクルによる進捗管理

長野県景観育成ビジョンの運用にあたっては、PDCA サイクルの考え方に基づく進捗管理を行いながら計画的な取組を推進します。

長野県景観育成ビジョンの実現のため実行計画を作成し毎年の事業管理を行っていくこととし、5年を目途にそれまでの取組状況を踏まえ必要に応じて長野県景観育成ビジョンの見直しを行います。

図 景観育成ビジョンの進捗管理の流れ



## 使用写真

### ●ふるさと信州風景 100 選



065 開田高原  
P 7



071 妻籠宿の水鏡  
P 7



027 稲倉の棚田  
P 8



005 野沢温泉  
P 8



022 姨捨の棚田  
P 8



067 高倉集落  
P 9



063 高ボッチ高原  
P 14



019 芦ノ尻の道祖神  
P 14



086 駒ヶ岳の雪形  
P 14



029 ワインぶどうの丘  
P 27



056 安曇野の道祖神と屋敷林  
P 27



041 小海高原  
P 43



039 野辺山高原  
P 43



042 御座山麓  
P 43



040 南佐久のブルーベリー栽培  
P 43



028 塩田平のため池  
P 45



075 風除けの松  
P 47



078 富士見の田園  
P 47



077 ハヶ岳山麓の田園  
P 47



083 六道の堤と高速桜  
P 49



087 千人塚城ヶ池  
P 49



085 宮田の田園  
P 49



092 市田の鐘桜柿すだれ  
P 51



098 泰阜の田園  
P 51



103 横旗の棚田  
P 51



064 奈良井宿  
P 53



071 妻籠宿の水鏡  
P 53



066 御嶽はくさい  
P 53



069 湫谷と里山  
P 53



051 聖高原  
P 55



062 日本アルプス街道 街道  
P 55



052 河鹿沢の野沢菜畑  
P 55



054 安曇野クワトロパーク  
P 57



045 小谷の集落  
P 59



046 青鬼集落  
P 59



007 丹霞郷  
P 61



013 高山のしだれ桜  
P 61



020 小川の集落  
P 61



008 きじまだら  
P 63

## ●GO NAGANO



ビーナスライン  
P 7



雲場池  
P 41



白樺湖  
P 41



御嶽山  
P 53



王滝村御嶽古道霊神碑  
P 53



野尻湖  
P 61

## ●その他



松本城  
写真提供：松本城管理課  
P 7



松本城  
写真提供：松本城管理課  
P 55



中央アルプス千畳敷カール  
出典：駒ヶ根観光協会ライブラリー  
P 49



須坂祇園まつりと蔵のまち並み  
出典：一般社団法人信州須坂観光協会  
P 61

# ■長野県景観育成ビジョンの概要版

## 第1章 背景と目的

### 1-1 ビジョン策定の背景と視点(現状とビジョン策定の動機)



〈現 状〉

#### 景観法施行による市町村の景観行政団体移行

- ・ 77市町村うち29市町村が景観行政団体へ移行、地域の個性を尊重した景観を育成

#### 県による景観育成の取組状況

- ・ 平成4年に県独自の景観条例を制定し景観行政がスタート
- ・ 市町村をまたぐ**広域的な景観育成重点地域(4地域)**を指定し**広域景観**を育成
- ・ **住民主体による景観育成を図るため景観育成住民協定の認定(176か所)**
- ・ 「信州ふるさとの見える(丘)」をはじめ、景観への普及・啓発を促進

〈ビジョン策定の動機〉

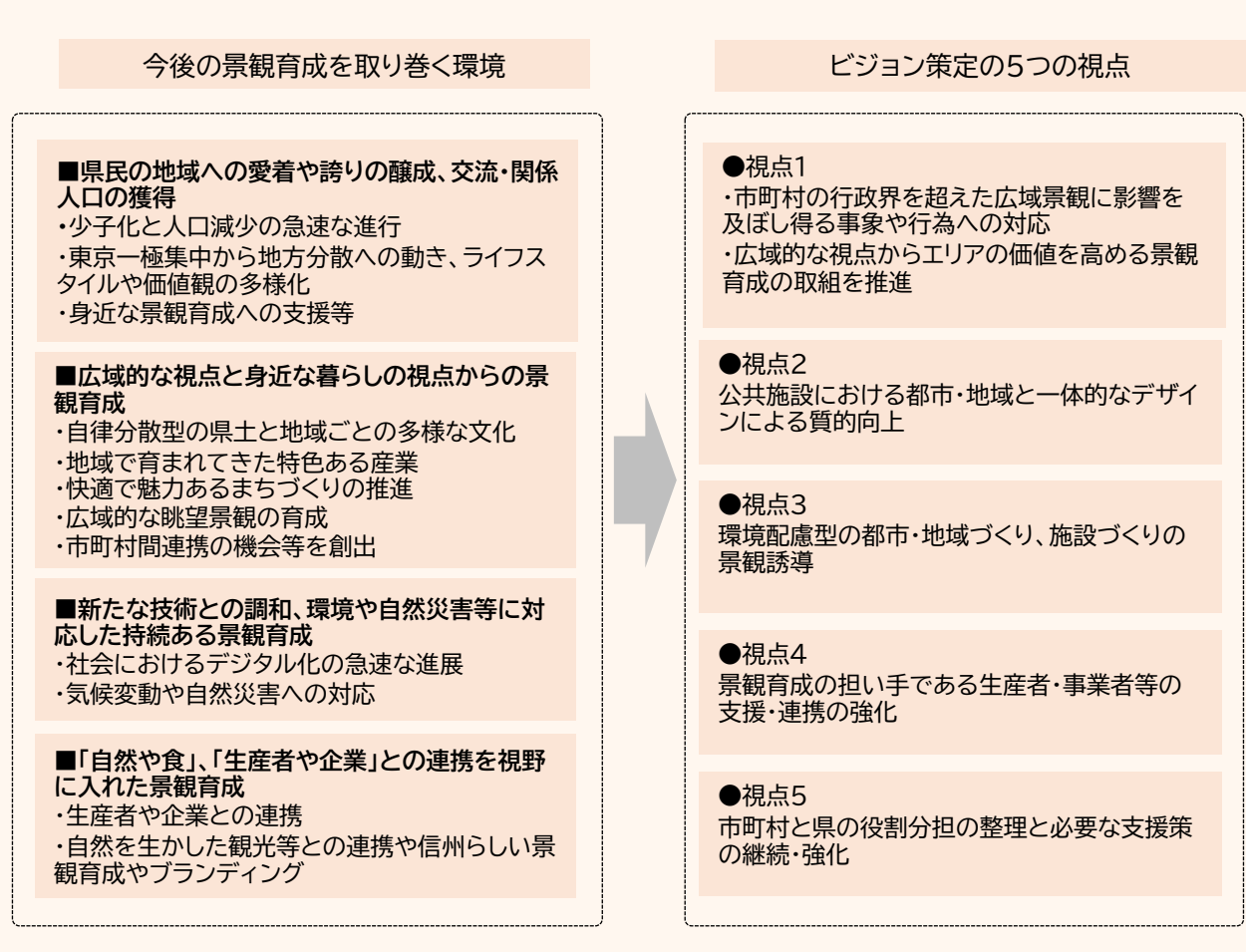
- ・ 人口減少社会を迎え、**地域の魅力を高めエリア全体の価値を高めていくことが必要**
  - ・ 景観行政団体による独自取組が推進、一方、**行政界をまたぐ広域的な景観育成の視点**が課題
- ⇒ **地域ごとの景観育成の基本方針を明確にし、あらゆる主体と景観育成の理念を共有しながら取組を進めるため、景観育成の方針を示した「長野県景観育成ビジョン」を策定**

## 第2章 長野県の景観特性とビジョン策定の視点

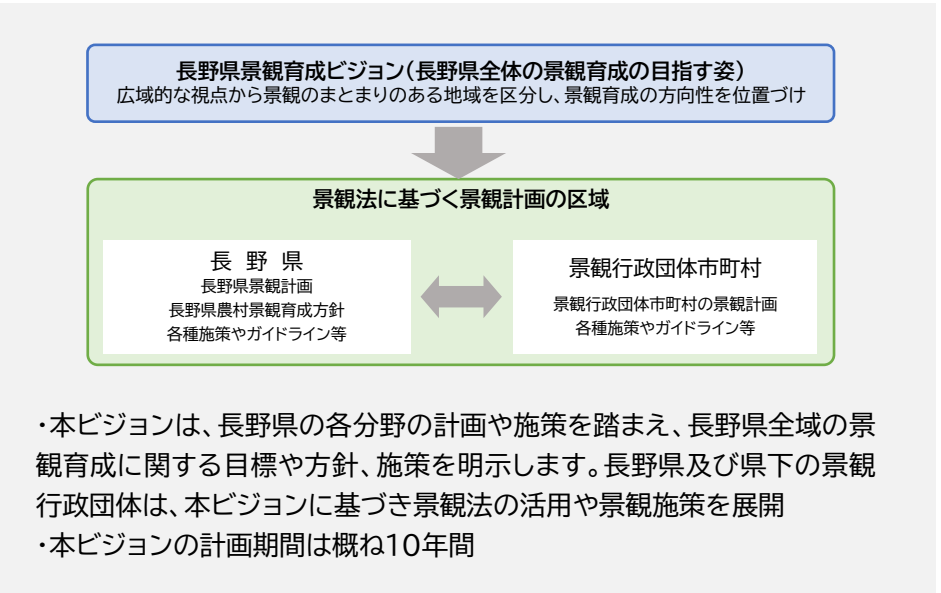
### 2-1 長野県の景観特性と景観育成を取り巻く環境

### 2-2 ビジョン策定の5つの視点(課題と視点)

景観にまつわる現状や特性を踏まえ課題を整理、ビジョン策定の視点を明示し景観育成の基本理念を検討



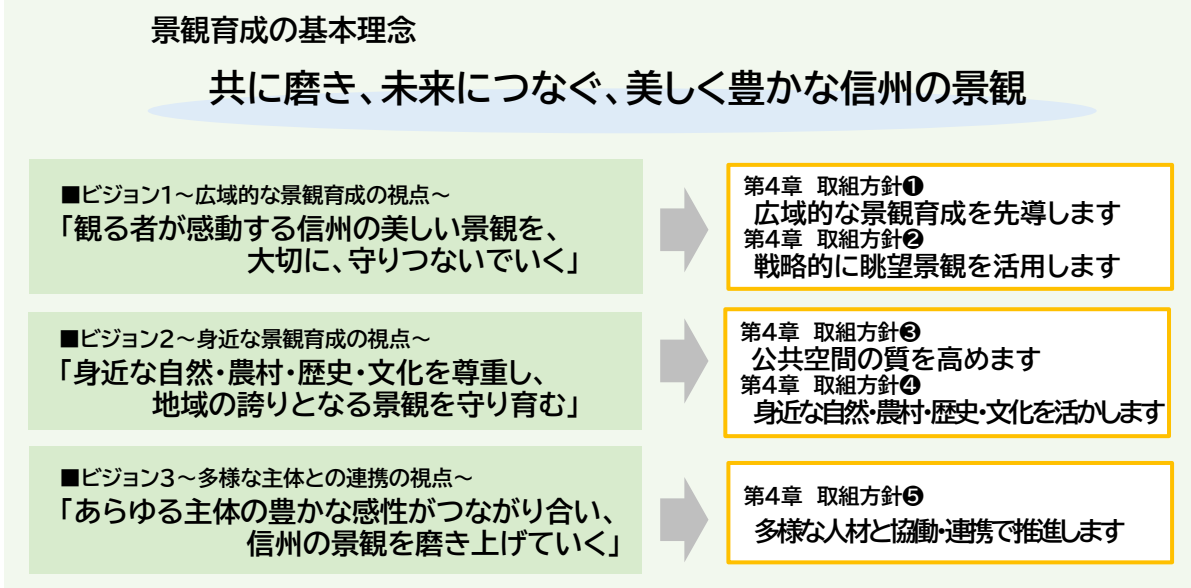
### 1-3 ビジョンの位置づけと計画期間



## 第3章 景観育成の基本理念

### 3-1 景観育成の基本理念、3-2 景観育成の3つのビジョン

多様な主体が連携・協働し、未来に向けて景観をつなぐ精神を踏まえ基本理念を設定。ビジョン策定の5つの視点を踏まえ、将来に向けた景観育成のビジョンを定めるとともに景観育成の取組につなげる



### 3-3 パートナリシップによる景観育成



第4章 景観育成の5つの取組

それぞれの主体に期待される役割も示しながら次の5つの取組方針を定め、取組方針を実現するための取組方策を明示

取組方針① →主体:長野県

広域的な景観育成を先導します

- ・広域景観エリアを区分し、景観育成の方向性を明示
- ・重点的に景観育成に取り組むエリアを設定し市町村と連携

取組方針② →主体:市町村・長野県

戦略的に眺望景観を活用します

- ・眺望点(ビューポイント)の指定や保全
- ・広域景観保全の仕組みを導入(広域景観アセスメント制度)

取組方針③ →主体:長野県

公共空間の質を高めます

- ・地域の景観特性を尊重した公共デザイン誘導
- ・地域のアイデンティティーを尊重した景観保全の推進

取組方針④ →主体:県民・事業者・市町村・長野県

身近な自然・農村・歴史・文化を活かします

- ・長野県農村景観育成方針の展開
- ・農山村風景や自然風景、歴史・文化

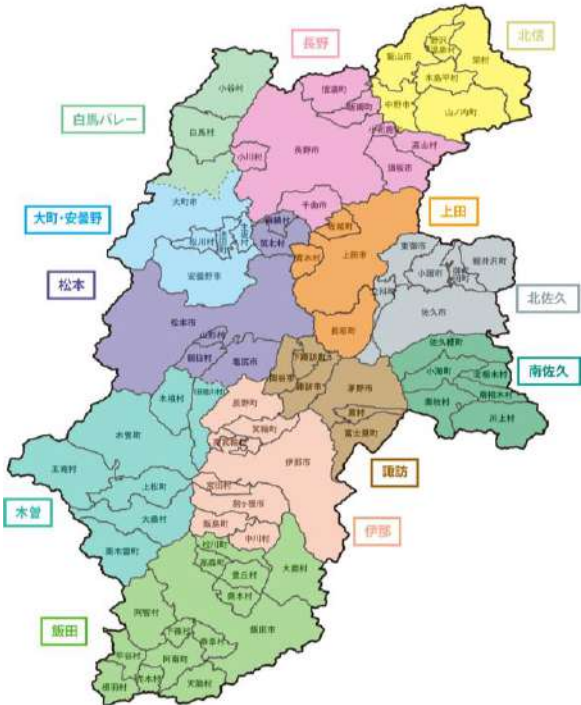
取組方針⑤ →主体:県民・事業者・市町村・国・長野県

多様な人材と協働・連携で推進します

- ・勉強会や交流の機会を通じて、景観育成の取組強化
- ・専門家の派遣や景観育成住民協定等、景観育成を支援

取組方針①-②

広域景観エリアの設定、広域景観エリア協議会による取組の推進

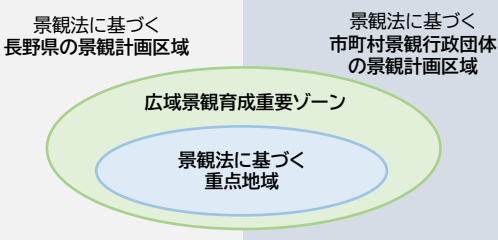


取組方針①-③

重点的に広域景観の育成に取り組む地域の設定

良好な広域景観の育成を重点的に進めるため「広域景観育成重要ゾーン」の設定検討を進めます。

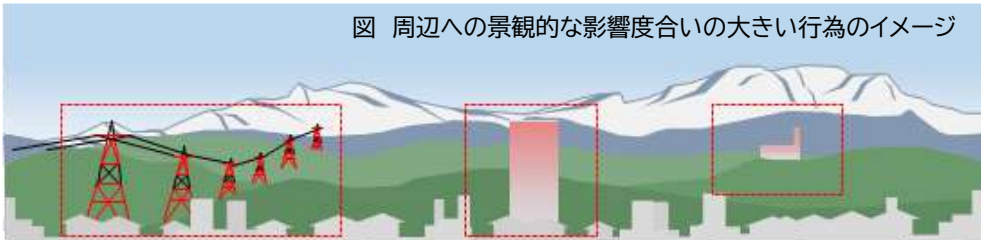
広域景観育成重要ゾーンでは広域景観を育成する取組を推進します。



取組方針②-④

広域景観アセスメント制度の創設・運用

広域景観を有するビューポイントから特別眺望点を指定し、眺望範囲内で行われる行為に対し景観への影響度合いをシミュレーション等で可視化。周辺住民や市町村との広域景観の調整を機能させます。



第5章 広域景観エリアの景観育成方針

広域景観エリアごとに景観特性を踏まえた景観育成方針を明示(エリアシート)

第6章 長野県景観育成ビジョンの推進体制

エリアシートの作成項目

●広域景観エリアの景観特性 ……地形的な特徴と眺望/道路・交通/河川・水辺/歴史・文化/産業

大切にしたい特徴 ……広域景観を考えるうえでの検討指標として、守るべき広域景観特性を明確化し取組を検討

主な視対象(広域的な景観要素) ……エリア内における広域的な眺望要素を整理し、広域景観アセスメント制度等に反映

広域景観エリアの景観育成方針

1 基本目標

- ・広域景観エリアの景観特性を踏まえた基本目標を設定

2-1広域景観の育成を先導する取組

①活かしたい眺望景観

②景観のまとまりにおける広域景観育成の推進

③景観軸における広域景観育成の推進

- ・地域の顔となる景観を形成している景観のまとまりや景観軸を示す
- ・重点的な景観育成に取り組むエリアとして広域景観育成重要ゾーンを示す

2-2景観資源を活かしたエリアブランディングの取組

- ・住民を主体とした景観育成の取組による環境の維持向上
- ・歴史・文化的資源や農林業等を活用したブランディング

エリアシートの作成例

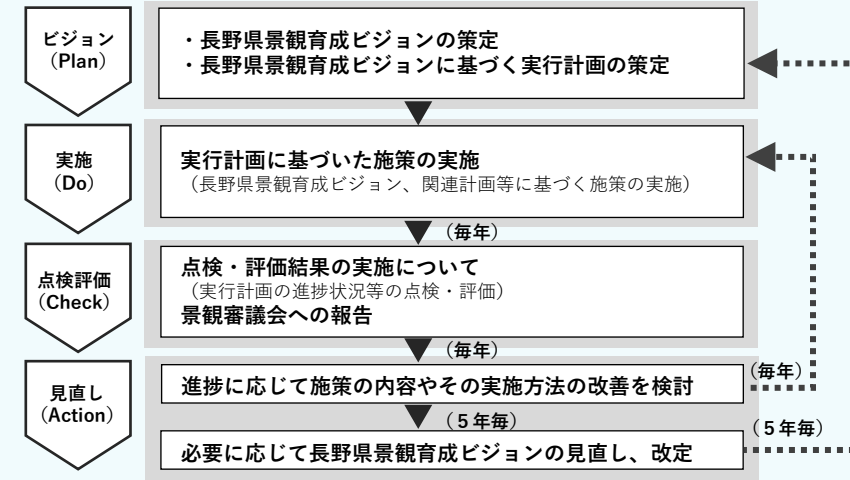


推進体制

長野県景観育成ビジョンの推進にあたっては、関係機関との横断的な体制を整え計画的に進捗管理を行います。

進捗管理の方法

PDCAサイクルの考え方に基づき毎年の進捗管理のほか、5年を目途に必要な応じて長野県景観育成ビジョンの見直し、改訂を実施



## 第Ⅱ編 長野県景観計画

## ■長野県景観計画目次

序章 はじめに	・ ・ ・ ・ ・1
第1章 景観計画の区域	
1 景観計画の区域	・ ・ ・ ・ ・2
第2章 景観育成の基本理念と良好な景観の育成に関する方針	
1 景観育成の基本理念	・ ・ ・ ・ ・3
2 良好な景観の育成に関する方針	・ ・ ・ ・ ・3
第3章 良好な景観育成のための行為の制限	
1 届出対象行為と規模	・ ・ ・ ・ ・7
2 届出等のフロー	・ ・ ・ ・ ・8
3 行為の制限(景観育成基準)	・ ・ ・ ・ ・9
第4章 景観法、長野県景観条例に定める事項	
1 景観重要建造物の指定の方針	・ ・ ・ ・ ・14
2 景観重要樹木の指定の方針	・ ・ ・ ・ ・14
3 景観資産の指定及び活用に関する事項	・ ・ ・ ・ ・14
4 屋外広告物の表示等の制限に関する事項	・ ・ ・ ・ ・15
5 景観農業振興地域整備計画の策定に関する基本的事項	・ ・ ・ ・ ・15
6 広域景観アセスメント制度の実施に関する方針	・ ・ ・ ・ ・15
7 広域景観エリア協議会による景観誘導	・ ・ ・ ・ ・16
8 景観整備機構の指定に関する方針	・ ・ ・ ・ ・16
第5章 公共施設の整備に関する事項	
1 公共施設の整備に関する基本事項	・ ・ ・ ・ ・17
2 景観重要公共施設の指定及び整備に関する事項	・ ・ ・ ・ ・18
別冊:景観育成重点地域の景観計画	
浅間山麓景観育成重点地域景観計画	・ ・ ・ ・ ・19
国道147号沿道景観育成重点地域景観計画	・ ・ ・ ・ ・26
八ヶ岳山麓景観育成重点地域景観計画	・ ・ ・ ・ ・31
高社山麓・千曲川下流域景観育成重点地域景観計画	・ ・ ・ ・ ・37
別表1:公共事業景観育成指針	・ ・ ・ ・ ・48

## 序 章 はじめに

本計画は、長野県全域の景観育成に関する目標、方針及び施策が示された長野県景観育成ビジョンを踏まえ、景観法（平成 16 年 法律第 110 号）及び長野県景観条例（平成 4 年 3 月 19 日 条例第 22 号）に基づいて、景観計画として定めるべき事項を定めます。

なお、長野県景観育成ビジョンでは、景観育成を行うための基本的な方策を定めており、これらの考え方に基づいて、景観計画に定める事項とその他の施策を組み合わせながら、総合的な視点から景観育成に取り組みます。

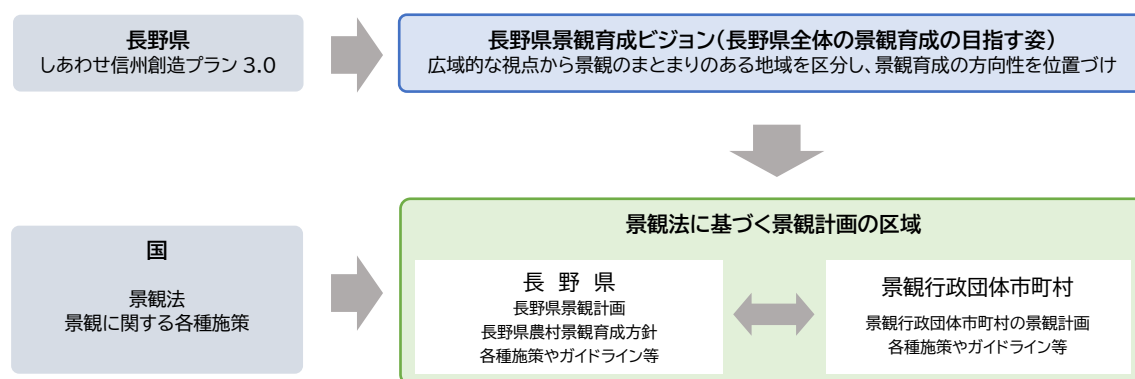


図 長野県景観育成ビジョンと景観計画の位置づけ

## 第1章 景観計画の区域

### 1. 景観計画の区域（法第8条第2項第1号関係）

長野県の良い景観の育成に関する計画（以下「景観計画」という。）の区域は、景観行政団体である市町村を除く長野県の区域とします。景観計画の区域には、地域の景観的特徴に応じて景観育成重点地域が指定されています。

なお、令和7年3月現在の景観計画区域及び景観行政団体の概況は下図のとおりです。



#### ☐ 景観育成重点地域（重点地域）

景観計画区域のうち、地域の持つ多様性や特色を生かした景観づくりを進めるために景観育成重点地域を定め景観を育成します

#### ☐ 一般地域

景観計画区域のうち、重点地域以外を一般地域とし景観を育成します

## 第2章 景観育成の基本理念と良好な景観の育成に関する方針

### 1. 景観育成の基本理念（長野県景観育成ビジョンより）

長野県の美しく豊かな景観は、先人の努力によって守り育まれ、県民の誇りであると同時に貴重な県民の財産です。近年の社会情勢や環境変化により景観を取巻く状況も大きく変化する中で、大切な長野県の景観を未来につないでいくためには、多様な主体と連携し協働した取組を進め、信州の景観を更に磨き上げ、郷土愛や人とのつながりを生み出すことが大切です。

このような背景を踏まえ、景観育成の基本理念を次のとおり掲げます。

#### 景観育成の基本理念

---

### 共に磨き、未来につなぐ、美しく豊かな信州の景観

---

#### 基本目標

---

身近に存在する自然・農村・歴史・文化を尊重し、地域の誇りとなる景観を守り育むために、あらゆる主体の豊かな感性がつながり合い、信州の景観を磨き上げることで、観る者が感動する信州の美しい景観を、大切に、守りつないでいく

---

### 2. 良好な景観の育成に関する方針（法第8条第3項関係）

#### (1) 一般地域における土地利用と自然条件による景観の構成要素と景観育成の基本方針

土地利用と自然条件により区分した類型ごとの景観育成の基本方針を次のとおり定めます。

##### 都市地域【都市的な景観を有する地域】

- ・まとまりのある空間の育成に努め、公園・広場の確保、緑化、照明などに配慮し、うるおいのある都市の景観を育成します。
- ・歴史的・文化的資源や地域の自然環境を活かし、地域に根ざした個性ある都市の景観を育成します。
- ・まち並みとしての調和に配慮し、建築物の形態、色彩などの連続性を確保します。

##### 沿道地域【主要な道路に沿った地域】

- ・災害への対応とともに、環境に配慮し、快適でゆとりのある沿道景観を育成します。
- ・沿道の広告物・建築物等の調和に配慮し、道路や鉄道からの眺望を確保します。

##### 田園地域【地域固有の農林業によって形成された田園の地域】

- ・四季折々の変化を見せる山並みへの眺望の確保を図ります。
- ・農山村では、地形や気候風土に適した形で農林業を営む中でつくられた、地域の固有の田園景観にみられる、伝統的な民家等の様式、屋敷林や防風林や湧水等を保全し、それらの形態や雰囲気を継承した田園景観を育成します。
- ・農山村の個性や多様性に配慮し、突出した印象を与えることなく、周辺景観と調和した

落ちついた景観を育成します。

**山地・高原地域【多様な山々によって形成された山地・高原の地域】**

- ・自然を活かし、周辺の自然と調和した景観を育成します。
- ・都市、沿道、田園等から眺望に配慮し、美しいスカイラインを確保します。

(2) 景観育成重点地域に関する事項

① 景観育成重点地域に関する基本的事項

信州の景観の骨格や顔となるような地域については、景観育成重点地域として指定し、当該地域の景観の特性や諸条件を踏まえて、きめ細かくかつ総合的な景観の育成に配慮します。また、地域住民、事業者、行政が相互の協力のもとに地域に即した景観の育成を図っていくことが必要であるため、地域ごとに次の事項を踏まえ、別途景観計画を定めるものとします。

なお、景観育成重点地域の検討に当たっては、長野県景観育成ビジョンで定める広域景観育成重要ゾーンに基づき、指定候補地を検討するなど、市町村と県が広域景観の育成の視点を踏まえながら進めます。

ア 景観の特性

- ・スカイラインを形成する山並み、主な眺望の方向及び視点、土地利用状況等、地域の景観の主な構成要素・構造
- ・森林や河川・湖沼、歴史的建造物等、重要な自然的・歴史的景観資産の状況
- ・人口、産業、交通、開発動向等、景観の育成に関連する社会的条件
- ・景観の育成上の問題点
- ・その他地域の景観の特性を明らかにする上で必要な事項

イ 景観育成の方針

重点地域における景観育成の方針は、地域の自然的・社会的特性を踏まえ、具体的に定めるものとします。

ウ 良好な景観育成のための行為の制限

重点地域における景観育成のための行為の制限の基準は、地域における景観の特性や景観育成の方針に応じたものとするほか、地区区分を行った場合には、区分された地区ごとの景観の特性に配慮するものとします。

## ② 景観育成重点地域の指定実績

令和7年3月現在、以下の4地区が景観育成重点地域に指定されています。

表 景観育成重点地域の指定箇所の実績

地域名	指定年月日	地域の特性
浅間山麓地域景観育成重点地域	平成5年 3月1日	浅間山を中心とした高原景観及び山麓に広がる田園景観、都市景観を重視した景観育成
八ヶ岳山麓地域景観育成重点地域	平成10年 3月1日	八ヶ岳を中心とした山岳・高原景観及び山麓に広がる田園景観を重視した景観育成
国道147（・148号）沿道景観育成重点地域	平成5年 3月1日	国道147（・148号）の沿道景観を重視した景観育成
高社山麓・千曲川下流域景観育成重点地域	平成12年 3月1日	高社山麓及び千曲川下流域に広がる田園景観及び高社山、斑尾山等に広がる山麓・高原景観を重視した景観育成

注）景観育成重点地域指定後に対象市町村が景観行政団体に移行した場合は、当重点地域は長野県の景観計画の区域から除かれています。

注）国道147・148号沿道景観育成重点地域を指定後、国道148号沿道の市町村が全て景観行政団体に移行したため、現在「国道147号沿道景観育成重点地域」に名称が変更されています。

## (3) 景観育成特定地区に関する事項

### ① 景観育成特定地区に関する基本的事項

景観育成特定地区では、地域の景観の特性や諸条件を踏まえて、きめ細かくかつ地域の生活に密着した独自の景観の育成に配慮するものとします。また、地域住民、事業者、行政が相互の協力のもとに地区の特性に即した景観の育成を図っていくことが必要であることから、地区ごとに次の事項を定めるものとします。

#### ア 景観の特性

- ・スカイラインを形成する山並みや建築物の特徴、主な眺望の方向及び視点、土地利用状況等、地域の景観の主な構成要素・構造
- ・既存樹木や歴史的建造物等、重要な自然的・歴史的景観資産の状況
- ・人口、産業、交通、開発動向等、景観の育成に関連する社会的条件
- ・景観の育成上の問題点
- ・その他地区の景観の特性を明らかにする上で必要な事項

#### イ 景観育成の方針

特定地区における景観育成の方針は、地域の自然的・社会的特性を踏まえ、具体的に定めるものとします。

#### ウ 良好な景観育成のための行為の制限

特定地区における景観の育成のための行為の制限の基準は、地域の景観特性や景観の育成の目標に応じたものとするものとします。

## ② 景観育成特定地区の指定実績

伊那市西箕輪景観育成特定地区が指定されておりましたが、伊那市が景観行政団体に移行したことに伴い、平成 26 年 4 月 1 日から伊那市景観計画の西箕輪景観形成重点地区に引き継がれています。

指定箇所の実績

制度区分	地域名	指定年月日	対象市町村	地域の特性
景観育成特定地区	伊那市西箕輪景観育成特定地区	平成 20 年 9 月 1 日	伊那市	中央アルプス山麓の山林地帯とそれに続く広く緩やかな傾斜をもった田園景観の育成

## (4) 景観の育成に不可欠の価値を有する物件の指定に関する基本的事項

優れた景観上の特徴を有し、県土の良好な景観の育成に重要な建造物や樹木であり、かつ、公共の場所から公衆によって容易に望見されるものを、景観重要建造物若しくは景観重要樹木として指定し、所有者の協力を得ながら維持、保全及び継承するものとします。

## (5) 農村景観の育成に関する基本的事項

美しく豊かな本県の農村風景は、地域それぞれに特色があり、信州ならではの魅力に満ち溢れています。農村景観の魅力や課題を捉え、今後の保全育成に向けての方向性を示す「長野県農村景観育成方針」に基づいて保全・育成を図るものとします。

## (6) 屋外広告物行政の効果的な運用に関する基本的事項

屋外広告物は、景観における重要な要素の一つであることから、各地域に存在する景観的な価値を尊重するとともに、景観施策の取組と一体となった屋外広告物行政を行うことで、地域の良好な景観の育成につなげるものとします。

## (7) 多様な主体と連携した広域的な景観育成に関する基本的事項

本格的な人口減少社会の到来やインバウンド需要の高まりなど、景観を取巻く社会状況が大きく変化しており、行政界に捉われない景観育成の視点がこれまで以上に求められていることから、県民、事業者、来訪者、市町村などの多様な主体と県が連携し景観育成に取り組むものとします。

### 第3章 良好な景観育成のための行為の制限(法第8条第2項第2号関係)

#### 1. 届出対象行為と規模

景観法及び長野県景観条例に基づく届出は、下表のとおり必要です。

表 届出対象行為と規模一覧

行為の種類	一般地域（右記以外）	景観育成重点地域
(1)建築物の新築、増築、改築又は移転	高さ 13 メートル超又は建築面積 1,000 平方メートル超	高さ 13 メートル超又は床面積 20 平方メートル超
(2)建築物の外観の変更（修繕、模様替、色彩変更）	変更に係る面積が 400 平方メートル超	変更に係る面積が 25 平方メートル超
(3)プラント類、自動車車庫（建築物とならない機械式駐車装置）、貯蔵施設類、処理施設類 ※1 の新設、増築、改築若しくは移転、外観の変更（以下「建設等」という。）	高さ 13 メートル超又は築造面積 1,000 平方メートル超	高さ 13 メートル超又は築造面積 20 平方メートル超
(4)電気供給施設等※2 の建設等	高さ 20 メートル超又は築造面積の合計が 1,000 平方メートルを超えるもの	高さ 8 メートル超又は築造面積の合計が 20 平方メートルを超えるもの
(5)太陽光発電施設（一団の土地又は水面に設置されるもの）の建設等※3	太陽電池モジュールの面積の合計 1,000 平方メートル超	太陽電池モジュールの面積の合計 20 平方メートル超
(6)(3)から(5)以外の工作物の建設等	高さ 13 メートル超	高さ 5 メートル超
(7)土石の採取又は鉱物の掘採	面積 3,000 平方メートル超又は生じる法面・擁壁の高さ 3 メートルかつ長さ 30 メートル超	面積 300 平方メートル超又は生じる法面・擁壁の高さ 1.5 メートル超
(8)土地の形質の変更※4 （土石の採取又は鉱物の掘採を除く）	面積 3,000 平方メートル超又は生じる法面・擁壁の高さ 3 メートルかつ長さ 30 メートル超	面積 300 平方メートル超又は生じる法面・擁壁の高さ 1.5 メートル超
(9)屋外における物件の堆積	高さ 3 メートル超又は面積 1,000 平方メートル超	高さ 3 メートル超又は面積 100 平方メートル超
(10)(1)から(6)までの建築物又は工作物の外観に表示される特定外観意匠※5	面積 25 平方メートル超	面積 3 平方メートル超

※1 プラント類：コンクリートプラント、クラッシャープラントその他これらに類するもの。貯蔵施設類：飼料、肥料、石油、ガス等を貯蔵する施設。処理施設類：汚物処理場、ごみ焼却場その他の処理施設

※2 電気供給施設等電気事業法（昭和 39 年法律第 170 号）第 2 条第 1 項第 16 号に規定する「電気事業」のための施設又は電気通信事業法（昭和 59 年法律第 86 号）第 2 条第 1 号に規定する「電気通信」のための施設

※3 建築物の屋根、屋上等に後から設置するものは、「(2)建築物の外観を変更することとなる修繕若しくは模様替又は色彩の変更」に該当します。

※4 都市計画法第 4 条第 12 項に規定する開発行為及び景観法施行令第 4 条第 1 項に規定する土地の形質の変更

※5 公衆の関心を引く形態又は色彩その他の意匠（営利を目的としないもの及び表示期間が 30 日以下のものを除く）

## 2. 届出等のフロー

### (1) 届出前の手続き

届出の前に県との事前相談（任意）を行うことを推奨します。また、行為地の市町村の意見を把握し、必要に応じて建築計画・設計へ反映してください。さらに、一定規模以上の行為（影響予想対象行為）については、事前の住民への説明が、景観資産に影響を及ぼす行為がある場合は、事前に届出が必要です。

### (2) 行為の届出

行為に着手する 30 日前までに届出してください。届出された内容が景観計画に適合する場合、その旨を記載した通知書が交付されます。

### (3) 景観育成基準に適合しない場合

届出された内容が景観計画に適合しないと判断された場合は、県は行為者に対し助言・指導や勧告・変更命令を行います。勧告に従わないときは氏名等の公表が、変更命令に従わないときは法に基づく罰則が適用されます。

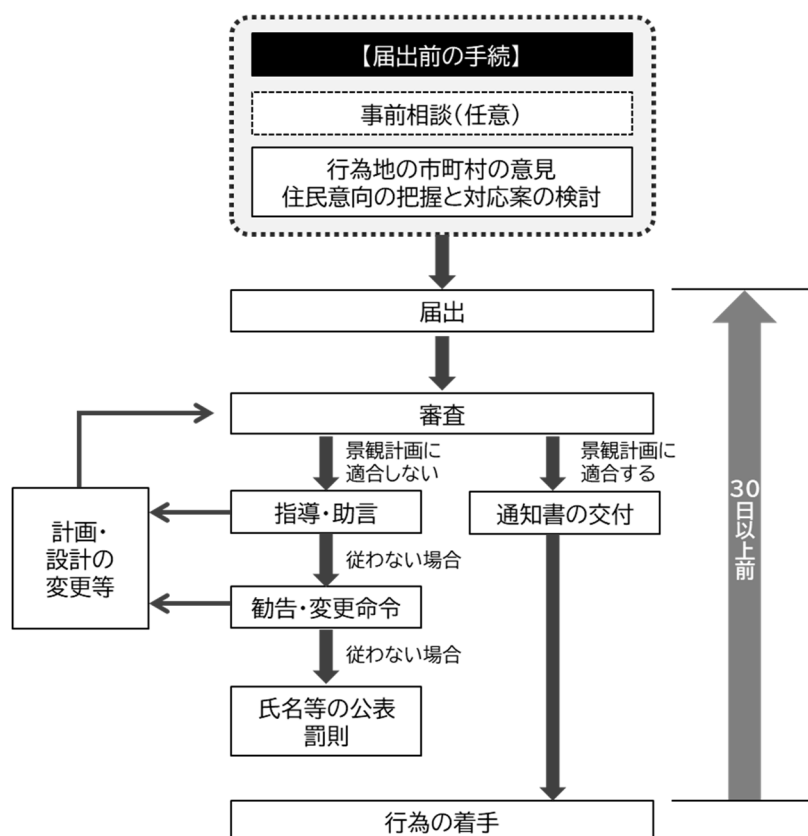


図 届出のフロー

### 3. 行為の制限（景観育成基準）

建築物の建築等の行為に際しては、周辺の基調となる優れた景観との調和に配慮した形態意匠とし、行為の制限（景観育成基準）は表1のとおりとします。また、景観育成重点地域にあっては、地域ごとに別に定めます

なお、長野県、国、景観区域内の市町村の公共施設の整備に際しては、景観育成基準に加え、公共事業景観育成指針（別表1）への適合が必要です。

#### (1) 共通事項

- ① 信州の景観の特徴となっている眺望景観の質を高めるため、次に掲げる事項に留意し、地域への導入部となる街路等からの見通しや地域の優れた見晴らし景観と調和した一体的な景観の育成に努めること。
  - ア 良好な景観の育成に資する被眺望地となる景勝地等への眺望を阻害することがないように努めること。
  - イ ランドマーク等への眺望を阻害することがないように努めること。
  - ウ 沿道等からの眺望景観を保全するため、スカイラインの保全や周辺の基調となる優良な景観との調和に努めること。
- ② うるおいのある良好な空間をつくるため、緑化に当たっては、既存の樹木を極力活かすとともに、大径木や良好な樹木などを活用するとともに、周辺の樹木と調和した樹種や地域の自然植生を考慮した樹種を選定するなど、地域の特性を生かしたものとし、周辺の景観と調和するよう努めること。
- ③ 建築物の建築、工作物の設置、土地の形質変更等の行為は、景観に与える影響が大きいため、このような行為を行うに当たっては、景観を阻害しないことはもとより、周辺の基調となる優良な景観に調和し、さらに、良好な景観の創造に資するよう、次のとおりとする。
  - ア 広域的な観点から景観に与える影響に配慮するとともに、地域の景観の育成に寄与するよう配慮すること。
  - イ 威圧感や殺風景な印象を与えないよう配慮するとともに、屋上設備や広告物等付帯設備を含め全体としてまとまりのある景観の育成に配慮すること。
  - ウ 建築物が連坦する地域にあっては、まち並みという連続した空間の一部であることを認識し、一体性の確保に配慮すること。

(2) 地域区分ごとの基準

地域区分	対 象
都市	都市計画法に基づき用途地域として定められた地域
沿道	高速自動車国道、一般国道、主要地方道及びこれらに準ずる道路の両側 30 メートルの地域
田園	国土利用計画法に基づき都市地域及び農業地域として定められた地域（都市及び沿道に掲げる地域を除く。）
山地・高原	上記に掲げる地域を除く地域

表 1

区 分	都 市	沿 道	田 園	山地・高原
(1) 建築物及び工作物の新築、増築、改築、移転又は外観の変更（太陽光発電施設を除く）				
ア 配置	(7) 周辺と壁面線を合わせつつ、極力道路から後退し、連続した沿道の空間を構成するよう努めること。	(7) 特に支障のある場合を除いて、5メートル以上道路から後退するように努めること。	(7) 道路からできるだけ後退し、道路側に空地を確保するよう努めること。	(7) 道路側に既存林を残せるように10メートル以上後退するよう努めること。
	(4) 隣接地と相互に協力して、まとまった空間を生み出すように努めること。	(4) 隣接の敷地境界からできるだけ離し、ゆとりのある空間を確保すること。		
	(ウ) 敷地内に大径木や良好な樹林、樹木や河川、水辺がある場合、これを生かせる配置とすること。			
	(エ) 地域のランドマークやスカイライン等への眺望を極力阻害しないような配置とすること。			(エ) 地形の高低差を生かして、周辺の自然景観に調和するような配置とすること。りょう線や斜面上部への配置はできるだけ避けること。
イ 規模	(7) 周辺の基調となる景観から著しく突出した印象を与えないような規模、建築物等と敷地との釣り合い、高さとする。			
	(4) 高さは周辺のまち並みとしての連続性に配慮するとともに、高層の場合、圧迫感を生じないよう努めること。	(4) 高層の場合には、空地を十分にとり圧迫感等を生じないよう努めること。	(4) 個々の建築物等の規模、高さは極力おさえ、周辺の田園景観との調和に努めること。	(4) 高さは原則として周辺の樹木の高さ以内にとどめるよう努め、樹高以上になる場合には周辺の景観と調和するよう形態等に特に配慮すること。
ウ 形態・意匠	(7) 周辺の基調となる景観に調和した形態であるとともに、全体としてまとまりのある形態とすること。			
	(4) 周辺の建築物等の形態との調和に努めること。	(4) 背景のスカイライン及び周辺の建築物等の形態との調和に努めること。	(4) 背景のスカイライン及び田園の広がり調和する形態とすること。	(4) 周辺の山並みと調和する形態とすること。

区 分	都 市	沿 道	田 園	山地・高原
ウ 形態・意匠	(ウ) 建築物等の上部及び正面のデザインに特に留意し、都市美の形成やランドマークの形成にも努めること。	(ウ) 建築物等の上部及び正面のデザインを工夫して質の高いものとなるよう努めること。	(ウ) 屋根は原則としてこう配屋根で、適度な軒の出を有するものとし、こう配は背景のスカイライン、周辺の建築物との調和に努めること。	(ウ) 屋根は原則としてこう配屋根で、適度な軒の出を有するものとし、こう配は周辺のスカイラインとの調和に努めること。
	(エ) 周辺に伝統的な様式を持つ建築物が多い場合には、その様式を継承し又は取り入れた意匠とするように努めること。			
	(オ) 大規模な平滑面が生じないよう、陰影等壁面の処理に配慮すること。			
	(カ) 周辺の基調となる建築物等に比べて、規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫により圧迫感や威圧感を軽減し、周辺との調和を図ること。			
	(キ) 河川、鉄道及び道路に面する壁面等は、公共性の高い部分として、デザイン等に配慮すること。			
	(ク) 屋上設備は外部から見えにくいよう、壁面、ルーバーの設置等の工夫をすること。			
	(ケ) 非常階段、パイプ等付帯設備や付帯の広告物等は、繁雑な印象を与えないようにデザインに配慮し、建築物等本体との調和を図ること。			
エ 材料	(7) 周辺の景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。			
	(イ) 反射光のある素材を使用する場合は周辺との調和に十分配慮すること。	(イ) 反射光のある素材を壁面の大部分に使用することは避けること。	(イ) 反射光のある素材を極力使用しないように努め、やむを得ず使用する場合には、着色等の工夫をすること。	
	(ウ) 地域の優れた景観を特徴づける素材を活用すること。			
オ 色彩等	(7) けばけばしい色彩とせず、周辺の建築物等と調和した色調とすること。	(7) けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観又は周辺の建築物等と調和した色調とすること。	(7) けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の田園や集落の景観と調和した色調とすること。	(7) けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の自然景観と調和した色調とすること。
	(イ) 多色使い、アクセント色の使用等に際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスに十分配慮すること。	(イ) 使用する色数を少なくするよう努めること。		
	(ウ) 照明を行う場合は、周辺の建築物等との調和に留意すること。			
カ 敷地の緑化	(7) 敷地境界には樹木等を活用し、門、塀等による場合は、周辺の景観と調和するよう配慮すること。			
	(イ) 周辺の建築物等に比べて相当大規模な建築物等にあつては、建物まわりの緑化により圧迫感、威圧感の軽減に努めること。			
	(ウ) 駐車場、自転車置場、焼却炉等を設ける場合には、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。			
	(エ) 使用する樹種は地域の風土にあつたものとし、特に道路等の公共空間や周囲の緑化との連続性に配慮すること。		(エ) 使用する樹種は周辺の樹林等、周辺の景観と調和するものとする。	
	(オ) 河川等がある場合は、樹木を活用して、水辺の景観に配慮すること。			

区 分	都 市	沿 道	田 園	山地・高原
キ 公衆の関心を引く目的で外観に施される形態又は色彩その他の意匠(特定外観意匠)に関する付加基準	(7) 配置 ・道路等からできるだけ後退させるよう努めること。 ・河川等の水辺や山並みなどの眺望を阻害しないように努めること。			
	(4) 規模、形態・意匠 ・基調となる周辺景観に調和する形態・意匠とし、必要最小限の規模とすること。			
	(ウ) 材料 ・周辺の景観と調和し、耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくいものとする。 ・反射光のある素材を使用する場合は、周辺との調和に十分配慮すること。			(ウ) 材料 ・周辺の景観と調和し、耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくいものとする。 ・反射光のある素材を極力使用しないように努め、やむを得ず使用する場合は、着色等の工夫をすること。
	(イ) 色彩等 ・けばけばしい色彩とせず、周辺の建築物等と調和した色調とすること。 ・多色使いに際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスに十分配慮すること。 ・光源で動きのあるものは、周辺の景観との調和に留意すること。	(イ) 色彩等 ・けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の田園や集落の景観と調和した色調とすること。 ・使用する色数を少なくするよう努めること。 ・光源で動きのあるものは、原則として避けること。	(イ) 色彩等 ・けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の自然景観と調和した色調とすること。 ・使用する色数を少なくするよう努めること。 ・光源で動きのあるものは、原則として避けること。	
(2) 太陽光発電施設				
ア 配置	(7) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させること。			
	(4) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避けること。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないよう、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめること。			
	(イ) 主要な道路や住宅地に反射光の影響が懸念される場合は、配置や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へい措置について検討すること。			
	(イ) 規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が生じないように配慮すること。			
イ 規模	(7) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さ及び太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑えること。			
ウ 形態・意匠	(7) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせること。			
	(4) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周辺の山並み、建築物の屋根等と極力整合させること。			
	(ウ) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路から見えにくくするとともに、電柱電線類については、極端に増加させないよう、低減に努めること。			
エ 材料	(7) 周辺の景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。			
	(4) 低反射のものを選択するか防眩処理を施す等、太陽光の反射を低減する対策を行い、素材の結晶が目立たないものを選択すること。また、フレームは低反射の素材を用いること。			

区 分	都 市	沿 道	田 園	山地・高原
オ 色彩等	(7) 太陽電池モジュールは黒又は濃紺を基本とした、低明度かつ低彩度の目立たないものとし、フレームも同系色を用いること。			
	(4) フェンス、架台、パワーコンディショナー及び変圧器等の附属設備については、色彩に配慮すること。			
カ 敷地の緑化	(7) 道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。			
	(4) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低木性の樹種を避け、地域に適した植生とする。			
	(7) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発揮できるよう、根巻きを行った苗などの使用を検討するとともに、植栽間隔や苗木の大きさに配慮する。			
(3) 土地の形質の変更				
変更後の土地の形状、修景、緑化等	(7) 大規模な法面、擁壁をできるだけ生じないようにし、やむを得ない場合は、緩やかなこう配とし、緑化に努めること。			
	(4) 擁壁は材料、表面処理の工夫、前面の緑化等により周辺の景観との調和を図ること。			
	(7) 敷地内にある良好な樹木、その他の樹木、河川、水辺等は極力保全し、活用するよう努めること。	(4) 敷地内にある良好な樹林、樹木、河川、水辺等は極力保全し、活用するよう努めること。		
(4) 土石の採取及び鉱物の掘採				
採取等の方法、採取等後の緑化等	(7) 周辺からは目立ちにくいよう、採取の位置、方法を工夫し、敷地周辺の緑化等に努めること。			
	(4) 採取後は、自然植生と調和した緑化等により修景すること。			
(5) 屋外における物件の集積又は貯蔵				
集積、貯蔵の方法及び遮へい方法	(7) 物件を積み上げる場合には、高さをできるだけ低くするとともに、整然と、かつ威圧感のないように積み上げること。			
	(4) 道路等から見えにくいよう遮へいし、その際には植栽の実施、木塀の設置等周辺の景観に調和するよう努めること。			

### (3) 法に基づく措置の基準

- ① 次に掲げるものは、法第 8 条第 4 項第 2 号イに規定する制限及び法第 17 条第 1 項の規定による措置の基準は次のとおりとします。なお、景観育成重点地域にあっては、地域ごとに別に定めます

・表 1 の (1) のうちウ、エ、オ、キ及び (2) のうちウ、エ、オ

- ② 法第 16 条第 6 項又は条例第 11 条第 1 項後段の規定による制限の基準は、表 1 によるほか、公共事業景観育成指針に準じるものとします。

## 第4章 景観法、長野県景観条例に定める事項

### 1. 景観重要建造物の指定の方針（法第8条第2項第3号関係）

周辺地域の情景を特徴づける建造物のうち、景観計画区域の良好な景観の育成に資するものを次により指定します。

- (1) 地域の自然、歴史、文化、生活等からみて、これらの特性が形として立ち現れたものである地域の景観上の特徴を、当該建造物の外観が有しているものであること。
- (2) 景観の育成の観点から指定するものであり、当該建築物自体の歴史的価値や文化的価値を問うものではないこと。
- (3) 歴史的な様式を継承した新しい建造物や新たな都市文化を創造することを望まれる地域を象徴する建造物等についても積極的に対象とすること。
- (4) 建造物の敷地、建造物周辺の樹木や付属物等が当該建造物と一体となって良好な景観を構成している場合にあっては、それらを含め一体として対象とすること。
- (5) 指定に当たっては、指定しようとする物件がある地域を管轄する市町村の意見を聴くものとする。
- (6) 指定に当たっては、景観審議会及び建築等の専門家の意見を聴くものとする。

### 2. 景観重要樹木の指定の方針（法第8条第2項第3号関係）

周辺地域の情景を特徴づける樹木のうち、景観計画区域の景観育成に資するものを次により指定します。

- (1) 当該樹木が、地域の景観上の特徴を構成しているものであること。
- (2) 景観の育成の観点から指定するものであり、当該樹木自体の歴史的価値や文化的価値を問うものではないこと。
- (3) 新たな都市景観を創造することが望まれる地域におけるシンボルとなる樹木等についても積極的に対象とすること。
- (4) 指定に当たっては、指定しようとする物件がある地域を管轄する市町村の意見を聴くものとする。
- (5) 指定に当たっては、景観審議会及び造園等の専門家の意見を聴くものとする。

### 3. 景観資産の指定及び活用に関する事項

地域の特性を生かした広域的な景観の育成を図るため、地域の自然、歴史、文化等からみて、当該建造物等（これと一体となって良好な景観を形成している土地その他の物件を含む。）の外観又は樹容が景観上の特徴を有し、地域の良好な景観の育成に資するもの、かつ、道路その他の公共の場所から公衆によって容易に望見されるものを景観資産として指定する。

- (1) 広域的な景観の育成に資する建造物（これと一体となって良好な景観を形成している土地その他の物件を含む。）及び樹木
- (2) 広域的な景観の育成に重要な遺跡、名勝地、優れた風景を眺望できる地点等

#### 4. 屋外広告物の表示等の制限に関する事項（法第8条第2項第4号関係）

屋外広告物は、景観の阻害要因となりうるものであることから、その適正な規制誘導は、良好な景観の育成に極めて重要であるため、広告物の表示及び屋外広告物を掲出する物件の設置に関する行為（以下「屋外広告物の表示等」という。）の制限は、良好な景観の育成に関する方針を踏まえ、広域的な景観育成の視点を念頭に置きながら、地域全体の景観との調和が保たれるものとするものとします。

また、景観重要建造物、景観重要樹木及び景観資産（以下「景観重要建造物等」という。）に係る屋外広告物の表示等に当たっては、当該景観重要建造物等ごとに定める管理の基準との調和が保たれるものとするものとします。

#### 5. 景観農業振興地域整備計画の策定に関する基本的事項（法第8条第2項第4号関係）

農山村においては、自然の造形を背景として、地域の気候風土に適した形で農林業を営む中で、それぞれの地域に固有の個性ある美しい景観がつくられてきたことから、地域の景観に配慮しつつ良好な営農条件を確保する観点から策定するものとします。

また、農山村地域は、農林産物の生産の場であるとともに、農林業の持続的な発展により、国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の育成、文化の伝承等の多面的な機能を発揮してきたことを踏まえ、農山村の個性や多様性に配慮します。

加えて、過疎化や高齢化、あるいは都市近郊における混住化等による地域社会の連帯性の弱体化に伴い、農地等の地域環境の管理に支障が生じ、農山村の魅力を減じている事例がある現状から、地域社会の再生に資するものとします。

#### 6. 広域景観アセスメント制度の実施に関する方針（長野県景観条例第〇条）

大規模な建築行為等は周辺への景観的な影響度合いが大きいことが想定され、行為地によっては、市町村の行政界を跨ぐ広域的な景観調整が必要となることが想定されます。そのため、広域景観育成のために指定、認定等されたビューポイントを特別に活用する眺望点（以下「特別眺望点」という。）を選定し、大規模な建築行為等に対して市町村間を跨ぐ景観調整制度として広域景観アセスメント制度を創設し、運用します。

特別眺望点は、予めその地域の広域景観要素を整理のうえ、指定、認定されたビューポイントの中から景観調整が必要となるビューポイントを抽出します。

## 7. 広域景観エリア協議会による景観誘導（長野県景観条例第〇条）

長野県は、市町村界を超えた一定のまとまりのある広域的な景観を推進するため、広域的な地域の成り立ち等を踏まえ広域景観エリアを設定し、同エリアに属する市町村と県で景観育成に関する検討や意思統一を図るための広域景観エリア協議会を設置し、取組を推進します。

また、必要に応じて地域で景観育成に取り組む団体や事業者等も参画し景観育成に取り組めます。

## 8. 景観整備機構の指定に関する方針

県と役割分担しながら、ともに良好な景観の育成を進めるため、景観の育成に資する業務を行う NPO や公益法人をその法人を長野県景観整備機構として指定します。

なお、令和 7 年 3 月現在、次の団体を景観整備機構に指定しています。

○指定法人名：公益社団法人長野県建築士会

○指定年月日：平成 17 年 10 月 25 日

## 第5章 公共施設の整備に関する事項

### 1. 公共施設の整備に関する基本事項

公共の道路・橋・建築物等は、良好な景観育成の先導的な役割を果たしていくことが必要です。事業の実施に当たっては、次の事項に十分に配慮するものとします。

また、景観の育成に関する幅広い知識、経験を有する人材の育成や、必要に応じて専門的知見を有する者の活用等により、的確な地域の景観特性の把握等を行い、公共整備により良好な景観育成を図るものとします。

公共事業の実施に当たっては、別表1の公共事業景観育成指針に沿って景観の育成を積極的に推進するものとします。

- 1 機能性、安全性、経済性及び事業の目的を踏まえた上で、デザインの向上、水辺空間・緑豊かな空間の創出等に努める。
- 2 まち並みや、自然環境との調和に配慮し、地域の特性を生かすよう努める。
- 3 事業相互の連携により、周辺景観と調和した一体的な景観の育成に努める。
- 4 信州の景観の特徴となっている眺望景観の質を高めるため、次に掲げる事項に留意し、地域への導入部となる街路等からの見通しや地域の優れた見晴らし景観と調和した一体的な景観の育成に努める。

ア 良好な景観の育成に資する被眺望地となる景勝地等への眺望を阻害することがないよう努めること。

イ ランドマーク等への眺望を阻害することがないよう努めること。

ウ 沿道等からの眺望景観を保全するため、スカイラインの保全や周辺の基調となる優良な景観との調和に努めること。

- 5 地域の景観を構成する主要な要素の一つである公共施設については、景観重要公共施設と位置付け、公共施設とその周辺の建築物等の土地利用が一体となって良好な景観の育成を図るよう努める。
- 6 景観重要建造物、景観重要樹木又は景観資産の存する敷地の周囲における事業の実施に当たっては、当該景観重要建造物等が有する良好な景観を損なうことがないよう配慮するものとする。

## 2. 景観重要公共施設の指定及び整備に関する事項

### (1) 景観重要公共施設の指定方針

景観計画区域内において、次に掲げる公共施設を景観重要公共施設として指定し、良好な景観育成を進めることとする、

- ・広域景観エリアの骨格的な道路、河川
- ・広域景観エリアにおける重点地域内の道路、河川、公園

### (2) 景観重要公共施設の整備に関する事項

対象地域の景観特性やまちづくりに資するデザインとなるよう、公共空間の高質化を進めます。

# 浅間山麓景観育成重点地域景観計画

## 第1. 良好な景観の育成に関する方針（法第8条第3項関係）

### 1 景観の特性

#### (1) 地域の概要

この地域は、浅間山の山麓に位置し、ほぼ全域で浅間山への優れた眺望が可能であるとともに、一部の地域では佐久平から八ヶ岳に至る眺望や北アルプスへの遠望を得ることができます。また、区域内は浅間山のすそ野に広がる樹林などの自然景観に恵まれています。

地理的には本県と首都圏を往来する際の玄関口にあたり、加えて区域内に我が国を代表する保養地を含むことから、通過交通や観光客の入り込みが多い地域です。

上信越自動車道、北陸新幹線の整備により、人口の増加や、様々な開発動向が顕著であり、景観の変容が予想されます。

#### (2) 景観の主な構成要素と景観育成上の課題

この地域は地形・植生などの自然条件、土地利用の状況、歴史的・文化的背景などにより、4つの類型に区分できます。類型ごとの景観の主な構成要素と景観育成上の課題は、次のとおりです。

##### ア 都市的な景観を有する区域（都市地域）

国道18号及びしなの鉄道に沿った区域には、断続的に市街地が形成されています。この区域においては、景観の混乱を改善し、統一感のある個性的なまち並みが形成されるよう配慮していく必要があります。

##### イ 主要な道路に沿った区域（沿道地域）

地域内の主要な道路の沿道には、浅間山や佐久平方面への好眺望が得られる地点が多く存在しています。この区域においては、眺望を確保しつつ良好な沿道空間が形成されるよう配慮していく必要があります。

##### ウ 山麓部の田園の区域（田園地域）

浅間山の山麓に広がる田園の区域では、農地、集落等が一体となって自然と調和した景観を構成しています。この区域においては、優れた田園景観が保全・継承されるよう配慮していく必要があります。

##### エ 山地、高原リゾート区域（山地高原地域）

御代田町の山麓上部及び軽井沢町の市街地などを除く区域には、樹林に囲まれた山地や高原リゾート地となっています。この区域においては、他の地域からの眺望に留意して景観の変容を抑制するとともに、樹林・樹木を保全して高原リゾート地としての景観の形成に配慮していく必要があります。

## 2 景観育成の方針

### (1) 都市地域

まち並みとしての連続性を確保しつつ良好な都市景観が育成されるよう、建築物等は、周辺と調和した高さ、規模、形態・意匠等とするとともに、既存樹木の保全や敷地周辺の緑化を図るものとします。

### (2) 沿道地域

浅間山や佐久平への眺望の維持と、山麓部の自然景観との調和が図られるよう、建築物等は周辺への圧迫感のない形態・意匠等とし、敷地周辺の緑化を進めるものとします。

### (3) 田園地域

浅間山を背景とする伝統的な田園景観が維持されるよう、建築物等の位置、規模、形態・意匠・等に留意するものとします。優れた集落景観が維持されている地域では、地場産材の活用や在来種による敷地内の緑化を進めるものとします。

### (4) 山地高原地域

山麓の自然資源を活用したリゾート施設等が適正に整備されるよう、建築物等の建設や開発などの行為に際しては、基調となる地形、水系、樹林などの保全・活用を図り、高原リゾートとしての優れた景観を阻害しないよう努めるとともに、他の地域からの眺望の対象であることにも留意するものとします。

## 第2. 景観育成重点地域の区域と地域区分（法第8条第2項第1号関係）

景観育成重点地域の区域は次のとおりであり、当該区域内において地域区分が設定されています。

### 1 景観育成重点地域の区域

(1)	北佐久郡軽井沢町の区域のうち、上信越高原国立公園の特別地域の区域（都市計画法第5条第1項の規定による都市計画区域（以下「都市計画区域」という。）内にあるものを除く。）を除く区域
(2)	北佐久郡御代田町の区域のうち、都市計画区域及び国道18号の小諸市に向かって右側御代田三石林道までの区域
(3)	東御市の区域のうち、都市計画区域（国道18号の上田市に向かって左側30メートルを超える区域を除く。）

### 2 地域区分

地域区分	対 象
(1) 都市	都市計画法（昭和43年法律第100号）第8条第1項第1号の規定による用途地域の区域（北佐久郡軽井沢町の区域にあつては第一種住居地域及び近隣商業地域に限る。）
(2) 沿道	高速自動車国道、一般国道、主要地方道及び広域営農団地農道並びにこれらの両側各30メートル以内の地域。ただし、(1)に掲げる地域を除く。
(3) 田園	ア 北佐久郡御代田町の区域のうち、広域営農団地農道の上田市に向かって左側の地域 イ 東御市の地域。ただし、(1)及び(2)に掲げる地域を除く。
(4) 山地・高原	(1)から(3)に掲げる地域を除く地域



### 第3. 良好な景観育成のための行為の制限（法第8条第2項第2号関係）

#### 1 浅間山麓景観育成重点地域景観育成基準

区 分	都 市	沿 道	田 園	山 地 ・ 高 原
(1) 建築物及び工作物の新築、増築、改築、移転又は外観の変更（太陽光発電施設を除く）				
ア 配置	(7) 周辺と壁面線を合わせつつ、極力道路から後退し、連続した沿道の空間を構成するよう努めること。	(7) 道路からできるだけ後退し、道路側に空地进行するように努めること。大規模行為にあつては、特に支障がある場合を除いて、5メートル以上道路から後退するよう努めること。	(7) 道路からできるだけ後退し、道路側に空地进行するよう努めること。	(7) 高原美を損なうことのないように道路からできるだけ後退し、良好な空間の確保に努めること。大規模行為にあつては、道路側に既存林を残せるように10メートル以上後退するよう努めること。
	(4) 隣接地と相互に協力して、まとまった空間を生み出すように努めること。	(4) 隣地の敷地境界からできるだけ離し、ゆとりのある空間を確保すること。		
	(5) 敷地内に大径木や良好な樹林、樹木や河川、水辺がある場合、これを生かせる配置とすること。			
	(1) 浅間山や佐久平への眺望を極力阻害しないような配置とすること。			(1) 浅間山や佐久平への眺望を極力阻害しないような配置とすること。地形の高低差がある場合は、それを生かして、周辺の自然景観に調和するような配置とし、りょう線や斜面上部への配置はできるだけ避けること。
	(6) 電柱、鉄塔類はできるだけ目立たないよう設置すること。			
イ 規模	(7) 浅間山や佐久平への眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周辺の基調となる景観から著しく突出した印象を与えないような規模、建築物等と敷地の釣り合い、高さとすること。			
	(4) 高さは周辺のまち並みとしての連続性に配慮するとともに、高層の場合、圧迫感を生じないように努めること。	(4) 個々の建築物等の規模、高さは極力おさえ、空地を十分にとり圧迫感を生じさせないようにし、周辺の景観等との調和に努めること。	(4) 個々の建築物等の規模、高さは極力おさえ、周辺の自然景観等との調和に努めること。	(4) 高さは原則として周辺の樹木の高さ以内にとどめ、樹高以上になる場合には、背景となる浅間山や周辺景観と調和するように努めること。
ウ 形態・意匠	(7) 建築物等の形態との調和に努めること。	(7) 浅間山、背景のスカイライン、周囲の建築物等の形態との調和に努めること。		
	(4) 建築物等の上部及び正面のデザインに特に留意し、都市美の育成やランドマークの育成にも努めること。	(4) 屋根の形状は原則としてこう配屋根で適度な軒の出を有するものとし、こう配は背景のスカイラインや周囲の建築物等との調和に努めること。		
	(5) 壁面は、大規模な平滑面が生じないよう、陰影等の処理に配慮すること。			(5) 擁壁等は、大規模な平滑面が生じないよう、陰影等の処理に配慮すること。
	(1) 周辺の基調となる建築物に比べて、規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫により、圧迫感や威圧感を軽減し、周辺との調和を図ること。			

	(オ) 河川、鉄道及び道路に面する壁面等は、公共性の高い部分として、デザイン等に配慮すること。		
	(カ) 屋上の設備は外部から見えにくいよう、壁面、ルーバーで覆う等の工夫をすること。		
	(キ) 屋外階段、ベランダ、パイプ類等の付帯設備や付帯の広告物等は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図ること。		
エ 材料	(7) 周辺景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。		
	(イ) 反射光のある素材を使用する場合は周辺との調和に十分配慮すること。	(イ) 反射光のある素材を極力しないよう努め、やむを得ず使用する場合は、着色等の工夫をすること。また、壁面の大部分に使用することは避けること。	
	(ウ) 地域の優れた景観を特徴づける素材を活用すること。		
オ 色彩等	(7) けばけばしい色彩とせず、周辺の建築物等と調和した色調とすること。	(7) けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観又は周辺の建築物等と調和した色調とすること。	(7) けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の自然景観と調和した色調とすること。特に緑色、青色、紫色、桃色、赤色及び黄色系は自然との調和が図りにくいので、彩度が低くても使用に当たっては十分留意すること。
	(イ) 多色使い、アクセント色の使用等に際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスに十分配慮すること。	(イ) 使用する色数を少なくするよう努めること。	
	(ウ) 照明を行う場合は、周辺の環境に留意すること。	(ウ) 照明を行う場合は、設置箇所周辺の環境に留意すること。	
	(エ) 光源で動きのあるものは、周辺景観との調和に留意すること。	(エ) 光源で動きのあるものは、原則として避けること。	
カ 敷地の緑化	(7) 敷地境界には樹木等を活用し、門、塀等による場合は、周辺の景観と調和するよう配慮すること。		(7) 塀、遮へい物ではできるだけ設けず、やむを得ず設ける場合は、樹木等を活用し、周辺景観と調和するよう配慮すること。
	(イ) 建築物等の周囲は緑化することにより、圧迫感、威圧感の軽減に努めること。		
	(ウ) 駐車場、自転車置場等を設ける場合には、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。		
	(エ) 緑化に使用する樹種は、地域の風土にあったものとし、特に道路等の公共空間や周囲の緑化との連続性に配慮すること。	(エ) 緑化に使用する樹種は、周辺の樹林等周辺景観と調和させるとともに、四季を彩る落葉樹などを活用するよう努めること。	
	(オ) 河川等がある場合は、樹木を活用して、水辺の景観に配慮すること。		
	(カ) 敷地内の樹木は、できるだけ残すよう努めること。		
キ 特定外観意匠に関する付加基準	(7) 配置 ・道路等からできるだけ後退させるよう努めること。 ・河川等の水辺や山並みなどの眺望を阻害しないように努めること。		
	(イ) 規模、形態・意匠 ・基調となる周辺景観に調和する形態・意匠とし、必要最小限の規模とすること。 ・周辺の建築物の屋根の高さを超えないよう努めること。		

	(ウ) 材料 周辺の景観と調和し、耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくいものとする事。 反射光のある素材を使用する場合は、周辺との調和に十分配慮すること。	(ウ) 材料 周辺景観と調和し、耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくいものとする事。 反射光のある素材は、極力使用しないよう努め、やむを得ず使用する場合は、着色等の工夫をすること。また、壁面の大部分に使用することは避けること。
	(イ) 色彩等 ・ けばけばしい色彩とせず、周辺建築物等と調和した色調とすること。 ・ 多色使いに際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスに十分配慮すること。 ・ 光源で動きのあるものは、周辺の景観との調和に留意すること。	(イ) 色彩等 ・ けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観又は周辺の建築物等と調和した色調とすること。 ・ 使用する色数は少なくするよう努めること。 ・ 光源で動きのあるものは、原則として避けること。
(2) 太陽光発電施設		
ア 配置	(7) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させること。	
	(4) 接線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避けること。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないよう、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめること。	
	(1) 主要な道路や住宅地に反射光の影響が懸念される場合は、配置や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へい措置について検討すること。	
	(1) 規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が生じないように配慮すること。	
イ 規模	(7) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さ及び太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑えること。	
ウ 形態・意匠	(7) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせること。	
	(4) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周辺の山並み、建築物の屋根等と極力整合させること。	
	(9) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路から見えにくくするとともに、電柱電線類については、極端に増加させないよう、低減に努めること。	
エ 材料	(7) 周辺の景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。	
	(4) 低反射のものを選択するか防眩処理を施す等、太陽光の反射を低減する対策を行い、素材の結晶が目立たないものを選択すること。また、フレームは低反射の素材を用いること。	
オ 色彩等	(7) 太陽電池モジュールは黒又は濃紺を基本とした、低明度かつ低彩度の目立たないものとし、フレームも同系色を用いること。	
	(4) フェンス、架台、パワーコンディショナー及び変圧器等の附属設備については、色彩に配慮すること。	
カ 敷地の緑化	(7) 道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。	
	(4) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低木性の樹種を避け、地域に適した植生とする。	
	(9) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発揮できるよう、根巻きを行った苗などの使用を検討するとともに、植栽間隔や苗木の大きさに配慮する。	

(3) 土地の形質の変更		
変更後の土地の形状、修景、緑化等	(7) 大規模な法面、擁壁をできるだけ生じないようにし、やむを得ない場合は、緩やかなこう配とし、緑化に努めること。	
	(4) 擁壁は材料、表面処理の工夫、前面の緑化等により周辺の景観との調和を図ること。	
	(ウ) 敷地内にある良好な樹林、樹木、河川、水辺等は極力保全し、活用するよう努めること。	
	(イ) 団地開発では、電柱類はできるだけ道路側に設置しないよう努めること。	(イ) 団地開発では、電柱類はできるだけ道路側に設置しないようにするとともに、浅間山や佐久平への眺望を阻害しないよう努めること。
(4) 土石の採取及び鉱物の掘採		
採取等の方法、採取等後の緑化等	(7) 周辺からは目立ちにくいよう、採取の位置、方法を工夫し、敷地周辺の緑化等に努めること。	
	(4) 採取後は、自然植生と調和した緑化等により修景すること。	
(5) 屋外における物件の集積又は貯蔵		
集積、貯蔵の方法及び遮へい方法	(7) 物件を積み上げる場合には、高さをできるだけ低くするとともに、整然と、かつ威圧感のないように積み上げること。	
	(4) 道路等から見えにくいように遮へいし、その際には植栽などを行い周辺の景観に調和するように努めること。	

## 2 法に基づく措置の基準

法第8条第4項第2号イに規定する制限及び法第17条第1項の規定による措置の基準は次のとおりとします。

- ・表中の(1)のうちウ、エ、オ、キ及び(2)のうちウ、エ、オ

# 国道 147 号沿道景観育成重点地域景観計画

## 第 1. 良好な景観の育成に関する方針（法第 8 条第 3 項関係）

### 1 景観の特性

#### (1) 地域の概況

この地域は、北アルプスの山並みに平行する国道 147 号沿道の帯状の区域で、北アルプスの雄大な眺望を有し、また、区域の周囲には安曇野の田園、仁科三湖などの優れた景観資源が存在しています。

国道 147 号は、地域の生活道路であるとともに、周辺に立地するスキー場や山岳などの観光地に向かう際の幹線道路として重要な役割を持っており、交通量も多い道路です。

広域幹線道路網の整備や沿道の開発に伴い、沿道景観の多様で広域的な変容が予想されます。

#### (2) 景観の主な構成要素と景観育成上の課題

この地域は土地利用の状況などにより、次の類型に区分し、併せて、景観の主な構成要素と景観育成上の課題は次のとおりです。

##### 沿道地域

松本平から続く平野部は、大半が広大な田園で占められており、屋敷林で囲まれた農家が点在する特徴的な景観を育成しています。この区間においては、眺望を確保しつつ周辺の田園景観に調和した沿道空間が育成されるように配慮していく必要があります。

### 2 景観育成の方針

北アルプスへの眺望を確保しつつ、うるおいのある沿道景観が育成されるよう、建築物の配置に留意するとともに、敷地周辺の緑化を図るものとします。

## 第2. 景観育成重点地域の区域（法第8条第2項第1号関係）

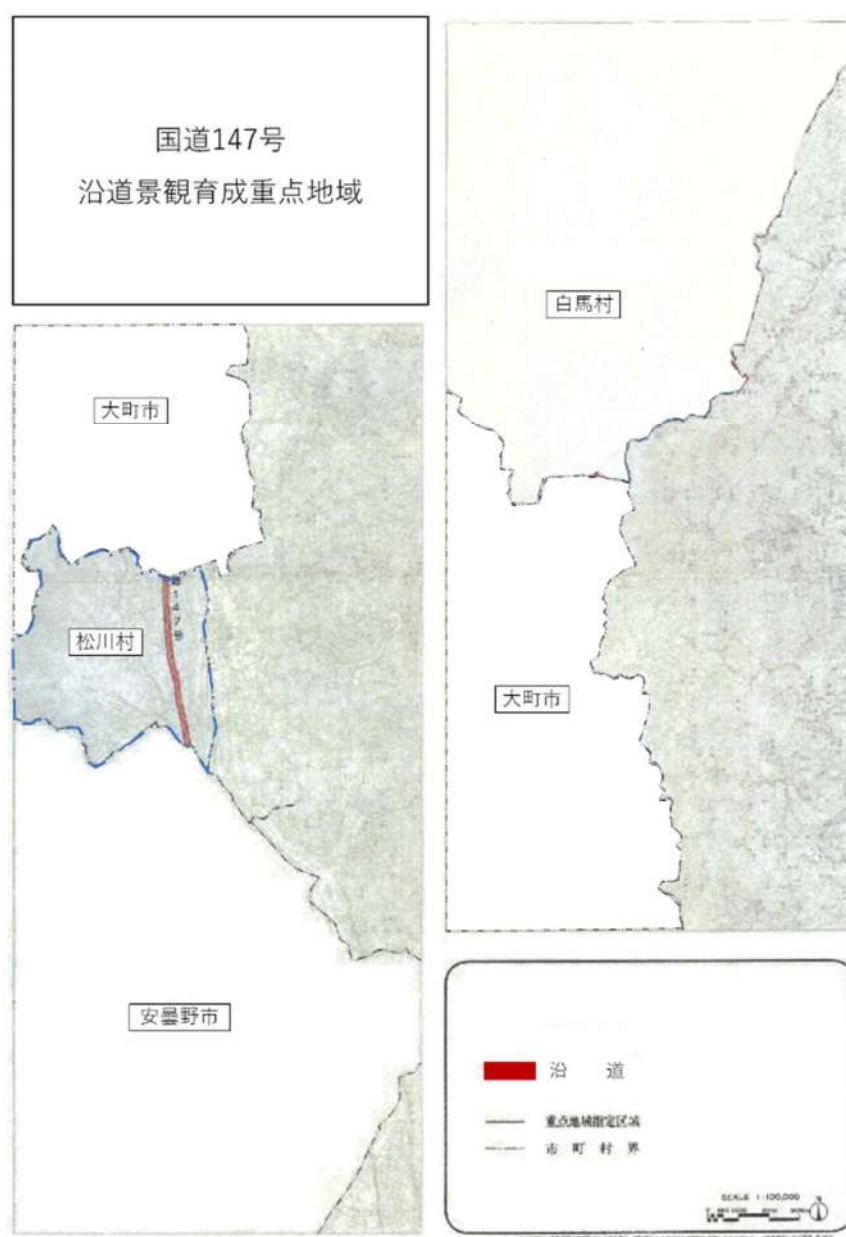
景観育成重点地域の区域は次のとおりであり、当該区域内において地域区分が設定されています。

### 1 景観育成重点地域の区域

一般国道147号の両側30メートル以内の区域うち、安曇野市と北安曇郡松川村との境界から大町市との境界まで

### 2 地域区分

地域区分	対 象
沿 道	一般国道147号の両側30メートル以内の区域うち、安曇野市と北安曇郡松川村との境界から大町市との境界まで



### 第3. 良好な景観育成のための行為の制限（法第8条第2項第2号関係）

#### 1 国道147号沿道景観育成重点地域景観育成基準

区 分	沿 道
(1) 建築物及び工作物の新築、増築、改築、移転又は外観の変更（太陽光発電施設を除く）	
ア 配置	(7) 道路からできるだけ後退し、道路側に空地を確保するように努めること。大規模行為にあっては、特に支障がある場合を除いて、5メートル以上道路から後退するよう努めること。
	(4) 隣地の敷地境界からできるだけ離し、ゆとりのある空間を確保すること。
	(9) 敷地内に大径木や良好な樹林、樹木や河川、水辺がある場合、これを生かせる配置とすること。
	(1) 北アルプスや田園への眺望を極力阻害しないような配置とすること。
	(6) 電柱、鉄塔類はできるだけ目立たないよう設置すること。
イ 規模	(7) 北アルプスの眺望をできるだけ阻害しないような規模、建築物等と敷地の釣り合い、高さとする。
	(4) 高層の場合には、空地を十分にとり圧迫感を生じないように努めること。
ウ 形態・意匠	(7) 背景となる北アルプスの山並みや周辺の建築物等と調和した形態であるとともに、全体としてまとまりのある形態とすること。
	(4) 屋根の形状は原則としてこ配屋根で適度な軒の出を有するものとし、こ配は背景のスカイラインや周辺の建築物等との調和に努めること。
	(9) 壁面等は、大規模な平滑面が生じないよう、陰影等の処理に配慮すること。
	(1) 周辺の基調となる建築物に比べて、規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫により、圧迫感や威圧感を軽減し、周辺との調和を図ること。
	(6) 河川、鉄道及び道路に面する壁面等は、公共性の高い部分として、デザイン等に配慮すること。
	(8) 屋上の設備は外部から見えにくいよう、壁面、ルーバーで覆う等の工夫をすること。
	(5) 屋外階段、ベランダ、パイプ類等の付帯設備や付帯の広告物等は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図ること。
エ 材料	(7) 周辺景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。
	(4) 反射光のある素材を極力しないよう努め、やむを得ず使用する場合は、着色等の工夫をすること。また、壁面の大部分に使用することは避けること。
	(9) 地域の優れた景観を特徴づける素材を活用すること。
オ 色彩等	(7) けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観又は周辺の建築物等と調和した色調とすること。
	(4) 使用する色数を少なくするよう努めること。
	(9) 照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意すること。
	(1) 光源で動きのあるものは、原則として避けること。
カ 敷地の緑化	(7) 敷地境界には樹木等を活用し、門、塀等による場合は、周辺景観と調和するよう配慮すること。
	(4) 建築物等の周囲は緑化することにより、圧迫感、威圧感の軽減に努めること。
	(9) 駐車場、自転車置き場等を設ける場合は、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。

	(エ) 緑化に使用する樹種は、地域の風土にあったものとし、特に道路等の公共空間や周囲の緑化との連続性に配慮すること。
	(オ) 河川等がある場合は、樹木を活用して、水辺の景観に配慮すること。
	(カ) 敷地内の樹木は、できるだけ残すよう努めること。
	(7) 配置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路等からできるだけ後退させるように努めること。</li> <li>・河川等の水辺や山並みなどの眺望を阻害しないよう努めること。</li> </ul>
キ 特定外観意匠に関する付加基準	(4) 規模、形態・意匠 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基調となる周辺景観に調和する形態・意匠とし、集合化するなど必要最小限の規模とすること。</li> <li>・周辺の建築物の屋根の高さを超えないよう努めること。</li> </ul>
	(ウ) 材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺景観と調和し、耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくいものとする。</li> <li>・反射光のある素材は、極力使用しないよう努め、やむを得ず使用する場合は、着色等の工夫をすること。また、壁面の大部分に使用することは避けること。</li> </ul>
	(エ) 色彩等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・けげばばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観又は周辺の建築物等と調和した色調とすること。</li> <li>・使用する色数を少なくするように努めること。</li> <li>・光源で動きのあるものは、原則として避けること。</li> </ul>
(2) 太陽光発電施設	
ア 配置	(7) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させること。
	(4) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避けること。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないよう、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめること。
	(エ) 主要な道路や住宅地に反射光の影響が懸念される場合は、配置や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へい措置について検討すること。
	(エ) 規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が生じないように配慮すること。
イ 規模	(7) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さ及び太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑えること。
ウ 形態・意匠	(7) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせること。
	(4) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周辺の山並み、建築物の屋根等と極力整合させること。
	(ウ) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路から見えにくくするとともに、電柱電線類については、極端に増加させないよう、低減に努めること。
エ 材料	(7) 周辺の景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。
	(ハ) 低反射のものを選択するか防眩処理を施す等、太陽光の反射を低減する対策を行い、素材の結晶が目立たないものを選択すること。また、フレームは低反射の素材を用いること。
オ 色彩等	(7) 太陽電池モジュールは黒又は濃紺を基本とした、低明度かつ低彩度の目立たないものとし、フレームも同系色を用いること。
	(4) フェンス、架台、パワーコンディショナー及び変圧器等の附属設備については、色彩に配慮すること。
カ 敷地の緑化	(7) 道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。
	(4) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低木性の樹種を避け、地域に適した植生とする。
	(ウ) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発揮できるよう、根巻きを行った苗などの使用を検討するとともに、植栽間隔や苗木の大きさに配慮する。

(3) 土地の形質の変更	
変更後の土地の形状、修景、緑化等	(7) 大規模な法面、擁壁をできるだけ生じないようにし、やむを得ない場合は、緩やかなこう配とし、緑化に努めること。
	(4) 擁壁は材料、表面処理の工夫、前面の緑化等により周辺の景観との調和を図ること。
	(7) 敷地内にある良好な樹林、樹木、河川、水辺等は極力保全し、活用するよう努めること。
	(エ) 団地開発では、電柱類はできるだけ道路側に設置しないようにするとともに、北アルプスへの眺望を阻害しないように努めること。
(4) 土石の採取及び鉱物の掘採	
採取等の方法、採取等後の緑化等	(7) 周辺からは目立ちにくいよう、採取等の位置、方法を工夫し、敷地周辺の緑化等に努めること。
	(4) 採取等後は、自然植生と調和した緑化等により修景すること。
(5) 屋外における物件の集積又は貯蔵	
集積、貯蔵の方法及び遮へい方法	(7) 物件を積み上げる場合には、高さをできるだけ低くするとともに、整然と、かつ威圧感のないように積み上げること。
	(4) 道路等から見えにくいよう遮へいし、その際には植栽などを行い周辺の景観に調和するように努めること。

## 2 法に基づく措置の基準

法第8条第4項第2号イに規定する制限及び法第17条第1項の規定による措置の基準は次のとおりとします。

- ・表中の(1)のうちウ、エ、オ、キ及び(2)のうちウ、エ、オ

# 八ヶ岳山麓景観育成重点地域景観計画

## 第1. 良好な景観の育成に関する方針（法第8条第3項関係）

### 1 景観の特性

#### (1) 地域の概況

この地域は、八ヶ岳連峰を中心とする山並みと、その裾野に広がる山麓からなり、豊かな樹林に覆われた峰々が連なり特徴ある山岳景観を構成している八ヶ岳や車山等は、内包する白樺湖等の湖沼や溪谷等もあわせて価値の高い自然景観資源性を有するとともに、眺望対象としても地域景観のシンボルとして重要な存在です。

八ヶ岳の山腹から山麓にかけて広がる樹林帯には、我が国でも有数の保養地が形成されており、首都圏を中心とした多くの人々が訪れる休養の場として重要な役割を果たしています。雄大に広がる山麓地は、広大な農地や緑に覆われた集落等、地域の自然景観と調和した田園景観を構成しているほか、縄文時代の史跡など文化遺産が残されています。また、そこから得られる八ヶ岳への雄大な眺望は、地域景観のシンボルとして、住民のみならず、訪れる観光客にも親しまれています。

一方、樹林帯においては別荘等の保養地整備、山麓の田園地帯においては広域的主要道路整備、市街地拡大等の様々な開発動向が見られ、景観の変容が予想されています。

#### (2) 景観の主な構成要素と景観育成上の課題

この地域は地形、植生などの自然条件、土地利用の状況、社会的な動向などにより、3つの類型に区分できます。類型ごとの景観の主な構成要素と景観育成上の課題は、次のとおりです。

##### ア 沿道地域（主要な道路に沿った区域）

地域内の主要な道路の沿道は、八ヶ岳や豊かな田園、樹林等良好な眺望が得られる地点が多い区域です。この区域においては、雄大な八ヶ岳の眺望を確保しつつ良好な沿道景観が育成されるよう配慮していくことが必要です。

##### イ 山麓田園地域（山麓部の田園の区域）

八ヶ岳の山麓に広がる田園の区域では、農地、集落、文化遺産、平地林等が一体となって自然と調和した景観を構成しています。この区域においては、優れた田園景観が保全・継承されるよう配慮していくとともに、雄大な八ヶ岳への眺望を確保していくことが必要です。

##### ウ 山地高原地域（八ヶ岳の山体と山麓にかけての樹林や保健休養地域）

八ヶ岳りょう線から山麓上部にかけての区域は、樹林の中に保健休養施設等が整備されています。この区域においては、山麓下部からの眺望に留意して景観の変容を抑制するとともに、樹林、樹木や湖沼、河川等を保全して保健休養地域としての良好な景観の育成に配慮していくことが必要です。

## 2 景観育成の方針

### (1) 沿道地域

八ヶ岳等の山並みへの眺望を維持しつつ、周囲の樹林や田園景観との調和が図られるよう、建築物等は周辺への圧迫感のない形態・意匠等とし、敷地周辺の緑化を進めるものとします。

### (2) 山麓田園地域

八ヶ岳等を背景とする地域固有の田園景観が維持されるよう、建築物等の位置、規模、形態・意匠等に留意するものとします。優れた集落景観が維持されている地域では、地場産材の活用や在来種による敷地内の緑化を進めるものとします。

### (3) 山地高原地域

高標高部の自然性の高い樹林の保全を図るとともに、山麓の自然環境と調和した保健休養施設等が整備されるよう、建築物等の建設や開発などの行為に際しては、基調となる地形、湖沼、河川、樹林などの保全・活用を図り、保健休養地域としての優れた景観を阻害しないように努めるとともに、他からの眺望の対象であることにも留意するものとします。

第 2． 景観育成重点地域の区域と地域区分（法第 8 条第 2 項第 1 号関係）

景観育成重点地域の区域は次のとおりであり、当該区域内において地域区分が設定されています。

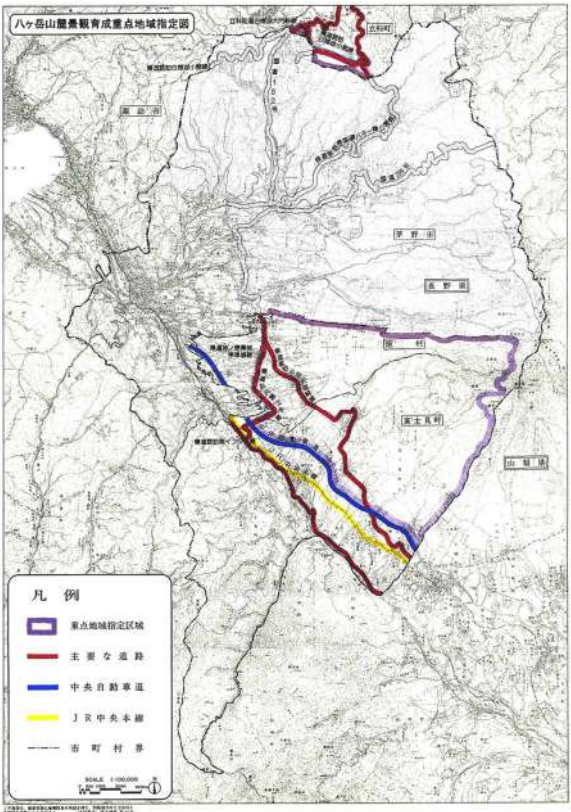
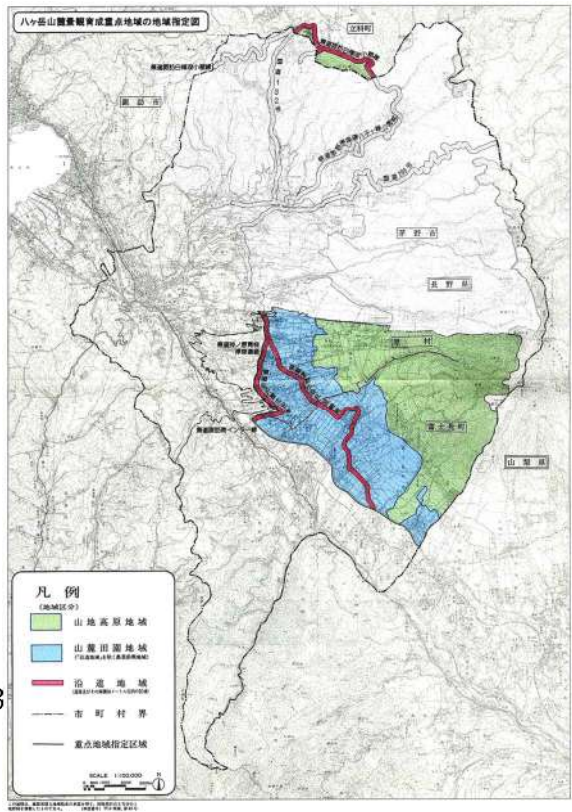
1 景観育成重点地域の区域

次に掲げる区域のうち、ハケ岳中信高原国定公園の特別保護地区を除く区域
(1) 諏訪郡原村の区域のうち、県道茅野北杜韭崎線のうち茅野市と諏訪郡原村との境界から県道神ノ原青柳停車場線との交差点まで、県道神ノ原青柳停車場線のうち県道茅野北杜韭崎線との交差点から県道弘沢富士見線との交差点まで及び県道弘沢富士見線のうち県道神ノ原青柳停車場線との交差点から諏訪郡原村と諏訪郡富士見町との境界までの区間の諏訪郡富士見町へ向かって左側の区域及び右側 30 メートル以内の区域
(2) 諏訪郡富士見町の区域のうち、県道弘沢富士見線のうち諏訪郡富士見町と諏訪郡原村との境界から県道諏訪南インター線との交差点まで、県道諏訪南インター線のうち県道弘沢富士見線との交差点から中央自動車道との交差点まで及び中央自動車道のうち県道諏訪南インター線との交差点から長野県と山梨県との境界までの区間の山梨県に向かって左側の区域並びに同区間のうち中央自動車道を除く区間の右側 30 メートル以内の区域
(3) 北佐久郡立科町の区域のうち、県道茅野停車場八子ヶ峰公園線のうち茅野市と北佐久郡立科町との境界（スズラン峠）から県道諏訪白樺湖小諸線との交差点まで、県道諏訪白樺湖小諸線のうち県道茅野停車場八子ヶ峰公園線との交差点から北佐久郡立科町道白樺湖別荘線との交差点を経由して北佐久郡立科町道白樺湖大門峠線との交差点まで、北佐久郡立科町道白樺湖大門峠線のうち県道諏訪白樺湖小諸線との交差点から北佐久郡立科町と茅野市との境界までの区間の大門峠へ向かって左側の区域及び右側 30 メートル以内の区域

2 地域区分

地域区分	対 象
(1) 都 市	次の道路並びにこれらの両側各 30 メートル以内の地域 国道 152 号、県道茅野北杜韭崎線、県道諏訪白樺湖小諸線、県道諏訪南インター線、 県道茅野停車場八子ヶ峰公園線、県道神ノ原青柳停車場線、県道弘沢富士見線
(2) 山麓田園	農業振興地域の整備に関する法律（昭和 44 年法律第 58 号） 第 6 条第 1 項に規定する農業振興地域の区域。ただし、(1)掲げる地域を除く。
(3) 山地高原	(1) 及び (2) に掲げる地域を除く地域

3



### 第3. 良好な景観育成のための行為の制限（法第8条第2項第2号関係）

#### 1 ハケ岳山麓景観育成重点地域景観育成基準

区 分	沿 道	山 麓 田 園	山 地 高 原
(1) 建築物及び工作物の新築、増築、改築、移転又は外観の変更（太陽光発電施設を除く）			
ア 配置	(7) 道路からできるだけ後退し、道路側に空地を確保するように努めること。 大規模行為にあっては、特に支障がある場合を除いて、道路から5メートル以上後退するように努めること。	(7) 道路からできるだけ後退し、道路側に空地を確保するように努めること。	(7) 道路からできるだけ後退し、良好な空間の確保に努めること。大規模行為にあっては、既存樹林を残置できるように道路から10メートル以上後退するように努めること。
	(4) 敷地境界からできるだけ離し、ゆとりのある空間を確保すること。	(4) 隣地の敷地境界からできるだけ離し、ゆとりのある空間を確保すること。	
	(5) 敷地内に樹木や河川、水辺等がある場合は、これらを生かせる配置とすること。		
	(イ) ハケ岳への眺望を極力阻害しない配置とすること。特にハケ岳への眺望が得られる側については、道路から可能な限り後退するように努めること。	(イ) ハケ岳への眺望を極力阻害しない配置とすること。	(イ) ハケ岳への眺望を極力阻害しないような配置とすること。地形の高低差がある場合はそれを生かして周辺の自然景観に調和するような配置とし、りょう線や斜面上部への配置はできるだけ避けること。
	(オ) 電柱、鉄塔類はできるだけ目立たない位置に設置すること。また、団地開発ではできるだけ電線の地中化や電柱類を道路側に設置しないようにする等ハケ岳の眺望を阻害しないように努めること。		(オ) 電柱、鉄塔類は樹林内等のできるだけ目立たない位置に設置すること。また、団地開発ではできるだけ電線の地中化や電柱類を道路側に設置しないようにする等ハケ岳の眺望を阻害しないよう努めること。
イ 規模	(7) ハケ岳への眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地の釣り合いとすること。		
	(4) 個々の建築物等の規模、高さは極力抑え、周辺の自然景観、田園景観等との調和に努めること。特に防風林等の樹林に隣接した位置については、樹高を超えない高さとなるよう努めること。	(4) 高さは原則として周辺の樹木の高さ以内とし、樹高を超える高さとなる場合は、周辺景観と調和したものとなるよう努めること。	
ウ 形態・意匠	(7) ハケ岳や背景となる山並みのスカイライン、防風林等の樹林、周囲の建築物等の形態、史跡などの文化遺産との調和に努めること。	(7) ハケ岳の山並みや湖沼、周囲の建築物等の形態との調和に努めること。	
	(4) 屋根の形状は原則としてこう配屋根で適度な軒の出を有するものとし、こう配は背景のスカイラインや周辺の建築物等との調和に努めること。		
	(5) 壁面等は、大規模な平滑面が生じないよう、陰影等の処理に配慮すること。		
	(イ) 周辺の基調となる建築物に比べて、規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫により、圧迫感や威圧感を軽減し、周辺との調和を図ること。		
	(オ) 屋上の設備は外部から見えないよう、壁面、ルーバーで覆う等の工夫をすること。		
エ 材料	(7) 周辺景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。		(7) 周辺景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。特に別荘地内においては、木材等の自然素材の使用に努めること。
	(4) 反射光のある素材を極力用いないように努めること。		

オ 色彩等	(7) けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観あるいは建築物等と調和した色調とすること。	
	(4) 使用する色数はできるだけ少なくするよう努めること。	
	(7) 照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度なものとならないように留意すること。	(7) 照明を行う場合は、安全性の確保等に必要な最小限度にとどめ、かつ設置場所の自然環境や周辺環境に留意すること。
	(1) 光源で動きのあるものは、原則として避けること。	
カ 敷地の緑化	(7) 敷地内の優れた樹木や防風林等がある場合は、可能な限り保存若しくは移植し、修景に生かすこと。	
	(4) 建築物等の周囲は緑化することにより、圧迫感、威圧感の軽減に努めること。	
	(7) 駐車場、自転車置場等を設ける場合は、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。	
	(1) 緑化に使用する樹種は、周辺の防風林等の樹林や緑地等と調和した地域の風土にあったものとするように努めること。	(1) 緑化に使用する樹種は、周辺の樹林等の景観と調和させるとともに、高原に適した樹種の活用にも努めること。
	(4) 河川等がある場合は、樹木を活用して、水辺の景観に配慮すること。	
キ 特定外観意匠に関する付加基準	(7) 配置 <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路からできるだけ後退させるよう努めること。</li> <li>・ハケ岳や周辺の山並み、湖沼等への眺望を阻害しないように努めること。</li> <li>・建築物等の屋上への掲出は、眺望を阻害しないようにできるだけ控えること。</li> </ul>	
	(4) 規模・形態・意匠 <ul style="list-style-type: none"> <li>・基調となる周辺景観に調和する形態・意匠とし、必要最小限の規模とすること。</li> <li>・周辺の建築物の屋根や植生、防風林、その他周辺の景観の基調をなすものの高さを超えないように努めること。</li> </ul>	
	(7) 材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくいものとするともに、設置箇所周辺の建築物等と調和した素材の使用に努めること。</li> <li>・反射光のある素材を極力使用しないよう努め、やむを得ず使用する場合は、着色等の工夫をすること。</li> </ul>	(7) 材料 <ul style="list-style-type: none"> <li>・耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくい素材を用いること。特に別荘地内においては自然素材等の使用に努めること。</li> <li>・反射光のある素材は原則として使用しないこと。</li> </ul>
	(1) 色彩等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観あるいは建築物等と調和した色調とすること。</li> <li>・使用する色数はできるだけ少なくするよう努めること。</li> <li>・光源で動きのあるものは、原則として避けること。</li> </ul>	(1) 色彩等 <ul style="list-style-type: none"> <li>・けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の自然景観と調和した色調とすること。</li> <li>・使用する色数はできるだけ少なくするよう努めること。</li> <li>・光源で動きのあるものは、原則として避けること。</li> </ul>
(2) 太陽光発電施設		
ア 配置	(7) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させること。	
	(4) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避けること。やむを得ずそのような場所を選定する	

	場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないよう、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめること。		
	(I) 主要な道路や住宅地に反射光の影響が懸念される場合は、配置や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へい措置について検討すること。		
	(I) 規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が生じないように配慮すること。		
イ 規模	(7) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さ及び太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑えること。		
ウ 形態・意匠	(7) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせること。		
	(イ) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周辺の山並み、建築物の屋根等と極力整合させること。		
	(ウ) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路から見えにくくするとともに、電柱電線類については、極端に増加させないよう、低減に努めること。		
エ 材料	(7) 周辺の景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。		
	(ニ) 低反射のものを選択するか防眩処理を施す等、太陽光の反射を低減する対策を行い、素材の結晶が目立たないものを選択すること。また、フレームは低反射の素材を用いること。		
オ 色彩等	(7) 太陽電池モジュールは黒又は濃紺を基本とした、低明度かつ低彩度の目立たないものとし、フレームも同系色を用いること。		
	(イ) フェンス、架台、パワーコンディショナー及び変圧器等の附属設備については、色彩に配慮すること。		
カ 敷地の緑化	(7) 道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。		
	(イ) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低木性の樹種を避け、地域に適した植生とする。		
	(ウ) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発揮できるよう、根巻きを行った苗などの使用を検討するとともに、植栽間隔や苗木の大きさに配慮する。		
(3) 土地の形質の変更			
変更後の土地の形状、修景、緑化等	(7) 土地の形質の変更は最小限にとどめ、やむを得ない場合でも法面ができるだけ生じないように緩やかなこう配とし、緑化に努めること。		
	(イ) 擁壁を必要とする場合は、材料、表面処理の工夫、前面の緑化等により周辺の景観との調和を図ること。	(イ) 擁壁を必要とする場合は、できる限り自然石等で表面化粧するように努めること。	
	(ウ) 水辺等は極力保全し、活用するように努めること。		
(4) 土石の採取及び鉱物の掘採			
採取等の方法、採取等後の緑化等	(7) 周辺からは目立ちにくいよう、採取等の位置、方法を工夫し、敷地周辺の緑化等に努めること。	(7) 周辺からは目立ちにくいよう、採取の位置、方法を工夫し、敷地周辺の緑化等に努めること。	(7) 周辺からは目立ちにくいよう、採取等の位置、方法を工夫し、敷地周辺の緑化等に努めること。
	(イ) 採取等後は、自然植生と調和した緑化等により修景すること。	(イ) 採取等後は周囲の自然環境と調和した緑化等により修景すること。	
(5) 屋外における物件の集積又は貯蔵			
集積、貯蔵の方法及び遮へい方法	(7) 物件を積み上げる場合には、高さをできるだけ低くするとともに、整然と、かつ威圧感のないように積み上げること。		
	(イ) 道路から見えにくいように遮へいし、その際には植栽などを行い周辺の景観に調和するように努めること。		

## 2 法に基づく措置の基準

法第8条第4項第2号イに規定する制限及び法第17条第1項の規定による措置の基準は次のとおりとします。

・表中の(1)のうちウ、エ、オ、キ及び(2)のうちウ、エ、オ

# 高社山麓・千曲川下流域景観育成重点地域景観計画

## 第1. 良好な景観の育成に関する方針（法第8条第2項第2号関係）

### 1 景観の特性

#### (1) 地域の概況

この地域は、千曲川を中心に広がる田園や市街地、その周囲の緑豊かな山並み等から構成されています。このうち南部に位置する「高社山」は、周囲の山稜と一線を画すコニーデ式火山の優雅な山容を示し、「ふるさとの山」として人々に親しまれているとともに、眺望対象としても地域景観のシンボルとして重要な存在です。また、地域を貫く千曲川沿いは、広がりのある田園や切り立った崖に囲まれた溪谷等、変化に富んだ景観を構成しているとともに、国道、鉄道等の主要な交通軸が通り、景観・生活の両面から「地域を結ぶ軸」として重要な役割を果たしています。

このほか、この地域は棚田や菜の花畑等の田園、山麓に広がる果樹園、温泉地やスキー場等の保健休養地域など自然環境と調和した景観が構成されており、また、地域北部は国内でも有数の豪雪地帯であり、雁木や中門造りの家屋など特徴的な景観がみられます。

一方、地域内では、近年、広域的主要交通網の整備が進行し、田園地帯における市街地の拡大、既存集落内や保健休養地における建築物の更新などが見られ、今後の景観の変容が予想されます。

#### (2) 景観の主な構成要素と景観育成上の課題

この地域は、地形・植生などの自然条件、土地の利用状況、社会的な動向などにより、5つの類型に区分できます。類型ごとの景観の主な構成要素と景観育成上の課題は、次のとおりです。

##### ア 市街地地域（発達した市街地の景観を有する区域）

野沢温泉村の中心部には、それぞれ個性豊かなまとまりのある市街地が形成されています。この区域においては、統一感のある個性的なまち並みが育成されるよう配慮していくことが必要です。

##### イ 沿道地域（主要な道路に沿った区域）

地域内の主要な道路の沿道には、千曲川や高社山への雄大な眺望や、豊かな田園、樹林等良好な眺望が得られる地点が多く存在しています。この区域においては、眺望を確保しつつ良好な沿道景観が育成されるよう配慮していくことが必要です。

##### ウ 田園地域（高社山麓や千曲川沿いに形成された田園の区域）

中野平や木島平等の盆地の区域では、平坦な地形を反映した広がりのある田園景観が構成されており、中野平、木島平の一带からは、高社山への雄大な眺望が得られます。また、地域南部、北部の千曲川沿いの地域では、両岸を豊かな緑で覆われた谷と農地や集落が一体となって、自然と調和した景観を構成しています。

この区域においては、高社山を望む、あるいは千曲川と一体となった優れた田園景観が保全・継承されるよう配慮していくとともに、高社山や千曲川への良好な眺望を確保していく必要があります。

#### エ 山麓田園地域（山麓部の田園及び保健休養地域の区域）

地域周辺の山麓に広がる田園の区域では、農地、集落、文化遺産、樹林等が一体となって自然と調和した景観を構成しています。また、一部には、スキー場や民宿・ペンション街等地域を特徴づける景観が構成されています。

この区域においては、優れた田園景観を保全・継承して良好な景観の育成に配慮していくことが必要です。

#### オ 山地・高原地域（標高の高い山地・高原の区域）

標高の高い山地・高原の区域は、樹林、河川、湖沼等が一体となった自然性の高い景観を構成しており、また、人々の保健休養の場として、あるいは周囲の盆地や山麓から眺めたときの良好な景観としても親しまれています。このうち、高社山一体は、地域南部の眺望のシンボルとして親しまれているとともに、スキー場を中心とした保健休養地域としての景観が構成されています。

この区域においては、盆地部や山麓部からの眺望に留意して景観の変容を抑制するとともに、樹林等の自然環境を保全して、良好な景観の育成に配慮していくことが必要です。

## 2 景観育成の方針

### (1) 市街地地域

まち並みとしてのまとまりを確保しつつ良好な市街地景観が育成されるよう、建築物等は、周辺と調和した高さ、規模、地域の持つ歴史性・文化性に配慮した形態・意匠とし、敷地周辺の緑化を進めるものとします。

### (2) 沿道地域

千曲川や高社山をはじめとする山並みへの眺望を維持しつつ、周囲の樹林や田園景観との調和が図られるよう、建築物等は周辺への圧迫感のない形態・意匠等とし、敷地周辺は花木等による緑化を進めるものとします。

### (3) 田園地域

高社山や千曲川沿いの緑を背景とする果樹園や水田等の地域固有の田園景観が維持されるよう、建築物等の位置、規模、形態・意匠等に留意するとともに、優れた集落景観が維持されている地域では、地場産材の活用や在来種による敷地内の緑化を進めるものとします。

### (4) 山麓田園地域

周囲の地形や気候等と調和した地域固有の田園景観が維持されるよう、建築物等の位置、規模、形態・意匠等に留意するとともに、優れた集落景観が維持されている地域では、地場産材の活用や在来種による敷地内の緑化を進めるものとします。

また、スキー場周辺においては、自然環境と調和した施設等が整備されるよう、建築物等の建設や開発などの行為に際しては、良好な自然環境の保全・活用を図り、優れた景観を阻害しないよう努めるとともに、他からの眺望の対象であることにも留意するものとします。

## (5) 山地・高原地域

自然性の高い樹林の保全を図るとともに、自然環境と調和した保健休養地域が育成されるよう、建築物等の建設や開発などの行為に際しては、基調となる地形、湖沼、河川、樹林等の保全・活用を図り、優れた景観を阻害しないよう努めるとともに、他からの眺望の対象であることにも留意するものとします。

## 第2. 景観育成重点地域の区域（法第8条第2項第1号関係）

### 1 重景観育成点地域の区域

次に掲げる区域のうち、上信越高原国立公園の区域を除く区域

- (1) 中野市の区域（千曲川河川中心からその下流に向かって右側の地域に限る。）のうち、高速自動車国道関越自動車道上越線のうち上高井郡小布施町と中野市との境界から県道中野豊野線との交差点まで、県道中野豊野線のうち高速自動車国道関越自動車道上越線との交差点から志賀中野有料道路を経て一般国道292号との交差点（志賀中野有料道路の出入口）まで及び一般国道292号のうち県道中野豊野線との交差点（志賀中野有料道路の出入口）から中野市と下高井郡山ノ内町との境界までの区間の下高井郡山ノ内町に向かって左側の区域及び右側30メートル以内の区域
- (2) 中野市の区域（千曲川河川中心からその下流に向かって左側の地域に限る。）のうち、県道飯山妙高高原線のうち上水内郡飯綱町と中野市との境界から高速自動車国道関越自動車道上越線豊田飯山インターチェンジまで、高速自動車国道関越自動車道上越線のうち高速自動車国道関越自動車道上越線豊田飯山インターチェンジから中野市大字上今井牡丹沢地区の一般国道117号との交差点まで及び一般国道117号のうち中野市大字上今井牡丹沢地区の高速自動車国道関越自動車道上越線との交差点から中野市と長野市との境界までの区間の長野市に向かって左側の区域及び右側30メートル以内の区域
- (3) 下高井郡木島平村の区域
- (4) 下高井郡野沢温泉村の区域のうち、県道奥志賀公園栄線のうち下水内郡栄村と下高井郡野沢温泉村との境界（毛無山南東）から下高井郡野沢温泉村と下水内郡栄村との境界（高倉山北東）までの区間の下水内郡栄村泉平地区に向かって左側の区域及び右側30メートル以内の区域
- (5) 下水内郡栄村の区域のうち、県道奥志賀公園栄線のうち下水内郡栄村と下高井郡野沢温泉村との境界（高倉山北東）から下水内郡栄村道箕作反り上場線との交差点まで、下水内郡栄村道箕作反箕作反り上場線のうち県道奥志賀公園栄線との交差点から下水内郡栄村道村木6号線との交差点まで、下水内郡栄村道村木6号線のうち下水内郡栄村道箕作反り上場線との交差点から下水内郡栄村道清沢線との交差点まで、下水内郡栄村道清沢線のうち下水内郡栄村道村木6号線との交差点から下水内郡栄村林道月岡西線との交差点まで、下水内郡栄村林道月岡西線のうち下水内郡栄村清沢線との交差点から下水内郡栄村道月岡豊引線との交差点まで、下水内郡栄村道月岡豊引線のうち下水内郡栄村林道月岡西線との交差点から下水内郡栄村道大巻1号線との交差点まで、下水内郡栄村道大巻1号線のうち下水内郡栄村道月岡豊引線との交差点から県道長瀬横倉停車場線との交差点まで、県道長瀬横倉停車場線のうち下水内郡栄村道大巻1号線との交差点から下水内郡栄村道天代原向線との交差点まで、下水内郡栄村道天代原向線のうち県道長瀬横倉停車場線との交差点から下水内郡栄村道天代坪野線との交差点まで、下水内郡栄村道天代原向線と下水内郡栄村道天代坪野線との交差点から県道北野森宮野原停車場線と下水内郡栄村道鳥甲線との交差点を直線で結んだ線を経て下水内郡栄村道鳥甲線のうち県道北野森宮野原停車場線との交差点から下水内郡栄村林道栄線との交差点まで、下水内郡栄村林道栄線のうち下水内郡栄村道鳥甲線との交差点から下水内郡栄村道長瀬秋山線との交差点まで、下水内郡栄村道長瀬秋山線のうち下水内郡栄村林道栄線との交差点から下水内郡栄村林道秋山線との交差点まで及び下水内郡栄村林道秋山線のうち下水内郡栄村道長瀬秋山線との交差点から上信越高原国立公園との境界までの区間の上信越高原国立公園に向かって左側の区域及び右側30メートル以内の区域並びに森林法（昭和26年法律第249号）第5条第2項第1号に規定する地域森林計画の対象となっている民有林のうち中津川流域に含まれる区域

## 2 地域区分

地域区分	対 象
(1) 市街地地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下高井郡野沢温泉村の区域のうち、県道飯山野沢温泉線のうち飯山市と下高井郡野沢温泉村との境界から下高井郡野沢温泉村道 1－1 線との交差点まで、</li> <li>・下高井郡野沢温泉村道 1－1 号線のうち県道飯山野沢温泉線との交差点から下高井郡野沢温泉村道豊郷 183 号線との交差点まで、</li> <li>・下高井郡野沢温泉村道豊郷 183 号線のうち下高井郡野沢温泉村道 1－1 号線との交差点から下高井郡野沢温泉村道豊郷 24 号線との交差点まで、</li> <li>・下高井郡野沢温泉村道豊郷 24 号線のうち下高井郡野沢温泉村道豊郷 183 号線との交差点から下高井郡野沢温泉村道豊郷 24 号線の終点まで、</li> <li>・下高井郡野沢温泉村道豊郷 24 号線の終点から県道野沢上境停車場線と下高井郡野沢温泉村道豊郷 327 号線との交差点を直線で結んだ区間を経て下高井郡野沢温泉村道豊郷 327 号線のうち県道野沢上境停車場線との交差点から下高井郡野沢温泉村道豊郷 1 号線との交差点まで、</li> <li>・下高井郡野沢温泉村道豊郷 1 号線のうち下高井郡野沢温泉村道豊郷 327 号線との交差点から下高井郡野沢温泉村道豊郷 141 号線との交差点まで、</li> <li>・下高井郡野沢温泉村道豊郷 141 号線のうち下高井郡野沢温泉村道豊郷 1 号線との交差点から下高井郡野沢温泉村道 1－6 号線との交差点まで、</li> <li>・下高井郡野沢温泉村道 1－6 号線のうち下高井郡野沢温泉村道豊郷 141 号線との交差点から下高井郡野沢温泉村と飯山市との境界まで及び下高井郡野沢温泉村と飯山市との境界のうち下高井郡野沢温泉村道 1－6 号線との交点から県道飯山野沢温泉線との交点までの区間で囲まれる地域</li> </ul>
(2) 沿道地域	<p>次の道路及びこれらの両側各 30 メートル以内の地域のうち、(1)に掲げる地域及びずい道の区間を除いた地域</p> <p>高速自動車国道関越自動車道上越線、一般国道 117 号、一般国道 292 号、一般国道 403 号、一般国道 405 号、県道中野豊野線、県道飯山野沢温泉線及び県道飯山妙高高原線</p>
(3) 田園地域	<p>次の区域のうち、(1)、(2)及び(5)に掲げる地域を除いた地域</p> <p>ア 中野市の区域（千曲川河川中心からその下流に向かって右側の地域に限る。）のうち、都市計画法第 5 条第 1 項に規定する都市計画区域（以下「都市計画区域」という。）及び農業振興地域の整備に関する法律（昭和 44 年法律第 58 号）第 6 条第 1 項に規定する農業振興地域（以下「農業振興地域」という。）の区域</p> <p>イ 中野市の区域（千曲川河川中心からその下流に向かって左側の地域に限る。）のうち、飯山線の飯山市に向かって右側の地域及び一般国道 117 号のうち長野市と中野市との境界から中野市大字豊津字横吹の中野市と飯山市との境界までの区間の飯山市に向かって右側の地域</p> <p>ウ 下高井郡木島平村の区域のうち、県道飯山野沢温泉線のうち飯山市と下高井郡木島平村との境界（烏川橋北）から県道馬曲木島停車場線との交差点まで、県道馬曲木島停車場線のうち県道飯山野沢温泉線との交差点から県道七曲西原線との交差点まで、県道七曲西原線のうち県道馬曲木島停車場線との交差点から一般国道 403 号との交差点まで、一般国道 403 号のうち県道七曲西原線との交差点から下高井郡木島平村道 30 号線との交差点まで、下高井郡木島平村道 30 号線のうち一般国道 403 号との交差点から下高井郡木島平村大字上木島字上原 3426 番地の 1 との交点まで並びに字上原 3426 番地の 1、字上原 3426 番地の口、字荒古 4626 番地、字荒古 4623 番地の 2 及び字荒古 4627 番地を経て下高井郡木島平村と中野市との境界までの区間の中野市に向かって右側の地域</p> <p>エ 下高井郡野沢温泉村の区域のうち、一般国道 117 号のうち飯山市と下高井郡野沢温泉村との境界から県道箕作飯山線との交差点まで及び県道箕作飯山線（一部未供用区間を含む。）のうち一般国道 117 号との交差点から下高井郡野沢温泉村と下水内郡栄村との境界までの区間の下水内郡栄村に向かって左側の地域</p> <p>オ 下水内郡栄村の区域のうち、飯山線のうち飯山市と下水内郡栄村との境界から長野県と新潟県との境界までの区間の新潟県に向かっての右側の千曲川河川中心から左側の地域及び県道箕作飯山線のうち飯山市と下水内郡栄村との境界から一般国道 117 号との交差点まで及び一般国道 117 号のうち県道箕作飯山線との交差点から長野県と新潟県との境界までの区間の新潟県に向かって右側の千曲川河川中心から左側の地域並びに県道箕作飯山線（一部未供用区間を含む。）のうち下高井郡野沢温泉村と下高井郡栄村との境界から県道長瀬横倉停車場線との交差点まで、県道長瀬横倉停車場線のうち県道箕作飯山線との交差点から下水内郡栄村道月岡志久見線との交差点まで、下水内郡栄村道月岡志久見線のうち県道長瀬横倉停車場線との交差点から下水内郡栄村林道滝見線との交差点まで、下水内郡栄村林道滝見線のうち下水内郡栄村道月岡志久見線との交差点から県道北野森宮野原停車場線との交差点まで及び県道北野森宮野原停車場線のうち下水内郡栄村林道滝見線との交差点から長野県と新潟県との境界までの区間の新潟県に向かって左側の千曲川河川中心から右側の地域</p>

(4) 山麓田園地域	(1)、(2)、(3)及び(5)に掲げる地域を除いた地域
(5) 山地・高原地域	<p>次の区域のうち、(2)に掲げる地域を除いた地域</p> <p>ア 都市計画区域、農業振興地域のいずれにも含まれない地域</p> <p>イ 次の地域</p> <p>(ア) 中野市の区域のうち、県道中野飯山線のうち飯山市と中野市との境界から県道夜間瀬赤岩線との交差点まで及び県道夜間瀬赤岩線のうち県道中野飯山線との交差点から中野市と下高井郡山ノ内町との境界までの区間の下高井郡山ノ内町に向かって左側の森林法（昭和 26 年法律第 249 号）第 5 条第 2 項第 1 号に規定する地域森林計画の対象となっている民有林（以下「地域森林計画対象民有林」という。）の地域並びに中野市大字田上字牧ノ入、字日向、字笠原嶽、字朝日及び字夕日の地域並びに県道飯山妙高高原線のうち上水内郡飯綱町と中野市との境界から中野市道涌井斑山線との交差点まで、中野市道涌井斑山線のうち県道飯山妙高高原線との交差点から林道涌井斑山線の起点まで、林道涌井斑山線のうち起点から農業振興地域の境界との交点まで、農業振興地域の境界のうち林道涌井斑山線との交点から飯山市方向に進み中野市道斑山登山道線との交点まで、中野市道斑山登山道線のうち農業振興地域の境界との交点から中野市道斑山線との交差点まで、中野市道斑山線のうち中野市道斑山登山道線との交差点から中野市道堀越線との交差点まで及び中野市道堀越線のうち中野市道斑山線との交差点から中野市と飯山市との境界までの区間の飯山市に向かって左側の地域</p> <p>(イ) 下高井郡木島平村の区域のうち、一般国道 403 号のうち下高井郡山ノ内町と下高井郡木島平村との境界から下高井郡木島平村道 30 号線との交差点まで、下高井郡木島平村道 30 号線のうち一般国道 403 号との交差点から下高井郡木島平村大字上木島字上原 3426 番地の 1 との交点まで並びに字上原 3426 番地の 1、字上原 3426 番地の口、字荒古 4626 番地、字荒古 4623 番地の 2 及び字荒古 4627 番地を経て下高井郡木島平村と中野市との境界までの区間の中野市に向かって左側の地域並びに下高井郡木島平村大字上木島の区域のうち地域森林計画対象民有林の地域</p> <p>(ウ) 下高井郡野沢温泉村の区域のうち、下高井郡野沢温泉村道豊郷 354 号線と都市計画区域の境界との交点、下高井郡野沢温泉村道豊郷 193 号線の終点、下高井郡野沢温泉村道豊郷 195 号線の基点、下高井郡野沢温泉村道豊郷 243 号線の起点、下高井郡野沢温泉村道豊郷 246 号線の起点及び下高井郡野沢温泉村道豊郷 246 号線の起点と下高井郡野沢温泉村道豊郷 256 号線の起点とを結んだ線と都市計画区域の境界との交点を結んだ区間の下高井郡木島平村に向かって左側の都市計画区域</p> <p>(エ) 下水内郡栄村の区域のうち、飯山市と下水内郡栄村との境界のうち飯山市の農業振興地域の境界との交点、下水内郡栄村道平滝野々海線の終点及び長野県と新潟県の境界のうち下水内郡栄村大字北信の地域森林計画対象民有林 30 林班と 31 林班の境界との交点を結んだ線の新潟県に向かって左側の地域並びに県道長瀬横倉停車場線のうち新潟県と長野県との境界から県道北野森宮野原停車場線との交差点まで及び県道北野森宮野原停車場線のうち県道長瀬横倉停車場線との交差点から県道北野森宮野原停車場線の起点との間の景観育成重点地域の境界との交点までの区間の上信越高原国立公園に向かって左側の地域</p>



### 第3. 良好な景観育成のための行為の制限（法第8条第2項第2号関係）

#### 1 高社山麓・千曲川下流域景観育成重点地域景観育成基準

区 分	市 街 地	沿 道	田 園	山 麓 田 園	山地・高原
(1) 建築物及び工作物の新築、増築、改築、移転又は外観の変更（太陽光発電施設を除く）					
ア 配置	(7) 周辺と壁面線を合わせつつ、極力道路から後退し、連続した沿道の空間を構成するように努めること。	(7) 道路からできるだけ後退し、道路側に空地を確保するように努めること。 大規模行為にあつては、特に支障がある場合を除いて、道路から5メートル以上後退するように努めること。	(7) 道路からできるだけ後退し、道路側に空地を確保するよう努めること。	(7) 道路からできるだけ後退し、良好な空間の確保に努めること。大規模行為にあつては既存樹林を残置できるように道路から10メートル以上後退するように努めること。	
	(イ) 隣接地と相互に協力して、まとまった空間を生み出すように努めること。	(イ) 隣地の敷地境界からできるだけ離し、ゆとりある空間を確保すること。			
	(ウ) 堆雪スペース等は、積雪期以外における周辺景観との調和に配慮すること。				
	(エ) 敷地内に樹木や河川、水辺等がある場合は、これらを生かせる配置とすること。				
	(オ) 千曲川や高社山、周辺の山並みへの眺望や、付近のランドマークとなる建築物等への眺望を極力阻害しない配置とすること。	(オ) 千曲川や高社山、周辺の山並みへの眺望を極力阻害しない配置とすること。特に千曲川や高社山への良好な眺望が得られる側については、道路から可能な限り後退するように努めること。	(オ) 千曲川や高社山、周辺の山並みへの眺望を極力阻害しない配置とすること。特に眺望上重要な周囲の丘陵、千曲川沿いの河岸崖や斜面等から突出した印象を与えないように努めること。	(オ) 田園や背景となる山並みへの眺望を極力阻害しない配置とすること。特に眺望の対象となるりょう線や斜面上部への配置はできるだけ避けること。	(オ) 田園の樹林や池沼、背景となる山並みへの眺望を極力阻害しない配置とすること。地形の高低差がある場合はそれを生かして周辺の自然景観に調和するような配置とし、稜線や斜面上部への配置はできるだけ避けること。
	(カ) 電柱、鉄塔類はできるだけ目立たないよう設置すること。	(カ) 電柱、鉄塔類はできるだけ目立たない位置に設置すること。また、団地開発等ではできるだけ電線の地中化や電柱類を道路側に設置しないようにする等千曲川や高社山、周辺の山並みの眺望を阻害しないように努めること。			(カ) 電柱、鉄塔類は樹林内等のできるだけ目立たない位置に設置すること。
イ 規模	(7) 周辺の基調となる家並みから著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地の釣り合い、高さとすること。	(7) 千曲川や高社山、周辺の山並みへの眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周囲の基調となる景観から著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地の釣り合い、高さとすること。	(7) 千曲川や高社山、周辺の山並みへの眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周囲の田園や河岸崖、丘陵等から著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地の釣り合い、高さとすること。	(7) 田園や背景となる山並みへの眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周囲の基調となる樹林やりょう線から著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地の釣り合い、高さとすること。	(7) 周囲の樹林や池沼、背景となる山並みへの眺望をできるだけ阻害しないようにするとともに、周囲の基調となる樹林やりょう線から著しく突出した印象を与えない規模、建築物等と敷地の釣り合い、高さとすること。

	(イ) 高さは周辺のまち並みとしての連続性に配慮するとともに、高層の場合は、圧迫感を生じないよう努めること。	(イ) 個々の建築物等の規模、高さは極力抑え、周辺の自然景観、田園景観等との調和に努めること。特に樹林に隣接した位置については、樹高を超えない高さとなるよう努めること。	(イ) 高さは原則として周辺の樹林の高さ以内とし、樹高以上になる場合は、周辺景観と調和したものとなるように努めること。
ウ 形態・意匠	(ア) 周囲の建築物等の形態との調和に努めること。また、地域の伝統的な形態・意匠等の活用にも努めること。	(ア) 高社山や背景となる山並みのスカイライン、千曲川沿い等の樹林、周囲の建築物等の形態との調和に努めること。また、地域に伝統的な形態・意匠がある場合は、その活用にも努めること。	(ア) 高社山や背景となる山並みのスカイライン、河川沿いの樹林、周囲の建築物等の形態との調和に努めるとともに、地域に伝統的な形態・意匠がある場合は、その活用にも努めること。また、宿泊施設街や保健休養地域においては、相互の建築物等の形態・意匠の調和に配慮するように努めること。
	(イ) 屋根の形状は雪の処理等により困難なものを除き、できるだけこう配屋根にするように努めること。また、建築物等の正面のデザインに特に留意し、都市美やランドマークの育成にも努めること。	(イ) 屋根の形状は雪の処理等により困難なものを除き、できるだけこう配屋根で適度な軒の出を有するものとし、こう配は背景のスカイラインや周囲の建築物等との調和に努めること。	
	(ウ) 壁面は、大規模な平滑面が生じないよう、陰影等の処理に配慮すること。	(ウ) 壁面等は、大規模な平滑面が生じないよう、陰影等の処理に配慮すること。	
	(エ) 周囲の基調となる建築物に比べて、規模が大きい場合には、屋根、壁面、開口部等の意匠の工夫により、圧迫感や威圧感を軽減し、周辺との調和を図ること。		
	(オ) 屋上の設備は外部から見えにくいよう、壁面、ルーバーで覆う等の工夫をすること。		
	(カ) 屋外階段、ベランダ、パイプ類等の付帯設備や付帯の広告物等は、煩雑な印象を与えないよう、デザインに配慮し、建築物等本体との調和を図ること。		
	(キ) 河川、鉄道及び道路に面する壁面等は、公共性の高い部分として、デザイン等に配慮すること。		
エ 材料	(ア) 周辺景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。また、地域で伝統的に用いられている素材がある場合は、その活用に努めること。	(ア) 周辺景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。また、地域に伝統的な素材がある場合は、その活用に努めること。特に宿泊施設街や保健休養地域においては、できるだけ自然素材の使用に努めること。	
	(イ) 反射光のある素材を使用する場合は周辺との調和に十分配慮すること。	(イ) 反射光のある素材を極力用いないように努めること。	
オ 色彩等	(ア) けばけばしい色彩とせず、周囲の建築物等と調和した色調とすること。また、積雪期における周辺景観との調和にも配慮すること。	(ア) けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の自然景観や積雪期における周辺景観と調和した色調とすること。また、宿泊施設街や保健休養地域においては相互の建築物との調和に配慮すること。	
	(イ) 多色使い、アクセント色の使用等に際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスに十分配慮すること。	(イ) 使用する色数はできるだけ少なくするよう努めること。	

	(ウ) 照明を行う場合は、設置場所周辺の環境に留意し、過度なものとならないように留意すること。		
オ 色彩等	(イ) 光源で動きのあるものは、周辺景観との調和に留意すること。	(イ) 光源で動きのあるものは、原則として避けること。	
カ 敷地の緑化	(ア) 敷地内に優れた樹木等がある場合は、可能な限り保存若しくは移植し、修景に生かすこと。		
	(イ) 建築物等の周囲は積雪、堆雪等の状況を考慮した上でできるだけ緑化し、圧迫感威圧感の軽減に努めること。		
	(ウ) 駐車場、自転車置場等を設ける場合には、道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。		
	(イ) 緑化に使用する樹種は、地域の風土にあったものとし、特に道路等の公共空間や周囲の緑化との連続性に配慮すること。	(イ) 緑化に使用する樹種は、周辺の樹林や緑地と調和した地域の風土にあったものとするように努めること。	(イ) 緑化に使用する樹種は、周辺の樹林等の景観と調和させるとともに、周辺に自生する樹種の活用を努めること。
	(オ) 河川等がある場合は、樹木を活用して、水辺の景観に配慮すること。		
	(カ) 敷地境界に遮へい物を設ける場合は自然素材を用いる等、周辺景観と調和するよう配慮すること。特に現状において生垣が形成されている集落内沿道では、やむを得ない場合を除き生垣とすること。		
キ 公衆の関心を引く目的で外観に施される形態又は色彩その他の意匠（特定外観意匠）に関する付加基準	(ア) 配置  ・道路等からできるだけ後退させるよう努めること。 ・千曲川や高社山、周辺の山並みへの良好な眺望が得られる場合は、その眺望を極力阻害しないように努めること。 ・建築物等の屋上への掲出は、眺望を阻害しないようにできるだけ控えること。	(ア) 配置  ・道路からできるだけ後退させるよう努めること。 ・千曲川や高社山、周辺の山並み等への眺望を阻害しないよう努めること。 ・建築物等の屋上への掲出は、眺望を阻害しないようにできるだけ控えること。	
	(イ) 規模、形態・意匠  ・基調となる周辺景観に調和する形態・意匠とし、必要最小限の規模とすること。 ・周辺の建築物の屋根の高さを超えないよう努めること。	(イ) 規模、形態・意匠  ・基調となる周辺景観に調和する形態・意匠とし、必要最小限の規模とすること。 ・周辺の建築物の屋根や植生、その他周辺の景観の基調をなすものの高さを超えないように努めること。	
	(ウ) 材料 ・耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくいものとするとともに、設置箇所周辺の建築物等と調和した素材の使用に努めること。 ・反射光のある素材を使用する場合は、周辺との調和に十分配慮すること。	(ウ) 材料 ・耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくいものとするとともに、設置箇所周辺の建築物等と調和した素材の使用に努めること。 ・反射光のある素材は極力使用しないよう努め、やむを得ず使用する場合は、着色等の工夫をすること。	(ウ) 材料 ・耐久性に優れ、退色・はく離等の生じにくい素材を用いるとともに、自然素材等の使用に努めること。 ・反射光のある素材は原則として使用しないこと。

	(Ⅰ) 色彩等 ・ けばけばしい色彩とせず、周辺の建築物等と調和した色調とすること。 ・ 多色使いに際しては、使用する色彩相互の調和、使用する量のバランスに十分配慮すること。 ・ 光源で動きのあるものは、周辺の景観との調和に留意すること。	(Ⅰ) 色彩等 ・ けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の景観あるいは建築物等と調和した色調とすること。 ・ 使用する色数はできるだけ少なくするように努めること。 ・ 光源で動きのあるものは、原則として避けること。	(Ⅰ) 色彩等 ・ けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の自然景観と調和した色調とすること。 ・ 使用する色数はできるだけ少なくするように努めること。 ・ 光源で動きのあるものは、原則として避けること。
(2) 太陽光発電施設			
ア 配置	(7) 敷地が主要な道路や住宅の敷地等に隣接する場合は、太陽電池モジュールを境界から一定距離後退させること。		
	(4) 稜線や斜面上部、高台等、周囲から見通せる場所は極力避けること。やむを得ずそのような場所を選定する場合は、尾根や地形の連続性が損なわれる等の違和感が生じないよう、樹木の伐採や土地の掘削を最小限にとどめること。		
	(Ⅰ) 主要な道路や住宅地に反射光の影響が懸念される場合は、配置や向き、傾斜の角度、材料、植栽等の遮へい措置について検討すること。		
	(Ⅰ) 規模や地形等に応じて分割する等、大規模な平滑面が生じないように配慮すること。		
イ 規模	(7) 周辺からの視界をできる限り遮らないよう、施設の高さ及び太陽電池モジュールの垂直投影面積を極力抑えること。		
ウ 形態・意匠	(7) 当該地に応じた架台を選定するとともに、太陽電池モジュールの向きや傾斜をそろえる等、配列に一定の規則性を持たせること。		
	(4) 太陽電池モジュールの傾斜角は、周辺の山並み、建築物の屋根等と極力整合させること。		
	(9) 太陽電池モジュールの裏面が周辺の道路から見えにくくするとともに、電柱電線類については、極端に増加させないよう、低減に努めること。		
エ 材料	(7) 周辺の景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。		
	(8) 低反射のものを選択するか防眩処理を施す等、太陽光の反射を低減する対策を行い、素材の結晶が目立たないものを選択すること。また、フレームは低反射の素材を用いること。		
オ 色彩等	(7) 太陽電池モジュールは黒又は濃紺を基本とした、低明度かつ低彩度の目立たないものとし、フレームも同系色を用いること。		
	(4) フェンス、架台、パワーコンディショナー及び変圧器等の附属設備については、色彩に配慮すること。		
カ 敷地の緑化	(7) 道路等から直接見えにくいように周囲の緑化に努めること。		
	(4) 樹種の選定にあたっては、外来種及び低木性の樹種を避け、地域に適した植生とする。		
	(9) 植栽計画にあたっては、効果が早期に発揮できるよう、根巻きを行った苗などの使用を検討するとともに、植栽間隔や苗木の大きさに配慮する。		
(2) 土地の形質の変更			
変更後の土地の形状、修景、緑化等	(7) 土地の形質変更は最小限にとどめ、やむを得ない場合でも法面ができるだけ生じないように緩やかなこう配とし、緑化に努めること。		
	(4) 擁壁を必要とする場合は、材料、表面処理の工夫、前面の緑化等により周辺の景観との調和を図ること。		
	(9) 敷地内にある良好な樹林、樹木、河川、水辺等は極力保全し、活用するように努めること。		
(3) 土石の採取及び鉱物の掘採			
採取等の方法、採	(7) 周辺からは目立ちにくいよう、採取等の位置、方法を工夫し、敷地周辺の緑化等に努めること。		

取等後の 緑化等	(イ) 採取等後は周囲の自然環境と調和した緑化等により修景すること。
(4) 屋外における物件の集積又は貯蔵	
集積、貯 蔵の方法 及び遮へ い方法	(ア) 物件を積み上げる場合には、高さをできるだけ低くするとともに、整然と、かつ威圧感のないように積み上げる こと。
	(イ) 道路等から見えにくいよう遮へいし、その際には植栽の実施、木塀の設置等周辺の景觀に調和するよう努める こと。

## 2 法に基づく措置の基準

法第8条第4項第2号イに規定する制限及び法第17条第1項の規定による措置の基準は次のとおりとします。

- ・表中の(1)のうちウ、エ、オ、キ及び(2)のうちウ、エ、オ

## (別表1)公共事業景観育成指針

### 第1. 共通指針

区 分	指 針
1 法面	法面は、安全上支障ない範囲で地形、地質等を考慮して、周辺の景観と調和する構造とし、緑化に努める。
2 擁壁	擁壁は、安全上支障のない範囲で、形態や意匠について工夫を行い、周辺の景観と調和する構造とし、周辺の緑化などに努める。
3 附属物（標識、防護柵、照明施設等）	標識、防護柵、照明施設等は、構造、意匠及び色彩について、地域の特性を踏まえたものとするなど、安全上支障のない範囲で、できるだけ楽しさや快適さを与え、周辺の施設と調和するよう努める。特に、山地・高原や田園等の豊かな自然環境を有する地域にあっては、木製防護柵の使用に努める。
4 緑化・植栽	緑化・植栽は、うるおいのある良好な空間をつくるため、積極的に推進し、既存の樹木を極力活かすとともに、大径木や良好な樹木などを活用するとともに、周辺の樹木と調和した樹種や地域の自然植生を考慮した樹種を選定するなど、地域の特性を生かしたものとし、周辺の景観と調和するよう努める。
5 占用工作物（電柱、広告物等）	道路敷地その他公共用地での占用行為は、構造、意匠及び色彩について、周辺の景観と調和するよう努める。

## 第2. 施設別指針

### 1 道路

道路は、人々の往来や物の流通等一般交通のための最も基本的な施設として、県内のいたるところに通じており、その沿道には、山並み、田園、まち並みなど多種多様な景観が広がっている。このため、その整備に当たっては、それぞれの特性を踏まえ、周辺の景観と調和のとれた道路景観の育成に配慮することが必要であり、山地・高原や田園のような豊かな自然環境を有する地域においては、周囲の自然景観に与える影響に留意し、また、都市部においては、沿道のまち並みや建築物等との調和に配慮する必要がある。

区 分	指 針
(1) 路線の選定	良好な景観を有している地域にあつては、その地域の景観を損なわないような路線の選定を行い、周辺景観との調和に配慮する。
(2) トンネル及びシェッド	トンネル、ロックシェッド及びスノーシェッドの坑口は、周辺の景観との調和を図り、坑門形状や壁面の処理に配慮する。
(3) 高架橋	高架橋の橋脚、橋桁、防音壁等の意匠、色彩については、周辺の景観と調和するよう配慮する。
(4) 交差点	交差点における信号機柱、標識、照明施設等については、整理統合に努め、周辺の景観への影響を緩和するよう配慮する。
(5) 歩道及び自転車道	ア 歩道及び自転車道の舗装は、必要に応じ地域の特性を生かした素材の活用を努め、周辺の景観と調和するよう配慮する。 イ 植樹ますなどストリートファニチャー等を設置する場合は、配置、意匠、素材を工夫し、周辺景観と調和するよう配慮する。
(6) 横断歩道橋	横断歩道橋は、意匠、色彩について、周辺の景観との調和に配慮し、橋の取付部等は、必要に応じ緑化するよう努める。
(7) 地下歩道	ア 上屋は、意匠、色彩について、周辺の景観と調和するよう配慮する。 イ 地下部は、安心感、楽しさ、明るさを持つ空間となるよう配慮する。
(8) 緑の保全と緑化	ア 都市部の道路にあつては、できる限り連続した植樹帯を設け、山地・高原や田園のような豊かな自然環境を有する地域の道路にあつては、必要に応じ植樹帯を設ける。 イ ポイントとなる地点や余裕地は、必要に応じポケットパーク等として緑化修景し、憩いの空間を創出するよう配慮する。 ウ 中央分離帯や交通島については、交通安全上支障のない範囲で緑化に努める。
(9) 電線類の地中化	電線類は、地中化について積極的に取り組み、都市景観の向上に努める。

## 2 橋りょう

橋りょうは、人や車の通行だけでなく、水辺の風景の要素としての役割も演じており、それ自体が優れた景観ともなり得るため、景観の育成上重要な施設となっている。このため、整備に当たっては、水や森、周囲の山並み、まち並みとの調和に配慮する必要がある。

区 分	指 針
(1) 橋りょう本体	橋りょう本体の構造形式、意匠、素材及び色彩については、地域の風土や歴史的背景を生かすとともに、周辺の景観と調和するよう配慮する。
(2) 高欄、照明施設等	ア 高欄、照明施設等の配置、意匠、色彩、素材等については、橋りょう本体の形式及び周辺景観と調和するよう配慮する。 イ 必要に応じバルコニー等の広場を設ける場合には、周辺の環境と調和するよう配慮する。
(3) 橋詰広場	必要に応じ橋のたもとは、歩行者が休息し、また、川や橋を眺めることができるよう、周辺の景観と調和した広場の整備に配慮する。

## 3 公園・緑地

公園・緑地は、地域の中における身近な親緑空間として、憩いとうるおいを提供するとともに、景観のアクセントとなっている。このため、生活や地域コミュニティの場として、自然や文化を生かした整備に配慮する必要がある。

区 分	指 針
(1) 施設	公園内に設ける施設は、材料、意匠について、安全性、機能性に支障のない範囲で、周辺景観と調和するよう配慮し、必要に応じ自然素材の導入に努める。
(2) 緑の保全と緑化	植物の特性や施設配置を考慮して、公園の特色を生かした効果的な植栽や既存緑地の利用を図り、周辺の景観と調和した緑化に努める。 地域の自然、歴史、文化等からみて、樹容が景観上の特徴を有し、景観計画区域内の良好な景観の育成に重要なものであると認められる場合は、景観重要樹木として、その良好な景観が損なわれないよう適切に管理するよう努める。

## 4 下水道

下水道は、住民の生活環境の改善と河川の水質保全のための施設であり、地域住民と深いかわりを持っている。また、処理施設は、広大な空間に多くの施設を建設することから、地域の景観を育成する上で重要な要因となっている。このため、施設の整備に当たっては、処理場内の公園化を図るなど、周辺の景観との調和に配慮する必要がある。

区 分	指 針
(1) 処理場内の施設	意匠、色彩について、地域の特性を生かし、周辺の景観と調和するよう配慮する。
(2) 処理場内の緑化	施設配置を考慮し、植栽等を行い、周辺の景観と調和するよう努める。

## 5 河川

河川、水路、湖沼等は、古くから地域と深いかわりを保ちながら、治水、利水の両面から、人々の生活、歴史及び文化に大きな利便や影響を与えてきた。また、それらは、雄大な景

観を構成する一つの要素でもあり、その豊かな自然は、人々にやすらぎを与え、人と水とのふれあい空間として大切な場となっている。

このため、それらの整備に当たっては、水系ごとに定められている河川環境管理基本計画等との整合を図りながら、治水、利水機能に支障のない範囲で、自然環境の保全及び周辺の景観との調和に配慮する必要がある。

区 分	指 針
(1) 護岸	護岸は、構造等について、周辺の景観と調和するように配慮する。
(2) 高水敷	高水敷は、地域の特性を生かした緑化等により、周辺の景観と調和するよう配慮する。
(3) 緑の保全と緑化	ア 堤防法面等は、護岸を設ける部分を除き、緑化に努める。 イ 水辺林等の自然の緑は、洪水の流下に支障のない範囲において、保全するよう配慮する。

## 6 ダム・えん堤

治水、利水のためやむを得ず設置するダム及び砂防、治山のためのえん堤を設置する場合には、河川環境管理基本計画等との整合を図りながら、安全性等に支障がない範囲で、自然景観との調和に配慮する必要がある。

区 分	指 針
(1) 構造物	構造物及びその周辺の施設は、できる限り周辺の自然環境と調和するように配慮する。
(2) 緑の保全と親水	緑地の保全に努めるとともに、周辺地域の環境整備を図り、水と緑豊かな水辺空間の創造に配慮する。

## 7 斜面

住民の生命、財産の保全等のために行う斜面の保全は、自然斜面に施設を設置するものと、切土、盛土によって生じる斜面の安定の確保を図るものがあるが、景観育成上からも重要な要因であるため、周辺景観との調和に配慮する必要がある。

区 分	指 針
(1) 斜面の表面	安定性等を考慮した上で、できる限り周辺の景観と調和のとれた緑化に努める。
(2) 構造物	安全性等の条件に支障がない範囲で、周辺の景観と調和するように配慮する。
(2) 良好な景観を構成する要素となる樹木等	できる限り修景に生かすよう配慮する。

## 8 公共建築物

集会施設、学校施設、公共住宅等の公共建築物は、地域住民と大きなかかわりを持っている。このため、うるおいのある親しみに満ちた開放的な施設とするとともに、地域の自然的・文化的特性に配慮し、良好な地域景観を生み出すために先導的な役割を果たす必要がある。整備に当たっては、敷地内に限定せず、広く公共空間と連動させ、より良好な地域景観を創造する必要がある。

地域の自然、歴史、文化等からみて、建造物の外観が景観上の特徴を有し、景観計画区域内の良好な景観の育成に重要なものであると認められる場合は、景観重要建造物として、その良好な景観が損なわれないよう適切に管理するよう努める。

### (1) 建築物

区 分	指 針
ア 位置・配置	(ア) 山際に設置する場合は、できる限り低い位置に設置し、稜線を遮らないよう配慮する。 (イ) 敷地の形状により、建物の配置、形態を勘案し、周辺の景観と調和するよう配慮する。 (ウ) 道路、河川等の境界線からできる限り後退した位置とし、ゆとりとうるおいのある空間の創出に努める。 (エ) 敷地内に良好な樹木がある場合は、木立を生かした配置計画に努める。
イ 意匠	(ア) 周辺の景観との調和に配慮し、地域の特性を生かした意匠とするとともに、敷地内における建物相互の調和にも配慮する。 (イ) 屋根の形状は、背景となる山並み等、周辺の景観と調和するよう努める。 (ウ) 壁面は、窓辺にアクセントを持たせるなどの工夫をし、表情が豊かな建築物となるよう努める。 (エ) 建築物本体に附属する設備等は、極力目立たない位置へ設置し、目隠し等の工夫に努める。 (オ) 屋外階段、ベランダ等は、建築物本体と一体的な意匠とするよう努める。
ウ 色彩	(ア) 周辺景観との調和に配慮し、地域の特性を生かした色彩とする。 (イ) 建築物の規模、形態等に留意し、周辺の景観の基調となっている色彩との調和に配慮する。 (ウ) 建築物に附属する設備等の色彩は、建築物本体及び周辺の景観と調和するよう努める。
エ 素材・材料	(ア) 気候、風土など地域の特性に配慮するとともに、周辺の景観と調和する素材・材料を使用するよう努める。 (イ) 地域材の効果的な活用を図り、地域の特性を生かした景観育成に努める。

### (2) 敷地境界施設（門、塀等）

区 分	指 針
ア 位置	できる限り道路から後退し、オープンスペースの確保に努める。
イ 意匠	建築物本体及び周辺との調和に努めるとともに、堅固な材料を使用する場合、高さは極力低いものとし、周囲に圧迫感を与えないよう努める。
ウ 色彩	建築物本体及び隣接する敷地境界施設と整合を図り、周辺の景観との調和に努める。
エ 素材・材料	建築物本体及び隣接する敷地境界施設と整合を図るとともに、地域材の効果的な活用により、周辺の景観と調和するよう努める。

### (3) 敷地内附属施設

区 分	指 針
ア 車庫、自転車置場等	建築物本体や周辺の景観に配慮した位置、構造、色彩等とするよう努める。
イ 焼却炉、ごみ置場、浄化槽等	配置の工夫、樹木での遮へい等により、極力目立たないよう努める。
ウ 駐車場等	広範囲にわたり単調な空間が出現しないよう緑化等に努める。

#### (4) 敷地内の緑化

区 分	指 針
ア 植栽木の配置	植栽木の配置の工夫により四季を通じて、うるおいとやすらぎのある環境を作り出すよう努める。
イ 植栽	植栽に当たっては、周辺の樹木と調和した樹種や、地域の自然植生を考慮した樹種選定に努める。
ウ 敷地境界等	敷地境界等には、生垣などを活用し、周辺に調和した豊かな緑の確保に努める。

### 9 ガス・上水道

ガス及び上水道施設は、地域住民が文化的な生活を送る上で必要な施設である。供給施設の整備に当たっては、周辺環境との調和に配慮する必要がある。

区 分	指 針
(1) 施設内の建築物等の配置、意匠、色彩	施設内の建築物等の配置、意匠、色彩については、地域にふさわしい落ち着いた雰囲気を持ち、目立つことがないように努める。
(2) 施設内の敷地	施設内の敷地には、地域にふさわしい樹種の選定等に留意し、周辺景観と調和するよう緑化に努める。

### 10 農地・森林

農山村においては、自然の造形を背景として、気候風土に適した形で農林業を営む中で、地域ごとに個性ある美しい景観が生み出されてきたことから、農地は、農産物の供給地であるとともに、田園景観、里地や高原の景観を構成する重要な要素であり、森林は、林産物の生産とともに自然環境の保全等の多面的な機能を有しており、県土に占める面積の割合も大きいことから、本県の景観育成において果たす役割が大きい。

このような地域の景観を育成するためには、地域の景観に配慮しつつ、良好な営農、営林条件を確保する視点が必要となる。

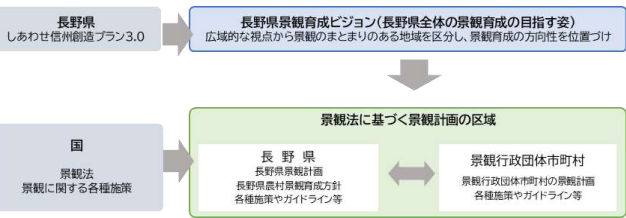
区 分	指 針
(1) 農業基盤の整備	農業基盤の整備に当たっては、自然環境の保全に十分に留意するとともに、うるおいのある農業景観の育成に努める。
(2) 森林の保育事業	森林の保育事業の実施に当たっては、多様な住民の要請に応えられる健全で活力ある森林の整備に努め、四季を彩る森林景観の育成に努める。



序章 はじめに

本計画は、長野県の各分野の計画や施策を踏まえ、長野県全域の景観育成に関する目標や方針、施策が明示された長野県景観育成ビジョンの実現、及び、景観法第8条第1項の規定により景観計画として定めるべき事項を定める。

景観計画の位置づけ



第1章 景観計画の区域

1. 景観計画の区域

長野県景観計画の区域は、景観行政団体である市町村を除く長野県の区域とする。  
区域には一般地域と景観育成重点地域の2種類を定める

景観育成重点地域

景観計画の区域のうち、信州の景観の骨格や顔となるような地域において、特に重点的に景観の育成を図る地域。



第3章 良好な景観育成のための行為の制限

一定規模以上の建築物の建築等の行為を対象に景観形成基準を定め、景観法に基づく届出制度を活用した景観育成を行う

一般地域における届出対象行為と規模（抜粋）

行為の種類	届出対象規模
(1)建築物の新築、増築、改築又は移転	高さ13m超又は建築面積1,000㎡超
(2)建築物の外観の変更	変更に係る面積が400㎡超
(3)プラント類、自動車車庫、貯蔵施設類、処理施設類の新設、増築、改築若しくは移転、外観の変更	高さ13m超又は築造面積1,000㎡超
(4)電気供給施設等の建設等	高さ20m超又は築造面積1,000㎡超
(5)太陽光発電施設の建設等	太陽電池モジュールの合計面積1,000㎡超

景観形成基準（抜粋）

行為の種類	一般地域
共通事項	信州の景観の特徴となっている眺望景観の質を高めるため、次に掲げる事項に留意し、地域への導入部となる街路等からの見通しや地域の優れた見晴らし景観と調和した一体的な景観の育成に努めること。 ア 良好な景観の育成に資する被眺望地となる景勝地等への眺望を阻害することがないよう努めること。 イ ランドマーク等への眺望を阻害することがないよう努めること。 ウ 沿道等からの眺望景観を保全するため、スカイラインの保全や周辺の基調となる優良な景観との調和に努めること。
地区別事項（田園地域）	配置：道路からできるだけ後退し、道路側に空地を確保するよう努めること。 規模：周辺の基調となる景観から著しく突出した印象を与えないような規模、建築物等と敷地との釣り合い、高さとする。こと。 形態意匠：周辺の基調となる景観に調和した形態であるとともに、全体としてまとまりのある形態とすること。 材料：周辺の景観と調和し、耐久性に優れた材料を用いること。 色彩：けばけばしい色彩とせず、できるだけ落ち着いた色彩を基調とし、周辺の田園や集落の景観と調和した色調とすること。 敷地の緑化：敷地境界には樹木等を活用し、門、塀等による場合は、周辺の景観と調和するよう配慮すること。

第2章 景観育成の基本理念と良好な景観の育成に関する方針

景観育成の基本理念

共に磨き、未来につなぐ、美しく豊かな信州の景観

良好な景観の育成に関する方針

区分	景観育成方針（抜粋）
都市地域	・歴史的・文化的資源や地域の自然環境を活かし、地域に根ざした個性ある都市の景観を育成します。 ・まち並みとしての調和に配慮し、建築物の形態、色彩などの連続性を確保します。
沿道地域	・沿道の広告物・建築物等の調和に配慮し、道路や鉄道からの眺望を確保します。
田園地域	・四季折々の変化を見せる山並みへの眺望の確保を図ります。
山地・高原地域	・都市、沿道、田園等から眺望に配慮し、美しいスカイラインを確保します。



第4章 景観法、長野県景観条例に定める事項

1. 景観重要建造物の指定の方針
- 周辺地域的情景を特徴づける建造物のうち、景観計画区域の良好な景観の育成に資するもの
2. 景観重要樹木の指定の方針
- 周辺地域的情景を特徴づける樹木のうち、景観計画区域の景観育成に資するもの
3. 景観資産の指定及び活用に関する事項
- 地域の自然、歴史、文化等からみて、当該建造物等の外観又は樹容が景観上の特徴を有し、地域の良好な景観の育成に資するもの、かつ、道路その他の公共の場所から公衆によって容易に望見されるもの
4. 屋外広告物の表示等の制限に関する事項
- 屋外広告物は、良好な景観の育成に関する方針との調和が保たれるもの
5. 景観農業振興地域整備計画の策定に関する基本的事項
- 自然の造形を背景として、地域の気候風土に適した形で農林業を営む中で、地域の景観に配慮しつつ良好な営農条件を確保する観点から策定する
6. 広域景観アセスメント制度の実施に関する方針
- 市町村界に捉われない広域的な景観誘導を図る広域景観アセスメント制度の運用方針を規定
7. 広域景観エリア協議会による景観誘導
- 景観特性により区分けを行った広域景観エリアにおける景観育成について協議会組織を設置
8. 景観整備機構の指定に関する方針
- 県と役割分担しながら、ともに良好な景観の育成を進めるため、景観の育成に資する業務を行うNPOや公益法人をその法人を長野県景観整備機構として指定する

第5章 公共施設の整備に関する事項

1. 公共施設の整備に関する基本事項

- ① 機能性、安全性、経済性及び事業の目的を踏まえた上で、デザインの向上、水辺空間・緑豊かな空間の創出等に努める。
- ② まち並みや、自然環境との調和に配慮し、地域の特性を生かすよう努める。
- ③ 事業相互の連携により、周辺景観と調和した一体的な景観の育成に努める。
- ④ 信州の景観の特徴となっている眺望景観の質を高めるため、地域への導入部となる街路等からの見通しや地域の優れた見晴らし景観と調和した一体的な景観の育成に努める。

2. 景観重要公共施設の指定及び整備に関する事項

- 広域景観エリアの骨格的な道路、河川を景観重要公共施設として指定し、良好な景観育成を進める。
- 景観重要公共施設は、対象地域の景観特性やまちづくりに資するデザインとなるよう、公共空間の高質化を進める。

付 属 資 料

---

## 長野県景観審議会への諮問

5 都第 266 号  
令和 5 年(2023 年) 8 月 4 日

長野県景観審議会長 会長 様

長野県知事 阿 部 守 一

### 長野県景観育成計画の改定について（諮問）

標記について、貴審議会の意見を求めます。

#### 諮問の趣旨

本県では、平成 4 年に自主条例として長野県景観条例（平成 4 年長野県条例第 22 号、以下「景観条例」という。）を制定し、平成 18 年に景観法（平成 16 年法律第 110 号）に基づき景観条例を改正するとともに、長野県景観育成計画（以下「景観計画」という。）を策定しました。

景観条例制定時から今日に至るまで、景観条例に基づく信州の景観の骨格や顔となる景観育成重点地域の指定による景観保全や景観育成住民協定による住民主体の景観育成、市町村の景観行政団体への移行支援や屋外広告物条例（平成 5 年長野県条例第 23 号）の運用による地域主体の景観育成を推進してきたところです。

現在、景観計画策定から 17 年が経過し、市町村の景観行政団体への移行が進む中、広域的な景観価値の向上が課題となっており、地域ごとの景観育成の基本方針を明確化し、行政界を超えた景観育成を図る必要があります。

また、社会情勢の変化に伴う新たな景観阻害要因への対応が課題となっており、景観計画に定める景観育成基準等の再検討が必要です。

これらの理由から、県民及び市町村の意向を把握するとともに、これまでの景観計画の成果と課題を整理し、より効果的な「信州らしい」景観の保全・育成を目指し、県全体及び広域的な景観育成を推進すべき地域ごとの景観育成方針を示した「長野県景観育成ビジョン（仮称）」の策定など、景観計画の改定に当たり、その方向性について貴審議会の意見を求めます。

## 審議経過

### 1 長野県景観審議会及び専門委員会における調査審議

開催日	会議事項
令和5年8月4日	<b>【第58回景観審議会】</b> ・長野県景観育成計画改定について（諮問）
令和5年8月18日	<b>【第1回専門委員会】</b> ・長野県景観育成計画改定について ・現地視察
令和5年11月30日	<b>【第2回専門委員会】</b> ・長野県景観育成計画改定の方向性について ・広域的な景観育成の検討ー諏訪湖を対象としたケーススタディー ・県民・来県者アンケートについて ・政策対話集会のテーマ検討について ・現地視察
令和6年2月19日	<b>【第59回景観審議会】</b> ・長野県景観育成計画改定の検討状況について
令和6年2月20日	<b>【第3回専門委員会】</b> ・広域的な景観育成の検討ー安曇野地域を対象としたケーススタディー ・市町村への景観施策に係るアンケートについて ・景観育成住民協定に係るアンケートについて ・政策対話集会の結果概要について ・現地視察
令和6年6月18日	<b>【第4回専門委員会】</b> ・長野県景観育成ビジョン（構成案）について ・広域景観エリアの区域分けと景観育成の方向性について ・市町村への景観施策に係るアンケートの結果概要について ・県民・来県者アンケートの結果概要について
令和6年9月11日	<b>【第5回専門委員会】</b> ・広域景観エリアの区域分けについて ・広域景観エリアシートの作成について ・長野県景観育成ビジョンの基本方針及び基本目標について ・景観育成住民協定アンケートの結果概要について
令和6年9月20日	<b>【第60回景観審議会】</b> ・長野県景観育成計画改定の検討状況について

開催日	会議事項
令和6年11月11日	<b>【第6回専門委員会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広域景観エリアシートの作成について</li> <li>・長野県景観育成ビジョンの基本目標及び基本方針について</li> <li>・景観育成に向けた基本施策の検討について</li> <li>・現地視察</li> </ul>
令和7年3月11日	<b>【第7回専門委員会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県景観育成ビジョンの骨子案について</li> <li>・長野県景観計画の見直しの骨子案について</li> <li>・景観法に基づく届出制度の運用改善について</li> </ul>
令和7年5月29日	<b>【第8回専門委員会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度の作業スケジュールについて</li> <li>・長野県景観育成ビジョン（素々案）について</li> <li>・長野県景観計画（素々案）について</li> </ul>
令和7年6月2日	<b>【第61回景観審議会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県景観育成計画改定について</li> <li>・景観法に基づく届出制度の運用改善について</li> </ul>
令和7年9月22日	<b>【第9回専門委員会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメント及び市町村への意見照会結果について</li> <li>・長野県景観育成計画改定の答申案について</li> </ul>
令和7年10月3日	<b>【第62回景観審議会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメント及び市町村への意見照会結果について</li> <li>・長野県景観育成計画改定（答申案）の確認について</li> </ul>

## 2 市町村への意見照会

実施期間	照会内容	回答数
令和7年6月18日 ～7月14日	「長野県景観育成計画の改定」の内容に対するご意見	67件

## 3 県民からの意見募集

実施期間	意見募集内容	回答件数等
令和7年7月22日 ～8月22日	「長野県景観育成計画の改定」の内容に対するご意見 (パブリックコメント)	20件

## 4 その他

### (1) 市町村との意見交換

実施期間	会議事項
令和6年7月26日 ～8月9日 ※全広域景観エリア対象	<b>【広域景観エリアの市町村意見交換会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県景観育成ビジョンの構成及び広域景観エリア設定(説明)</li> <li>・広域景観育成に向けた景観要素の共有や課題について意見交換会</li> </ul>
令和7年1月20日 ～2月7日 ※全広域景観エリア対象	<b>【広域景観エリアの景観育成に関する市町村意見交換会】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長野県景観育成ビジョン策定の概要(説明)</li> <li>・広域景観育成に向けた取組等に関する意見交換会</li> </ul>

### (2) 県民・来県者アンケート(インターネットアンケート)

実施期間	実施内容	調査対象・回答
令和6年5月25日 ～6月3日	長野県の景観育成に関するアンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内に居住する者 有効回答数：1,008件</li> <li>・過去2年以内に県内に来県、滞在経験のある者 有効回答数：1,028件</li> </ul>

### (3) 景観育成住民協定アンケート

実施期間	実施内容	調査対象・回答
令和6年5月17日 ～6月30日	景観育成住民協定の実態に関するアンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観育成住民協定地区代表者 有効回答数：55地区/149地区</li> </ul>

## 長野県景観審議会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏 名	所 属 団 体 等
あかはね な おみ 赤羽 直美	(一社)長野県建築士会 景観アドバイザー協議会会長 (株)赤羽設計事務所
いまい あつし 今井 敦	長野県市長会 (茅野市長)
うえはら み さと 上原 三知	信州大学 社会基盤研究所・農学部併任准教授
おおもり め れい 大森 女礼	まつもと城町市民コンシェルジュ代表
こさか ていじ 小坂 禎二	長野県広告美術塗装業協同組合連合会副会長 (株)電弘代表取締役
こばやし ゆ み こ 小林 由美子	建築士
○ たけやま りょうぞう 武山 良三	富山大学 顧問、名誉教授 サインデザイン専門誌『signs』編集長
なかさと ま み こ 中里 麻美子	建築士 高木建設(株)
なかむら よしあき 中村 義明	長野県町村会建設部会長 (小谷村長)
まるやま ゆきひろ 丸山 幸弘	建築士 館設計工房
やまぐち み お 山口 実緒	編集室いとぐち 代表

○ 会長

## 長野県景観審議会専門委員会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏 名	職 名 等	備 考
○ すずき のぶはる 鈴木 伸治	横浜市立大学 国際教養学部 国際教養学科 教授	都市計画
に い あきよし 二井 昭佳	国土館大学 理工学部 まちづくり学系 教授	土木・景観
いしやま ち よ 石山 千代	國學院大學 観光まちづくり学部 観光まちづくり学科 准教授	観光
あ べ しん た 阿部 伸太	東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 准教授	ランドスケープ
こさか ていじ 小坂 禎二	株式会社電弘 代表取締役	景観審議会 (屋外広告)

○ 委員長

